

・令和2年度東京スクーリング(10月期) 開講講座一覧

講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
KA01	歴史学	林 亮	2	B11100	歴史学		オンデマンド予定		1年	
KA02	政治学	閑根 二三夫	2	B11700	政治学		オンデマンド予定		1年	
KA03	心理学	須永 篤明	2	B12100	心理学		オンデマンド予定		1年	夏期スクーリング須永先生の同科目を受講している場合は受講不可。
KA04	英語 C	マイケル ギルロイ	1	C10100	英語 I		オンデマンド予定	40	1年	・I ~ IVのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。
				C10200	英語 II					
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
KA05	体育実技 A	高橋 正則	1	J101S0	体育実技 I	×	オンデマンド予定	200	1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
KA06	国語学演習	荻野 繩男	1	M401S0	国語学演習 I		オンデマンド予定 対面の可能性有	40	3年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。
				M402S0	国語学演習 II					
				M403S0	国語学演習 III					
KA07	イギリス文学史 II	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史 II		オンデマンド予定	60	2年	
KA08	スピーチコミュニケーション I	アレックス ブラウン	1	N30900	スピーチコミュニケーション I		オンデマンド予定	60	2年	
KA09	英語学演習 B	桑山 啓子	1	N401S0	英語学演習 I		オンデマンド予定 対面の可能性有	40	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。
				N402S0	英語学演習 II					
				N403S0	英語学演習 III					
KA0A	英米文学演習 B	佐藤 秀一	1	N404S0	英米文学演習 I		オンデマンド予定 対面の可能性有	40	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。
				N405S0	英米文学演習 II					
				N406S0	英米文学演習 III					
KA0B	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読		オンデマンド予定		2年	
KA0C	東洋史演習	綿貫 哲郎	1	Q403S0	東洋史演習 I		オンデマンド予定 対面の可能性有	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充當科目コードを必ず記入してください。	
				Q404S0	東洋史演習 II					
KA0D	租税論	鵜藤 俊英	2	R31700	租税論		オンデマンド予定		2年	
KA0E	商品学	本條 晴一郎	2	S30300	商品学		オンデマンド予定		2年	
KA0F	教育の社会学	廣田 照幸	2	T20100	教育の社会学	×	オンデマンド予定		2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
KA0G	国語科教育法 II	野澤 拓夫	2	T20400	国語科教育法 II	×	オンデマンド予定 対面の可能性有	40	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
KA0H	博物館資料保存論	青木 繁夫	2	Y20700	博物館資料保存論	×	オンデマンド予定	60	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

注意事項

・開講方法は、変更が入る可能性があります。

講座内容（シラバス）

〔歴史学〕

林 亮

◆授業概要 フランスの歴史を通じて、「ヨーロッパ」という社会の成り立ちについて学習する。今日に至るまで西洋の歴史を通じて大きな影響を与え続け、「民主主義」や「国民主権」といった現代社会の根本的価値観を打ち立てたフランスの歴史には、学ぶべき多くの要素があるだろう。

◆学修到達目標 1) 古代・中世・近世・現代と区分されるヨーロッパの各時代において、フランスでどのような出来事がどのような順番、因果関係をもって起きたのかを具体的に述べることができる。
2) それぞれの出来事が、どのような意味を持つのかを説明できる。
3) ヨーロッパの歴史を背景として把握した上で、ヨーロッパ全体に関わる諸問題について評価することができる。

◆授業方法 授業において、資料や解説の配信、小テストの解答等は Classroom 内で行う。

各回指定したテキスト範囲を読んで理解した上で、配布資料と配信動画で解説を行う。各回授業内容の確認として小テストを行う。小テストに対するフィードバックとしては、授業内容のまとめの機会を設け解説する。また、Classroom 内で随時質疑応答を行う。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、授業計画を若干変更することがある。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	ガイダンス ※授業のテーマや到達目標について、授業の進め方や事前学修・事後学修の方法について、また評価の方針について説明する
	事前学修	シラバスをよく読み、授業概要や授業計画について概要を把握しておくこと
	事後学修	第2回以降の授業に備え、西洋史の主な時代区分やヨーロッパの大まかな地理、地名などに慣れるようにする
2回	授業内容	中世前期
	事前学修	教科書の第1章・第2章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「フランク王国」「ポスト・カロリング時代」の概要を整理し、説明できるようにする
3回	授業内容	中世フランス王国
	事前学修	教科書の第3章・第4章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「中世フランス王国」の概要を整理し、説明できるようにする
4回	授業内容	近世フランス王国
	事前学修	教科書の第5章・第6章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「近世フランス王国」の概要を整理し、説明できるようにする
5回	授業内容	フランス絶対王政
	事前学修	教科書の第7章・第8章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「絶対王政」の概要を整理し、説明できるようにする
6回	授業内容	フランス革命の勃発
	事前学修	教科書の第9章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「フランス革命の発端」の概要を整理し、説明できるようにする
7回	授業内容	フランス革命の展開
	事前学修	教科書の第10章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「フランス革命の展開」の概要を整理し、説明できるようにする
8回	授業内容	ナポレオン時代
	事前学修	教科書の第11章・第12章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「ナポレオン時代」の概要を整理し、説明できるようにする
9回	授業内容	19世紀前半：ウィーン体制下のフランス
	事前学修	教科書の第13章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「復古王政・七月王政」の概要を整理し、説明できるようにする
10回	授業内容	19世紀後半：二回目の共和政と帝政
	事前学修	教科書の第14章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「第二共和政・第二帝政」の概要を整理し、説明できるようにする
11回	授業内容	第三共和政
	事前学修	教科書の第15章・第16章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「第三共和政」の概要を整理し、説明できるようにする
12回	授業内容	第一次世界大戦
	事前学修	教科書の第17章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「第三共和政」の概要を整理し、説明できるようにする
13回	授業内容	両大戦間期
	事前学修	教科書の第18章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「戦後の国際協調」「全体主義の台頭」の概要を整理し、説明できるようにする
14回	授業内容	第二次世界大戦と戦後のヨーロッパ
	事前学修	教科書の第19章を熟読し要点を整理しておく
	事後学修	「第二次世界大戦」「戦後のヨーロッパ」の概要を整理し、説明できるようにする
15回	授業内容	授業のまとめ
	事前学修	14回までの授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと
	事後学修	授業全体の内容について改めて整理し、理解すること

◆教科書 因沼 福井憲彦『教養としての「フランス史」の読み方』PHP 出版 (2019)
※ Kindle 版の利用も可とする。

◆参考書

◆成績評価基準 授業参画度 (100%)

授業中随時行う小テスト等による授業参画度に応じて、総合的に評価する。評価にあたっては授業期間全てに参加していることが前提になる。

◆授業相談（連絡先）：初回の授業時に伝える

注意

◆授業概要 基礎教育としての講義を行います。政治学の変遷、政治の概念、政治の本質、政治権力、国家、議会政治、立法部と行政部、選挙、政党、圧力団体、コミュニケーション、リーダーシップについて学びます。

◆学修到達目標 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会や個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。

◆授業方法 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆授業計画

授業内容		
1回	授業内容	政治学の変遷
	事前学修	参考書の第1章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
2回	授業内容	政治の概念
	事前学修	参考書の第1章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
3回	授業内容	政治の本質
	事前学修	テキストの第1章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
4回	授業内容	政治権力
	事前学修	テキストの第1章第2節及び参考書の第2章第4節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
5回	授業内容	国家
	事前学修	参考書の第3章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
6回	授業内容	議会政治
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
7回	授業内容	立法部と行政部（議院内閣制）
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
8回	授業内容	立法部と行政部（大統領制）
	事前学修	テキストの第5章及び参考書の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
9回	授業内容	選挙（選挙制度及び選挙区）
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第1節及び第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
10回	授業内容	選挙（代表選出の形態）
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
11回	授業内容	政党（概念・特徴・形態）
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
12回	授業内容	政党（機能・問題点）
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
13回	授業内容	圧力団体
	事前学修	テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
14回	授業内容	コミュニケーション
	事前学修	参考書の第6章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
授業内容		
15回	授業内容	リーダーシップ
	事前学修	参考書の第2章第5節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

◆教科書 『政治学 B11700』 通信教育教材（教材コード000279）

◆参考書（参考文献等） 『改訂版 教養政治学』 岩井奉信、黒川貢三郎、関根二三夫他、南窓社、2012年

◆成績評価基準 試験70%、平常点30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席しないように注意して下さい。

講座内容（シラバス）

〔心理学〕

須永 範明

◆授業概要 心理学は、人間の心の働きを科学的に研究する学問である。この講義では脳と心の関わりをテーマとする。心の働きは脳によって担われている。心の働きには、感覚・知覚、記憶、感情、動機づけなどがあるが、脳がこれらの機能をどのように実現しているか解説していく。学生の皆さんにはこれらの知見を学ぶことを通して、人間の心とはどのようなものか、理解を深めていただきたい。

◆学修到達目標 1. 神経系の構造について基礎的知識をいくつか説明できる。
2. 感覚・知覚、記憶、感情、動機づけなど代表的な心の働きが脳によってどのように支えられているか、おおまかに述べることができる。
3. 高次脳機能障害および心理障害と脳との関係についていくつか説明できる。

◆授業方法 授業はオンライン型の遠隔授業で行なう。毎回の授業は、動画視聴と課題からなる。動画と課題は Google Classroom に置かれている。動画は、その回の授業内容を解説するものとなっている。課題は、授業内容をどの程度理解したか確認する問題からなる。履修生は毎回の授業内容について、教科書と Google Classroom で公開する資料等で予習する。次に、Google Classroom 上で動画を視聴し、課題に取り組む。課題への解答は即座に採点され、正答数などのフィードバックを受け取ることができる。不正解となった箇所については復習すべき内容をフィードバックのなかで指示する。質問等は Classroom 上での投稿あるいはメールで随時受け付ける。

◆履修条件 令和2年度夏期スクーリング受講者は履修不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：脳と心の関わりを研究する生理心理学についておおまかに解説する。 事前学修：教科書や配付資料、インターネットなどで、生理心理学について学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、理解した内容を確認する。
2回	授業内容：心と体の関係 心と体の関係は哲学ではどのように捉えてきたかを述べて、現代の神経科学ではどのような立場をとるのか解説する。 事前学修：心と体に関する哲学者たちの考え方について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、心と体に関する哲学的議論と現代の神経科学者の立場を確認する。
3回	授業内容：脳の動作のしくみ 脳を構成する基本要素である、神経細胞の働きについて解説する。 事前学修：神経細胞について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、神経細胞とその働きについて確認する。
4回	授業内容：脳と知覚 おもに視覚を取り上げて感覚・知覚の脳機構を解説する。 事前学修：視覚、眼球、視神経、視覚野について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、視覚の神経系について確認する。
5回	授業内容：脳と記憶 側頭葉内側部の働きを中心にして記憶の脳機構を解説する。 事前学修：記憶と関係の深い脳部位について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、海馬など側頭葉内側部と記憶との関係について確認する。
6回	授業内容：脳と学習 学習の基礎と考えられている脳の可塑性と長期増強について解説する。 事前学修：脳の可塑性と長期増強について、教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、学習と関係の深い脳の現象について確認する。
7回	授業内容：脳と情動 情動と関係の深い脳部位について解説する。 事前学修：情動と脳の関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、扁桃体や前頭眼窩野の働きを確認する。
8回	授業内容：脳と行動機づけ(1) 摂食行動と関わる脳の機構について、報酬系に焦点をあてながら解説する。 事前学修：食欲と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、視床下部、報酬系の働きについて確認する。
9回	授業内容：脳と行動機づけ(2) 達成行動機づけと親和行動機づけに関わる脳の部位、機能について解説する。 事前学修：達成行動機、親和行動機と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、テストステロンとオキシトシンの働きについて確認する。
10回	授業内容：大脳半球機能の左右差 言語等を題材に大脳半球機能の左右差について解説する。 事前学修：言語と関係の深い脳部位について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、言語野の位置と働きについて確認する。
11回	授業内容：脳と生体リズム、意識 睡眠・覚醒などの生体リズム現象をつくる脳機構および夢や瞑想時の意識変化を反映する脳機構について解説する。 事前学修：睡眠および意識と関係の深い脳機能について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、生体リズムおよび意識と関わる脳の働きについて確認する。
12回	授業内容：脳の発達と障害 脳の発達と知的障害や学習障害などとの関係について解説する。 事前学修：加齢に伴う脳の変化および知的障害・学習障害と脳の関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、脳の発達および知的障害・学習障害と関わる脳の働きについて確認する。
13回	授業内容：発達障害と脳 自閉スペクトラム症、注意欠如多動症といった発達障害と脳との関係について解説する。 事前学修：発達障害およびそれと脳の関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、発達障害と脳の働きとの関係について確認する。
14回	授業内容：心の病気と脳 心の病と脳の働きとの関係について解説する。 事前学修：いわゆる「心の病」と脳との関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、精神障害と脳機能との関係について確認する。
15回	授業内容：心の病気の治療法と脳 心の病の治療法の基礎にある脳の働きについて解説する。 事前学修：精神障害の治療法と脳との関係について教科書や配付資料、インターネットなどで学ぶ。 事後学修：動画の授業内容をノートに整理し、配布資料の該当部分を復習して、精神障害の治療法と脳機能との関係について確認する。

◆教科書 国沼『生理心理学』第2版 岡田隆・廣中直行・宮森孝史 サイエンス社 2015年

◆参考書 国沼『ビジュアル版 新・脳と心の地形図』リタ・カーター 原書店 2012年

国沼『フレインブック みえる脳』リタ・カーター 南江堂 2012年

国沼『神経科学—脳の探求』M. ベラー、B. W. コノース、M. A. バラディー 西村書店 2007年

国沼『バイオサイコロジー 脳一心と行動の神経科学』J. ピネル 西村書店 2005年

◆成績評価基準 課題(50%)と試験(50%)に基づいて評価する。課題は Google Classroom に置かれ、毎回の授業内容ごとに課す。試験は客観式の問題数十問からなり、Google Classroom 上で実施する。

◆授業相談（連絡先）：Google Classroom への投稿あるいはメールで質問・相談等にお答えする。

注意

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

英語

マイケル ギルロイ

- ◆授業概要 To enhance students' reading, listening comprehension, writing skills, grammar, enlarge vocabulary and boost self confidence.
- ◆学修到達目標 Help students' develop aural and oral fluency through engaging content and practical practices. Units are thematically structured, including topics which appear in daily conversations.
- ◆授業方法 Students will work individually, in pairs and in groups to complete in class exercises. Activities include reading, writing, listening, role-plays and discussions.
- ◆履修条件 令和元年度昼間スクーリング（前期）「英語A」「英語M」（マイケルギルロイ）とは積み重ね不可。
令和2年度昼間スクーリング（前期）「英語F」（マイケルギルロイ）とは積み重ね不可。
- ◆授業計画【各90分】

1回	授業内容: Introductions - Greeting to know each other. 事前学修: Enthusiasm, dictionary, paper and pencil 事後学修: Will be decided. (W. B. D.)
2回	授業内容: Family and Friends. 事前学修: Homework (H/W), think about "Family" 事後学修: W. B. D.
3回	授業内容: Friends. 事前学修: H/W, think about "Customs" 事後学修: W. B. D.
4回	授業内容: Customs - Japan. 事前学修: H/W 事後学修: W. B. D.
5回	授業内容: Custom - Global. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
6回	授業内容: Education. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
7回	授業内容: Sports 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
8回	授業内容: Sports 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
9回	授業内容: Work. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
10回	授業内容: Food 1. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
11回	授業内容: Food 2. 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
12回	授業内容: Studying English 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D.
13回	授業内容: Health 事前学修: H/W review 事後学修: W. B. D., and course review.
14回	授業内容: Review / Warm up / Test. 事前学修: Study of all topics covered. 事後学修: Brainstorm summer.
15回	授業内容: Summer Topic. 事前学修: Last week's H / W 事後学修: Have a wonderful summer vacation.

- ◆教科書 **丸善 "English Listening and Speaking Patterns 2" Andrew E. Bennett. NAN'UN-DO**
【当日資料配布】 Supplementary handouts. Interactive games.

- ◆参考書 なし

- ◆成績評価基準 Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

〔体育実技Ⅰ・Ⅱ〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆授業概要 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的方法を理解し、スポーツ実践に取り組むとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実技に反映させています。

◆学修到達目標 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようにになる。

◆授業方法 この科目は、オンデマンドおよび課題研究方式によるオンライン授業となります。各授業の課題は、運動課題と研究課題で構成しています。運動課題は、体力テストを含んでおり、室内で可能な内容としていますが、運動前後にはウォーミングアップとクーリングダウンを入念に行うことが必須となります。また研究課題は、日常生活において健康の維持増進に役立つ内容等を念頭に、それぞれ資料に基づいて学習し、クイズへの解答やリアクションペーパーの提出を求めます。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

回	授業内容	事前学修	事後学修
1回	ガイダンス（授業の方法、スケジュール、安全管理、そのた注意事項等）、体力テスト、体力テスト結果の自己評価	前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2回	ドローン、スポーツの歴史	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
3回	閉眼片足立ち、熱中症予防について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
4回	ワイドスクワット・クランチ・ブッシュアップ、メタボリックシンドロームと発生原因	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5回	ダンベル体操、スポーツを営む権利について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
6回	ワイドスクワット・クランチ・ブッシュアップ・足踏み30秒、スポーツ事故の訴訟について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
7回	プランク＆リバースプランク、自覚的運動強度について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8回	有酸素運動、有酸素運動の運動強度（カルボーネン法）	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
9回	タオルストレッチ、救命処置（AED等）について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
10回	スクワットエクササイズ、朝食の重要性	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11回	座位運動、ストレスについて	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
12回	有酸素運動、運動好きと運動嫌いについて	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
13回	10回立ち上がりテスト、オーバーヘッドバランススクワット、ストレスの生理的メカニズムと健康被害	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14回	立ち上がり能力テスト、呼吸調整法によるリラクセーション	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
15回	ラジオ体操第三、第1～15回授業のまとめ	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆教科書

◆参考書 大学生のための最新健康・スポーツ科学 日本大学文理学部体育学研究室 編、八千代出版

◆成績評価基準 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

講座内容（シラバス）

〔国語学演習Ⅰ～Ⅲ〕 オープン受講：不可

荻野 綱男

◆授業概要 テーマはWWW検索による日本語研究である。WWWは検索エンジンを通じて簡単に検索できるようになっている大規模データベースである。これを活用するテクニックを身につけるとともに、実際にWWWを検索し、その結果を検討することを通じて、先行研究の論述の一部を自分で確認する。可能ならば、先行研究の記述に反論することが望ましい。

◆学修到達目標 検索エンジンの高度な使い方を知り、検索エンジンを活用して、インターネット（WWW）にある各種文章を自由に検索することができるようになる。また、その結果に基づいて、自力で日本語の現状を確認することができるようになる。その上で、日本語に関する既存の論文の記述の妥当性について検証することができるようになる。これらの一連の研究過程を他人に説明できるようになる。

◆授業方法 7回はオンデマンド型の授業になる。いろいろなWebの利用について解説があり、受講者は毎回の課題を実行し、宿題を提出する。途中で各自のレポート課題を提出し、それが妥当か否かを検討する。10月10日（土）と11日（日）は8回分の対面式のスクリーリングを行う。このとき、各受講者がレポート課題の中間発表を行い、全員で討議する。最後には、各受講者が中間発表を書き直して、レポートとして提出する。

◆履修条件 レポートを電子的に作成し、メールの添付ファイルとして荻野に送信できること

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	イントロダクションと先行研究の探し方、レポートの書き方
	事前学修	教科書をざっと読み、内容の概略を把握しておくこと
	事後学修	各自で日本語学の論文を探し、研究テーマの案を2件程度作成すること
2回	授業内容	WWWの調べ方 1 検索の基礎と用例の扱い方
	事前学修	各自の興味のあるテーマの先行研究を調べること
	事後学修	授業で学んだことがどんなテーマにどう活用できるか確認すること
3回	授業内容	WWWの調べ方 2 期間指定検索
	事前学修	各自の興味のあるテーマの先行研究を調べること
	事後学修	授業で学んだことがどんなテーマにどう活用できるか確認すること
4回	授業内容	WWWの調べ方 3 国会会議録の検索
	事前学修	各自の興味のあるテーマの先行研究を調べること
	事後学修	授業で学んだことがどんなテーマにどう活用できるか確認すること
5回	授業内容	WWWの調べ方 4 国語研 Web コーパスと梵天による検索
	事前学修	各自の興味のあるテーマの先行研究を調べること
	事後学修	授業で学んだことがどんなテーマにどう活用できるか確認すること
6回	授業内容	WWWの調べ方 5 ツイッターの検索
	事前学修	各自の興味のあるテーマの先行研究を調べること
	事後学修	授業で学んだことがどんなテーマにどう活用できるか確認すること
7回	授業内容	レポートの課題の検討
	事前学修	それぞれの履修者の研究計画を検討し、何か問題はないか、チェックしておくこと
	事後学修	それぞれの履修者の研究計画を見直し、どうすれば実行が可能か、確認すること
8回	授業内容	各自の調査結果の発表 1 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
9回	授業内容	各自の調査結果の発表 2 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
10回	授業内容	各自の調査結果の発表 3 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
11回	授業内容	各自の調査結果の発表 4 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
12回	授業内容	各自の調査結果の発表 5 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
13回	授業内容	各自の調査結果の発表 6 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
14回	授業内容	各自の調査結果の発表 7 3人の発表を予定する
	事前学修	発表者は発表内容をプリントにまとめておくこと
	事後学修	各発表の長所・短所を確認しておくこと。発表者は授業中のコメントに基づいて書き直すこと
15回	授業内容	総合的な討議（質疑）と科目全体としてのまとめ
	事前学修	それぞれの発表全体を復習して、疑問点などをまとめておくこと
	事後学修	質疑応答を各自でまとめ、どういうことが重要か、特にレポート執筆の面から復習すること

◆教科書 丸沼『ウェブ検索による日本語研究』荻野綱男 朝倉書店 2014

◆参考書 丸沼『講座 ITと日本語研究 6 コーパスとしてのウェブ』荻野綱男・田野村忠温編 明治書院 2011

◆成績評価基準 授業への参画度（他人の発表内容への質疑） 20%， レポート（中間発表を書き直したもの） 80%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔イギリス文学史Ⅱ〕

猪野 恵也

◆授業概要 18世紀からヴィクトリア朝末期までの代表的な作家及び作品を紹介し、考察する。時と場所があまりにも違うので作品鑑賞に必要な想像力を育むために、映画化されたものは各自DVDなどで観てほしい。

◆学修到達目標 1. 時代における代表的な作家と作品について知り、触れることができる。2. 英文の抜粋を少し読むので様々な文体の英語に触れることができる。3. 作品の解釈の仕方を知ることができる。

◆授業方法 オンデマンド形式。時代背景、各作家の生涯及び代表的な作品に触れ、作品を一つ選択し、読んでいく。授業一回につきリアクションペーパーを書いてもらう。

◆履修条件 令和2年度履修スケーリング「イギリス文学史Ⅱ前期」との積み重ね不可

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	18世紀のイギリス文学概観
	事前学修	イギリス文学史において18世紀イギリス文学史を学修する。
	事後学修	授業で紹介した作品群を原文で読む。
2回	授業内容	WordsworthとColeridge
	事前学修	イギリス文学史においてロマン派詩人を学修しておく。
	事後学修	WordsworthとColeridgeによる詩を原文で精読する。
3回	授業内容	John Keatsについて
	事前学修	Keatsは代表的なロマン派詩人なのでよく学修しておく。
	事後学修	John Keatsの詩を原文で精読する。
4回	授業内容	Jane Austen及びPride and Prejudice(1813)
	事前学修	イギリス文学史においてJane Austenについて学修しておく。
	事後学修	Pride and Prejudice(1813)を原文で読む。映画「プライドと偏見」を観る。
5回	授業内容	Charlotte Bronte及びJane Eyre(1847)
	事前学修	イギリス文学史においてCharlotte Bronteについて学修しておく。
	事後学修	Jane Eyre(1847)を原文で読む。
6回	授業内容	Emily Bronte及びWuthering Heights(1847)
	事前学修	イギリス文学史においてEmily Bronteについて学修しておく。
	事後学修	Wuthering Heights(1847)を原文で読む。
7回	授業内容	Charles Dickens及びOliver Twist(1838)
	事前学修	イギリス文学史においてCharles Dickensについて学修しておく。
	事後学修	Oliver Twist(1838)を原文で読む。
8回	授業内容	Thackery及びVanity Fair(1847-1848)
	事前学修	イギリス文学史においてThackeryについて学修しておく。
	事後学修	Vanity Fairを原文で読む。
9回	授業内容	Thackery及びVanity Fair(1847-1848)の続き
	事前学修	イギリス文学史においてThackeryについて学修しておく。
	事後学修	Vanity Fairを原文で読む。
10回	授業内容	George Eliot及びMiddlemarch(1871-1872)
	事前学修	イギリス文学史においてGeorge Eliotについて学修しておく。
	事後学修	Middlemarchを原文で読む。
11回	授業内容	Thomas Hardy及びTess(1891)
	事前学修	イギリス文学史においてThomas Hardyについて学修しておく。
	事後学修	Tessを原文で読む。
12回	授業内容	Henry James及びThe Portrait of a Lady(1881)
	事前学修	イギリス文学史においてHenry Jamesについて学修しておく。
	事後学修	The Portrait of a Ladyを原文で読む。
13回	授業内容	Joseph Conrad及びHeart of Darkness(1902)
	事前学修	イギリス文学史においてJoseph Conradについて学修しておく。
	事後学修	Heart of Darknessを原文で読み、フランシス・コッポラ監督の「地獄の黙示録」を観る。
14回	授業内容	Oscar Wilde及びThe Picture of Dorian Grey(1890)
	事前学修	イギリス文学史においてOscar Wildeについて学修しておく。
	事後学修	The Picture of Dorian Greyを原文で読む。
15回	授業内容	試験
	事前学修	今までの授業内容をじゅうぶん時間をかけて復習する。
	事後学修	イギリス文学史を改めて読み、再読したい作品や読んでいない作品を読む。

◆教科書 当日資料配布

丸沼『イギリス文学史』川崎寿彦著 成美堂

◆参考書 授業中指示する。

◆成績評価基準 試験(60%) 授業への取り組み等(40%) リアクションペーパーの回答の内容を精査し、授業参画度の点数とする。

◆授業相談(連絡先) : ino0703@hotmail.co.jp (平日のみ受け付ける)

注意

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

【スピーチコミュニケーションⅠ】 オープン受講：不可

アレックス ブラウン

◆授業概要 This course is based on a topic based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used with each topic. Students will perform activities using the language covered in groups.

◆学修到達目標 This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context. Interaction with other classmates happens frequently.

◆授業方法 The teacher will give instructions and examples as each topic is introduced. Students will prepare to execute tasks each class while using the target language to engage in discussions with other students.

◆履修条件 The course is open to all students. The language and activities are set for pre-intermediate levels.

◆授業計画【各90分】

1回	授業内容: Welcome to Speech Communication 1 事前学修: Orientation and class introduction 事後学修: Study classroom language.
2回	授業内容: Prepare to ask/answer icebreaker questions. 事前学修: Students will gather info from each other and record their findings 事後学修: Go over the notes for Topic 1.
3回	授業内容: Topic 1 Daily Routines 事前学修: Listen to the audio and role play the script 事後学修: Complete homework.
4回	授業内容: Prepare homework for review 事前学修: Create survey questions and ask 5 students. 事後学修: Prepare a report of your findings
5回	授業内容: Report your findings to the group. 事前学修: Movie questions 事後学修: Vocabulary review
6回	授業内容: Make sentences using the vocabulary. 事前学修: Ned Kelly activity 事後学修: Finish the fill in the blank activity.
7回	授業内容: Review notes for character-driven stories. 事前学修: Topic 2 Past progressive stories. 事後学修: Review Topic 2 notes.
8回	授業内容: Prepare for the activity, "the best part of my week was..." 事前学修: Intro to the Movie Report 事後学修: Research for your Movie Report
9回	授業内容: Report to the group and hand in your Movie Report 事前学修: Create follow up questions for Movie Report Q&A. 事後学修: Review Topic 3 notes
10回	授業内容: Topic 3 intro and activities 事前学修: Personality vocabulary 事後学修: Topic 3 Homework
11回	授業内容: Study and complete the work on Personality 事前学修: Description games 事後学修: Prepare the survey questions for topic 3
12回	授業内容: Study Appearance vocabulary 事前学修: Partner role plays 事後学修: Review notes on Appearance.
13回	授業内容: Prepare for your vocab brainstorm session. 事前学修: Q&A forms on Appearance and Personality. 事後学修: Review vocabulary for Appearance and Personality.
14回	授業内容: Prepare all class notes for a term review 事前学修: Complete the review guide 事後学修: Study for the up and coming tests
15回	授業内容: Prepare for the Speaking Test 事前学修: Speaking Test and Writing Test 事後学修: Look forward to summer!

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 当日資料配布

◆成績評価基準 Grades will be based on participation and in-class assignments (60%), a mid-term report (10%) and a speaking test (15%) and writing test (15%).

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容 (シラバス)

〔英語学演習〕

桑山 啓子

◆授業概要 「英語学」にはどのような分野が含まれるのか、その中で「英語史」はどのようなことを研究する学問なのかを説明し、英語が成立した頃から現代英語まで、どのように英語が変化したのかを授業で学びます。

◆学修到達目標 「英語」という言語がどのような複雑な歴史をたどって現代英語に到達したのかを学び、説明できるようになる。同時に言語変化と言語について自分なりの考えをまとめることが出来る。

◆授業方法 テキストは昨年度使用した David Crystal の 'The History of English' の後半部分を読む。Chapter 1, Chapter 2 の概略を教師が説明してから、Chapter 3-Chapter 4 を読む。テキスト本文の英語を和訳しながら、内容を説明する。学生は個人、またはグループでの発表で予め決められた担当部分の和訳と説明を行う。担当部分は初日の最初の時間で発表する。

◆履修条件

◆授業計画 (各 90 分)

1回	授業内容	ガイダンス (授業の進め方等に関する説明) / 「英語学」とはどのような学問であるのか、「英語学」の分野についての説明 / イギリスの歴史と英語史の概略を説明 / Chapter 1-2 の重要なところを中心に説明。
	事前学修	「英語史」に関する参考書に目を通じて英語がどのように変化したのかを概略的にどうえる。テキスト Chapter 1-2 を読み、参考書を使用しながら内容を理解する。
	事後学修	授業で学んだ内容を参考書を使いながら復習する。特にイングランドの歴史と英語の歴史を合わせながら近代英語までどのように変化していったのかを復習する。
2回	授業内容	第1回の授業の復習。Chapter 3: pp.53-56 I.16 の英文の和訳。キャクストンと印刷機が英語に与えた影響について説明する。
	事前学修	Chapter 3: pp.53-56 I.16 の英文の和訳。分からなかったところをチェックしておく。キャクストンと印刷機の導入が英語にどのような影響を与えたのか調べる。
	事後学修	事前学修で分からなかったところを復習。授業で学んだ内容を確認する。
3回	授業内容	Chapter 3: 'RENAISSANCE' p.56 I.18 - p.60 I.28 を和訳する。ルネサンス期にどのような外来語が英語に入ってきたのかを説明。
	事前学修	p.56 I.18 - p.60 I.28 を和訳。ルネサンス期の代表的な文学作品と英語に入ってきた外来語について調べる。
	事後学修	事前学修で分からなかったところを復習。授業で学んだ内容を確認する。ルネサンス期の外来語を種類別にまとめる。
4回	授業内容	第3回の授業の内容を復習して Chapter 3: 'RENAISSANCE' の後半部分 (p.60 I.29 - p.62 I.14) を和訳して、第3回に続き外来語についてのテキストの説明を確認する。Chapter 3: 'SHAKESPEARE AND THE BIBLE' (p.62 I.15 - p.65 I.31) の英文を和訳してシェークスピアの作品と聖書が英語の歴史に与えた影響を説明。
	事前学修	p.60 I.29 - p.62 I.14 を和訳して外来語のことについてまとめる。p.62 I.15 - p.65 I.31 を和訳する。シェークスピアの作品についてと The Authorized Version について調べる。
	事後学修	p.60 I.29 - p.65 I.31 を復習する。シェークスピアの作品と The Authorized Version について事前学修で調べたことと授業で学習したことを合わせて復習する。
5回	授業内容	4回の授業の内容を復習してから Chapter 3: 'SHAKESPEARE AND THE BIBLE' (p.66 - p.70) の英文を和訳して、シェークスピアの時代に起こった文法的な変化を確認する。
	事前学修	p.66 - p.70 の英文を和訳。シェークスピアの時代に起こった英語の変化を参考書等で調べる。
	事後学修	テキスト p.66 - p.70 の英文を復習する。事前学修で調べたことと授業で学習したことと合わせて復習する。
6回	授業内容	Chapter 3: 'THE AGE OF THE DICTIONARY' (p.71 - p.74 I.19) を和訳して、16世紀からどのような辞書が編纂されたのか、英語に対してどのような人々がどのような考え方で、どのようなことをしたのかテキストから確認する。
	事前学修	p.71 - p.74 I.19 を和訳。初期の辞書の編纂について、編纂した人々やどのような辞書を編纂したのかを参考書等で調べる。テキストの英文の事前学修でわからなかったところや間違えて解説していたところを見直す。辞書の編纂について授業で学習したことを合わせてもう一度確認する。
	事後学修	第6回の復習。Chapter 3: 'THE AGE OF THE DICTIONARY' の後半 (p.74 I.20 - p.77) を和訳して内容を確認。
7回	授業内容	p.74 I.20 - p.77 を和訳。英文の分からない単語を辞書で調べて、内容の分からない場所はチェックしておく。授業で読み直し、事前学修で分からなかったところを中心に復習する。
	事前学修	
	事後学修	
8回	授業内容	Chapter 3: 'Words Then and Now' (p.80 - 84) を和訳して、どのような分野に外来語が入ってきたのか説明。
	事前学修	Chapter 3: 'Words Then and Now' (p.80 - 84) を和訳。英文の分からなかったところをチェックしておく。18世紀以降に入ってきた外来語について調べる。
	事後学修	p.80 - 84 を読み直し、事前学修で分からなかったところを中心に復習する。テキスト、参考書等から 18世紀以降に入ってきた外来語を分野別にまとめる。
9回	授業内容	Chapter 4 English Around the World: この章では英語がどの国でどのような使われ方をしているのかを見していく。pp.85 - 88 の英文を和訳して、スコットランドの英語について内容を確認。
	事前学修	pp.85 - 88 の英文を和訳。スコットランドの英語の特徴について参考書等で調べる。
	事後学修	pp.85 - 88 の英文を読み直し、授業で学習したことを合わせてスコットランドの英語の特徴についてまとめる。
10回	授業内容	第9回の復習をして、引き続き pp.89 - 90 の英文を和訳して、スコットランドの英語とイングランドの英語の違いを確認する。その後で pp.91 - 94 の 'Ireland' を和訳してアイルランドで話されている言語について説明。
	事前学修	pp.89 - 94 の英文を和訳。スコットランドの英語とアイルランドの英語がイギリス英語とどのように違うのか調べる。
	事後学修	pp.89 - 94 の英文を読み直し、授業で学んだことを確認する。
11回	授業内容	Chapter 4: 'America' (p.94 I.25 - p.99 I.14) の英文を和訳してヨーロッパのどの国からアメリカに入植して、英語がどのように変わったのかを見ていく。
	事前学修	p.94 I.25 - p.99 I.14 の英文を和訳。ヨーロッパのどの国から、どのような理由でアメリカに入植したのか調べる。
	事後学修	p.94 I.25 - p.99 I.14 を復習する。アメリカにヨーロッパから最初に入植してから合衆国建国までの歴史を再度確認。
12回	授業内容	Chapter 4: 'America' (p.99 I.14 - p.105) の英文を和訳して、アメリカで作られた新語などを確認する。
	事前学修	p.99 I.14 - p.105 の英文を和訳。どのような言語がアメリカ英語の語彙に影響を与えたのか、どの言語からどのような語がアメリカ英語に入ってきたのかを調べる。
	事後学修	p.99 I.14 - p.105 の英文を読み直して、アメリカの歴史と合わせてアメリカ英語の特徴、特に語彙についてまとめる。
13回	授業内容	Chapter 4: 'British and American English' (p.123 I.18 - p.129) の英文を和訳して、アメリカ英語とイギリス英語の違いを確認する。語彙、発音、文法面からまとめる。
	事前学修	p.123 I.18 - p.129 の英文を和訳。アメリカ英語とイギリス英語の違いをテキストからまとめて、更に参考書等で調べておく。
	事後学修	p.123 I.18 - p.129 の英文を読み直してアメリカ英語とイギリス英語の違いを再度まとめる。
14回	授業内容	Chapter 4 の復習。重要なところを選んで内容、英文等を再確認する。学生からの質問を受けて答える。時間があれば Chapter 4 に関するDVD を見る。
	事前学修	Chapter 4 全体を見直す。内容や英文などの分からないところを確認して授業中に質問できるようにしておく。
	事後学修	授業で分からないところを確認した後で、再度見直す。
15回	授業内容	試験、及び解説。
	事前学修	Chapter 3-Chapter 4 の授業で読んだところを復習。授業で重要なと指摘されたところを中心に内容をよく復習する。
	事後学修	試験に出された内容を試験の後でよく見なおす。

◆教科書 **[英語]** 「英語史入門」 David Crystal 著、久保内、山縣、他 1 名編注 (金星堂)

◆参考書 **[英語]** 「ベーシック英語史」 家入葉子著 (ひつじ書房)

[英語] 「図説 英語史入門」 中尾俊夫・寺島雄子著 (大修館書店)

[英語] 「変化に重点を置いた英語史」 小倉美知子著 (英宝社)

[英語] 「英語の「なぜ?」に答える はじめての英語史」 堀田隆一著 (研究社)

◆成績評価基準 4日間出席することを前提に評価します。 (評価内容: 授業への取り組みや授業時に用意する予習や復習の確認小テスト等 20%, 授業時の発表状況 20%, 試験 60%)

◆授業相談 (連絡先): 初日にお知らせします。

注意

講座内容（シラバス）

〔英米文学演習Ⅰ～Ⅲ〕

佐藤 秀一

◆授業概要 E.Hemingway と W. Faulkner はアメリカ文学の双璧とも言える作家であることは、今さらくわしくのべるまでもない。Hemingway は Dos Passos, Fitzgerald などと「失われた世代」の作家と呼ばれているが、Faulkner は直接の戦争体験もなく、ヨーロッパの伝統文化の世界へ逃避することもなかったという点で厳密な意味で「失われた世代」の人たちと同列視できないが二人の作家の独創性、共通した世界を理解し、味わうように心掛ける。

◆学修到達目標 二人の作家の作品をそれぞれ 2 篇を選んだが、作家の高い技量をしめし、それぞれ深い味わいを持っている。これらの作品を読み通し、鑑賞することで人間の生きるということの実存性といった中心的テーマのいくつかを感じることができる。

◆授業方法 受講生には輪読形式で、分担された箇所を和訳し、アウトラインあるいは内容等を要約してもらいたい。手法、描写、コンテンツ等について自分の思いを発表してもらう。ときにはペア・ワーク、グループ・ワーク等を通して、発表内容に沿ってディスカッションをし、鑑賞していく。授業計画は授業の進み具合やクラスのレベル、人数等により変更することもあります。

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容：授業の進め方、オリエンテーション、アメリカ文学の政治的、文化的背景等について解説する。 事前学修：E. Hemingway, W. Faulkner に関する人と生涯、作品について予め調べておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、配布資料を読んで、授業の内容を確認しておくこと。
2回	授業内容：作品 <i>Indian Camp</i> を読んで行く。担当箇所を発表してもらう。 事前学修：テキストの 1 ページから 6 ページまで一語一語意味を調べ、読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、確認しておくこと。
3回	授業内容： <i>Indian Camp</i> 作品全体の総括、その後、Faulkner の作品 <i>That Evening Sun</i> を読んで行く。 事前学修：テキストの 20 ページから 24 ページまで読み、自分の考えをまとめておくこと。 事後学修： <i>Indian Camp</i> の内容、問題点を整理し、次の作品 <i>That Evening Sun</i> についてメモをしておくこと。
4回	授業内容：作品を精読しながら、作品の描写、表現等を味わう。 事前学修：前回の授業の内容を整理し、まとめておく。テキスト 24 ページから 28 ページまで読んでおくこと。 事後学修：授業の内容を理解し、ノートにまとめておくこと。
5回	授業内容：29 ページから 32 ページを読み、Nancy と Compson 家の子供たちとの会話のやりとりを鑑賞する。 事前学修：テキストをよく読んで、自分の考えをまとめておくこと。 事後学修：授業の内容を整理し、読んだ箇所の問題点をまとめる。
6回	授業内容：子供たちを必死に自分の家にとどまらせようとする Nancy の思いを考察する。 事前学修：テキスト 33 ページから 36 ページまで精読し、思いをまとめておくこと。 事後学修：授業の内容をよく理解し、問題点をノートに整理しておくこと。
7回	授業内容：一語一語語彙の意味、表現を確認しながら作品を味読してゆく。 事前学修：テキスト 37 ページから 40 ページの単語を確認しながら読んでおくこと。 事後学修：意味を確認し、ノートに整理しておくこと。
8回	授業内容：Nancy の恐怖の様相の描写、表現法を吟味しながら読んで行く。 事前学修：描写、表現法等に注意し、40 ページから 43 ページまで読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、まとめておくこと。
9回	授業内容： <i>That Evening Sun</i> のまとめと総括をする。その後、Hemingway の作品、 <i>The Killers</i> を読んで行く。 事前学修： <i>That Evening Sun</i> の思いを整理し、まとめておくこと。 <i>The Killers</i> の 7 ページから 10 ページまで読んでおくこと。 事後学修：授業の内容を理解し、ノート整理しておくこと。
10回	授業内容： <i>The Killers</i> を解説を加えながら味読してゆく。 事前学修：テキスト 11 ページから 14 ページまでの単語を調べながら読んでおくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、問題点等を確認しておくこと。
11回	授業内容：テキスト 15 ページ 19 ページまで読み、 <i>The Killers</i> 作品全体を読み解きながら総括する。 事前学修： <i>The Killers</i> を自分なりに整理し、作品に対する考えをまとめておくこと。 事後学修：授業の内容をノートに整理し、理解しておくこと。
12回	授業内容： <i>A Rose for Emily</i> を解説を加えながら読んで行く。 事前学修：作品の内容を想像しながら 44 ページから 47 ページまで読んでおくこと。 事後学修：授業での内容をよく理解し、確認しておくこと。
13回	授業内容：前回の授業を整理し、作品の展開を考察しながら味読して行く。 事前学修：テキスト 47 ページから 50 ページまで一語一語大事に読んでおくこと。 事後学修：授業での作品の内容を確認し、整理しておくこと。
14回	授業内容： <i>A Rose for Emily</i> を読み終えた後、解説を混じながら総括する。 事前学修：前回の授業の内容を事前にまとめておくこと。 事後学修： <i>A Rose for Emily</i> の内容を整理し、まとめておくこと。
15回	授業内容：これまで読んだ 4 編の全作品のまとめと、試験。 事前学修：個々の作品の鑑賞したことを整理し、まとめておくこと。 事後学修：作品の内容を確認し、自分の鑑賞したことをノートに整理し、まとめて再確認すること。

◆教科書 国沼 *Collected Short Stories of Great Modern American Authors* 『現代アメリカに大作家戦』 藤井 健三、安達 秀夫編註 三修社

◆参考書 国沼『ヘミングウェイ 20 世紀英米文学案内 15』佐伯 彰一編 研究社、『フォークナー 20 世紀英米文学案内 16』西川 正身編 研究社

◆成績評価基準 授業への参加度（予習、発表、受講状況、貢献度）（40%）、試験（60%）、毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

◆授業概要

アンリ・ベルクソン『創造的進化』を読んでいきます。ベルクソンは、同書で、進化について、機械論的な偶然でも、目的論的な必然でもない、「生命の飛躍(*élan vital*)」であるとする考え方を提示しています。生命とは何か、という極めて今日的な問いの原像であり、生命科学が大きく変貌した今日でも古典としての地位を失わない同書を通して、生命について考えてみたいと思います。

◆学修到達目標

『創造的進化』と幾つかのテキストを読む事を通して、西洋の生命哲学の基礎と問題意識を学び、あわせて哲学書を独力で読んでいくのに必要な力を身につけていく事を目的とします。

◆授業方法

教科書と配布プリントにより講義形式で行いますが、質疑応答を取り入れ、受講者からの積極的な参加を期待します。細部より、内容把握を優先して、大づかみに読んでいきたいと思います。授業の一部は、教科書を離れて、思想史的な背景を説明する事にさく予定です。尚、授業計画は網羅的に記載されていますが、実際の講読では、ここからいくつかのトピックを選択することになると思われます（講読の進度によっては授業計画を変更することもある）。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

授業中および後に作成するレポート（100%）

◆教科書

市販本 『創造的進化』 ベルクソン、岩波文庫

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

・オンデマンド

授業内容	<p>第1回 ベルクソン以前の近代の生命観について。デカルトの機械論について。</p> <p>第2回 カントの目的論的な生命観について。</p> <p>第3回 『創造的進化』第一章を読む。機械論的生命観への批判。</p> <p>第4回 『創造的進化』第一章を読む。目的論的生命観への批判。</p> <p>第5回 『創造的進化』第一章を読む。エラン・ヴィタール(<i>élan vital</i>)が語られ始める。</p>
事前学修	<p>デカルトの二元論や動物機械論について、基礎的な事柄を確認しておくこと。カントの目的論は『判断力批判』の後半で展開される。新書など、概説書でよいので基礎的な事柄を確認しておくこと。『創造的進化』第一章、当該部分を読んでおくこと。『創造的進化』第一章、当該部分を読んでおくこと。</p>
事後学修	<p>配布プリント等、講義の内容を確認しておくこと。</p>

・オンライン授業（11日、12日）

1 日 目	授業内容	<p>『創造的進化』第二章を読む。動物と植物はどのように異なるのか？</p> <p>『創造的進化』第二章を読む。人間と動物とはどのように異なるのか？ 知性と本能とはどのように異なるのか？</p> <p>『創造的進化』第二章を読む。人間の位置づけ。ここまでを踏まえて、生命について、ベルクソンは次にどのような問いを立てるだろうか？</p> <p>『創造的進化』第三章を読む。生命と物質とはどのように異なるのか？</p> <p>『創造的進化』第三章を読む。秩序と無秩序。</p>
2 日 目	授業内容	<p>『創造的進化』第三章を読む。生命と創造的進化。</p> <p>『創造的進化』第四章を読む。映画という技術について。</p> <p>ベルクソンを離れて、『創造的進化』に名前の出てこないヘーゲルなどの生命論に触れてみる。</p> <p>まとめ</p> <p>試験（通常授業へ変更することもある）</p>
事前学修		<p>『創造的進化』第二章、第三章、第四章当該部分を読んでおくこと。</p> <p>講義で分からなかった部分を洗い出しておくこと。</p> <p>試験は記述式で行い、範囲、問題はあらかじめ告知する。ノートに要点をあらかじめまとめておくことが望ましい。</p>

事　　後　　学　　修	<p>配布プリント等、講義の内容を確認しておくこと。</p> <p>授業では扱えなかった現代の進化や生命に関する哲学書を傍らに置きながら、あらためて、『創造的進化』を読んでみて下さい。同書の何が今なお生きており、また乗り越えられるべきものであるのか、自分なりに考えてみると良いでしょう。</p>
-------------------	---

講座内容（シラバス）

〔東洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

綿貫 哲郎

◆授業概要 主に「東洋史」（特に中国史）の卒業論文を書く学生は、日本語だけでなく中国語の論文を参照したいものです。中国語の文章にじっくり取り組み日本語に翻訳する機会はめったにない貴重な経験ではないでしょうか。1人だと挫折しがちですが、数名の仲間とともに中国語論文読みに挑戦してみませんか？ テキストとする中国語の論文については、中国の前近代史または中国民族史に関するものを予定しています。

◆学修到達目標 卒業論文で中国語の論文を参照したいという学生を対象に、中国語で書かれた論文を読むためのスキルを身につけます。時間をかけて中国語の論文を日本語に翻訳する作業をつうじて、よく使われる中国語の文法やフレーズなどを会得すれば、今以上に論文の内容を理解することができるようになります。

◆授業方法 講義に用いるテキストは、教務課より事前に資料を発送するので、指示に従い準備してください。翻訳ミスを恥ずかしめる必要はありません。最初は誰でも初心者であり、間違えてこそ伸びることができるからです。授業では、受講数が多数の場合はグループごとに分かれ、一段落ごとに中国語の論文を日本語訳し、発表し、最後に清書します。難解な訳文と歴史用語については他のグループと一緒に辞書を引きます。中国語は話せなくて構いません。ただし、通常以上の日本語能力・語彙（を学ぶ覚悟）を必要とします。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容：ガイダンス、授業の進め方・発表の仕方など
1回	事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：プリントの確認
2回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
3回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
4回	授業内容：グループ発表(1)・まとめ 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
5回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
6回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
7回	授業内容：グループ発表(2)・まとめ 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
8回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
9回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
10回	授業内容：グループ発表(3)・まとめ 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
11回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
12回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
13回	授業内容：グループ翻訳作業 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
14回	授業内容：グループ発表(4) 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（誤訳・歴史用語などの確認）
15回	授業内容：総まとめ 事前学修：参考書に目を通しておくこと 事後学修：翻訳作業内容の再確認（翻訳した文章全体）

◆教科書 **事前資料送付** 事前にプリントを配布します。中国語辞典（中日辞典）を持参してください。中国語辞典を買うならば愛知大学中日大辞典編纂会編『中日大辞典』（大修館書店）の初版本が望ましいです。手に入らなければ、例文がたくさん載っている辞書を用意して下さい。コンパクトな辞書は、この授業には役に立ちません。また別途、国語辞典（日本語辞典）の持参を勧めます。

◆参考書 **必須** 松丸道雄ほか〔編〕『シリーズ世界歴史大系・中国史4巻：明一清』（山川出版社、1999年）【購入義務はありません】
必須 岡田英弘・神田信夫・松村潤『紫禁城の栄光：明・清全史』（講談社学術文庫、2006年）【購入義務はありません】
必須 石橋崇雄『大清帝国への道』（講談社学術文庫、2011年）【購入義務はありません】

◆成績評価基準 授業参画度（60%）・発表（40%）。最終試験はおこなわない。
毎回中国語辞典を持参しない学生は出席を認めない。

◆授業相談（連絡先）：mianguan@hotmail.com

注意

講座内容 (シラバス)

〔租税論〕

鵜藤 俊英

◆授業概要 日本の国家財政の収入源は、概ね税金である。国の財政状態の現状を把握・理解し、そこにある問題点を解決する方法を検討するのが、本講座の目的である。本講座では、税理士の実務経験を踏まえ、実際に施行されている租税制度を基に研究していく。初学者にも理解できるようにわかり易い補助教材・資料を用いて、具体的なテーマを設定の上、実社会でも問題とされている内容を基に授業を進めていくアクティブラーニング型講座である。

◆学修到達目標 まず、日本の財政の現状が今後の国の在り方にどのように影響するのかを理解し、そこにある問題点を指摘・説明できる。次に、その問題点を解決するために必要と考えられる租税制度を提案し、その問題点を解決するために現行の租税制度をどのように改善すべきかを指摘できるようになる。さらに、るべき租税制度を創案することができるようになる。

◆授業方法 各講義でのテーマについて、必要に応じて補助教材等を使用しながら解説する。各授業の最後に、そのテーマについてのアクションペーパー（小論文等）を記述し、提出を求める。

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容：日本の財政状態の現状を把握する。 事前学修：ネットニュースなどで、事前に調べておくこと。 事後学修：当日配布資料で復習すること。
2回	授業内容：所得課税、消費課税、資産課税（タックスミクス）について説明する。 事前学修：日本の税金について事前に調べておくこと。 事後学修：「税制改正」とは何を意味するのかを再考すること。
3回	授業内容：「所得」とは何かについて説明する。 事前学修：どんな経済的利得があるか調べておくこと。 事後学修：税金がかかる経済的利得について再考すること。
4回	授業内容：所得税の納税義務について説明する。 事前学修：所得税は誰がどんな場合に収めているかを調べておくこと。 事後学修：日本で納める所得税について再考すること。
5回	授業内容：収入から経費を引く、について説明する。 事前学修：経費にはどんなものがあるかを調べておくこと。 事後学修：「簿記」について調べてみること。
6回	授業内容：所得の種類について説明する。 事前学修：給与所得、事業所得、年金所得などについて事前に調べておくこと。 事後学修：包括的所得概念について再考すること。
7回	授業内容：控除について説明する。 事前学修：扶養控除について事前に調べておくこと。 事後学修：自分について調べてみること。
8回	授業内容：法人税の本質について説明する。 事前学修：「株式会社」について事前に調べておくこと。 事後学修：多国籍企業の納税について再考すること。
9回	授業内容：法人格なき団体と組合にかかる税について説明する。 事前学修：商元をするに「会社」と「個人」について調べてみること。 事後学修：法人税と所得税の関係について再考すること。
10回	授業内容：「法人税と経済」について説明する。 事前学修：バブル崩壊後とリーマンショック時の法人税収を調べておくこと。 事後学修：アベノミクスについて再考すること。
11回	授業内容：消費税の本質について説明する。 事前学修：消費税について調べておくこと。 事後学修：消費者が負担する「税」について再考すること。
12回	授業内容：消費税と社会保障の一括改革について説明する。 事前学修：5%から8%そして10%について調べておくこと。 事後学修：肥大化する社会保障とそれに充てられる税について再考すること。
13回	授業内容：相続税について説明する。 事前学修：相続税について事前に調べておくこと。 事後学修：相続対策と相続税について再考すること。
14回	授業内容：理解度の確認。 事前学修：アクションペーパーに記した自分の考えをまとめておくこと。 事後学修：再考すべき問題点を再確認し、まとめておくこと。
15回	授業内容：試験および解説。 事前学修：前回の授業後にまとめたものと、教科書とを読み比べておくこと。 事後学修：本講座で指摘した問題点を再確認すること。

◆教科書 国沼「よくわかる税法入門 最新版」 三木義一編著 有斐閣

◆参考書

◆成績評価基準 試験 70% 小論文 20% 授業参画度 10%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔商品学〕

本條 晴一郎

◆授業概要 インターネットに代表される情報通信技術の普及・発展により、デジタル・マーケティングの時代が到来し、企業の注力するポイントは、実体のある製品から、顧客との関係に移行した。本授業では、伝統的な商品の理論や概念に触れながら、デジタル・マーケティングの理論や概念を体系的に学ぶことで、商品の意味や位置付けの変化について理解することを目指す。現実の具体的事例についての説明を中心に授業を進める。

◆学修到達目標 1. デジタル・マーケティングとは何かを理解し、理論や概念について自ら説明することができる。
2. 情報通信技術の普及・発展により、企業のマーケティング行動がどのように変わったかを説明することができる。
3. 世の中の現象と企業のマーケティング行動を関連付け、実際に存在する商品の事例を実践的かつ批判的な視点から検討できるようになる。

◆授業方法 授業はオンデマンド型の動画配信によって実施する。受講者は、毎回の授業に対し、理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートの提出が求められる。授業中に挙がった考察課題への解答、授業中の気づきや疑問点などを簡潔に記入すること。最後に、自分で選んだ商品について、授業で学んだ理論や概念を用いて説明したレポートの提出が求められる。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容 アマゾンを事例に、デジタル社会のマーケティングについて解説する。 事前学修 教科書第1章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
2回	授業内容 食べログを事例に、デジタル社会の消費者行動について解説する。 事前学修 教科書第2章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
3回	授業内容 メルカリを事例に、デジタル社会のビジネスモデルについて解説する。 事前学修 教科書第3章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
4回	授業内容 無印良品を事例に、デジタル・マーケティングの基本概念について解説する。 事前学修 教科書第4章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
5回	授業内容 アップルを事例に、製品戦略の基本について解説する。 事前学修 教科書第5章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
6回	授業内容 レゴを事例に、製品戦略の拡張について解説する。 事前学修 教科書第6章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
7回	授業内容 ANAを事例に、価格戦略の基本について解説する。 事前学修 教科書第7章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
8回	授業内容 エアビー・アンド・ビーを事例に、価格戦略の拡張について解説する。 事前学修 教科書第8章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
9回	授業内容 ユニクロを事例に、チャネル戦略の基本について解説する。 事前学修 教科書第9章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
10回	授業内容 ウーバーを事例に、チャネル戦略の拡張について解説する。 事前学修 教科書第10章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
11回	授業内容 ローソン・クリークあきこちゃんを事例に、プロモーション戦略の基本について解説する。 事前学修 教科書第11章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
12回	授業内容 トリップアドバイザーを事例に、プロモーション戦略の拡張について解説する。 事前学修 教科書第12章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
13回	授業内容 グーグルを事例に、デジタル社会のリサーチについて解説する。 事前学修 教科書第13章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
14回	授業内容 ヤマト運輸を事例に、デジタル社会のロジスティクスについて解説する。 事前学修 教科書第14章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。
15回	授業内容 セールスフォース・ドットコムを事例に、デジタル社会の情報システムについて解説する。 事前学修 教科書第15章を読んでおくこと。 事後学修 理解度の確認と発展的考察を含むコミュニケーションシートに記入し、提出すること。

◆教科書 『1からのデジタル・マーケティング』 西川英彦、澁谷覚編著 碩学舎 2019年

◆参考書 『コトラーのマーケティング4.0 スマートフォン時代の究極法則』 フィリップ・コトラー、ヘルマワン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン 朝日新聞出版 2017年
『1からのマーケティング（第4版）』 石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著 碩学舎 2020年

◆成績評価基準 毎回のコミュニケーションシート（60%）、および、レポート（40%）によって評価する。

◆授業相談（連絡先）: honjo@shizuoka.ac.jp

注意

◇教育の社会学

担当者:広田照幸・雲川けいか

- ◆授業概要 最初に教育社会学がどんな学問なのかを略述し、学校の社会化機能、選抜機能、収容機能の整理を中心に、学校を見ていく視点を理解させる。次いで、学校を巡る近年の様々な状況の変化を歴史とデータとの両面から考え、考えるべき理論的諸課題を理解させる。その次に、子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を、特に指導の困難性の性格についてデータや事例をもとに考えさせたうえで、考えるべき理論的課題を理解させる。次いで、近年の教育政策の動向と教育について説明し、考えるべき理論的課題を理解させる。次いで、地域との連携、学校安全の問題を説明して諸事項を理解させる。その次に、諸外国の教育事情や教育改革の動向について、世界同時的に起きている教育改革の例などをとり上げて説明し、考えるべき理論的課題を理解させる。これらは、各回のテーマにする概念や理論を肉付けする形で講義される。
- ◆学修到達目標 現代教育のさまざまなトピックを社会学的な視点から考察することで、教育を広い社会的文脈に位置づけて理解できるようになることをめざす。近現代社会における学校の性格や社会的役割を多面的に理解し、学校で生じている諸問題を理解し、適切な情報の吟味、学校経営や指導の考え方ができるようになる。
- ◆授業方法 講義形式で行いつつ、適宜、グループでの討論などを挿入したい。復習と質問・討議の時間も設けたい。受講者は、社会の変化の中での教育の役割について、いろいろと考えをめぐらせながら講義を受講してもらいたい。それゆえ、授業の3倍程度の時間をかけて、あらかじめ参考図書や新聞・雑誌などを通して予習をしておくことが求められる。また、政治や法、経済・外交など、広い知識や関心を持つ者はほど得るもののが大きいはずである。

◆授業計画

	授業内容	イントロダクション——教育社会学の概観と本講義のねらいと構成
1回	事前学修	教育と社会との関連を、学校の状況、安全やリスク、イノベーション、家族や地域と世界、学校不論や学校への期待など、多面的な課題について、情報を集めて考えてみる。
	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
2回	授業内容	学校の目的と機能——学校を巡る過去と現在の状況
	事前学修	いろいろな情報から昔と今の学校を取り巻く状況を考え、目的・目標と機能の両面から現状の課題を探ってみる
3回	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
	授業内容	教育と社会化——学校を巡る過去と現在の状況
4回	事前学修	いろいろな情報から昔と今の学校を取り巻く状況を考えてみる
	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
5回	授業内容	教育改革のイデオロギー——さまざまな教育改革の動きを理解する
	事前学修	教育改革・学校改革のさまざまな事項を探ってみる
6回	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
	授業内容	平等と卓越——教育制度、教育機会、教育実践はどういう原理のせめぎあいの上に成り立つか
7回	事前学修	いろいろな情報から、今の学校が抱える困難についての理解に努める
	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
8回	授業内容	身の回りと世界——周囲、地域、国、世界の中の教育を重層的に考える
	事前学修	身の回りの環境とグローバルな世界との重層性の中で学校は何をしているのか考えてみる
9回	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
	授業内容	国民国家形成の時代 同化教育——教育行政の仕組みと政策
10回	事前学修	高校の公民科の内容を思い出しておく
	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
11回	授業内容	諸外国における多文化教育の展開と特徴——考えるべき理論的諸課題
	事前学修	理論的概念や理論的命題を使えるよう、難しい散文に慣れておく
12回	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
	授業内容	諸外国の教育事情や教育改革の動向(1)——グローバル化の中の世界の教育改革
13回	事前学修	高校の地理や歴史の内容を思い出しておく
	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
14回	授業内容	諸外国の教育事情や教育改革の動向(2)——さまざまな国事例を通して考える
	事前学修	高校の地理や歴史の内容を思い出しておく
15回	事後学修	講義内容を復習しつつ、配布資料の諸事項の理解を深めること
	授業内容	諸外国の教育事情や教育改革の動向(3)——多文化主義・多文化教育とこれからの人間・社会
事前学修	「異質な他者」との共生に関わる内外の教育事情に關心を持ち、自分なりにさまざまな情報を集めて、イメージを作っておく	
	事後学修	講義内容を復習しつつ、自分なりに納得・理解した点をさらに深めること
事前学修	自分の身のまわりの教育をより広い社会的文脈に位置づけて考えてみて、情報を集めてその重層的な広がりをイメージしてみる	
	事後学修	講義内容を復習しつつ、他の受講生の意見や教員の補足説明からに理解さらに深めること

◆教科書 Google Classroomで様々な種類の資料を配布しながら講義を行う。

◆参考書(参考文献等)

広田照幸『教育改革のやめ方——考える教師、頼れる行政のための視点』(2019年、世織書房)

須藤康介『教育問題の「常識」を問い合わせ——いじめ・不登校から家族・学歴まで』(2017年、明星大学出版部)

広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』(2009年、岩波書店)

◆成績評価基準 最後に提出するレポートを重視するが(50%)、各回の講義を踏まえて提出してもらうペーパーも考慮する(50%)。

◆授業概要 理論面としてテキスト中の「『学習指導要領』の歴史と課題」から中学校・高等学校における国語科教育の変遷について把握する。併せて現在国語科教育に求められている「思考力、判断力、表現力を伸ばすための指導計画と授業研究」について検討する。また、よい授業とは何かを「授業評価」の観点から分析し、それ支える指導力・教授法について高校1年生を対象とした『国語総合』の教材により、模擬授業を通して確認していく。

◆学修到達目標 戦後の「学習指導要領」の変遷を確認することで、それぞれの時代に求められた国語科教育とはどのようなものであったのかを理解することができる。それをふまえることで、新しい時代に求められている国語科教育の実現に必要な「よい授業とは何か」、それを支える「指導力・教授法とはどんなものか」について、具体的な教材に即した実践を通して、その適否が判断できるようになる。「授業評価」の実際とその必要性を理解することができる。

◆授業方法 リモートの授業での準備後、グループごとに効果的な授業方法を検討しつつ模擬授業を実施する。その具体的な展開例から全体で議論を重ね、教授法の適否についての考察・評価を行う。実験的な教育実践例（DVD）を紹介し、これらについても分析・検討を行う。模擬授業・教育実践例に対して個人に評価シートの提出を求める。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンスとして、授業の進め方を説明する。模擬授業を前提にした4グループを編成する。教育実習に備えて「パーソナリティー・チェックシート」を完成させる。
	事前学修	自分について、性格からこれまでの行動まで、さまざまな角度から分析しておくこと。
	事後学修	自己分析をふまえ、自分の目指す教師像についてイメージしてみること。
2回	授業内容	「優れた授業の条件」「生徒による授業評価アンケート」等、配布資料を読んで、「よい授業」の条件について考え、整理する。
	事前学修	「よい授業」とはどんな授業か、これまでに受けた授業を振り返りながら考えておくこと。
	事後学修	「よい授業」の条件についての理解を深めておくこと。
3回	授業内容	テキスト『新訂 国語科教育学の基礎』の「戦後国語科教育の構造」の項を熟読し、時代の要請に基づき変遷してきた国語科教育について把握する。
	事前学修	テキストの同項を読んでおくこと。
	事後学修	国語科教育の変遷についての理解を深めておくこと。
4回	授業内容	第3回の授業内容をふまえ、テキスト『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（文部科学省）が目指している国語科教育について具体的に理解する。
	事前学修	両テキストを概観しておくこと。
	事後学修	この授業の内容をふまえ、どのようにしたらそれを授業に反映できるかについて考えること。
5回	授業内容	対面授業2日目に実施する現代文・古文・漢文の3分野4教材による模擬授業の準備に入る。各グループが担当する教材の効果的な授業方法を反映した「学習指導案」を作成する。
	事前学修	4教材のすべてを読んでおくこと。
	事後学修	選択した効果的な授業方法について、選択理由を討議の際発表できるようにしておくこと。
6回	授業内容	対面授業についてのガイダンスを行う。本シラバスに提示した現代文・古文・漢文の3分野4教材を用いた模擬授業の分担（発表者等）を決める。よい模擬授業の実現に向けて、「授業評価」の観点を参照しつつ、その条件について討議する。
	事前学修	「よい授業」の条件について、考えたことを整理しておくこと。
	事後学修	「よい授業」の条件をふまえた授業を教材に即して具体的にイメージしておくこと。
7回	授業内容	教育実践例「パネルディスカッションの授業」（DVD）の紹介を通して、従来型の授業にとらわれない授業形態について解説する。グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」作りに取り組む。
	事前学修	パネルディスカッションについてインターネット等であらかじめ調べておくこと。
	事後学修	授業内容をふまえ、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法・授業形態について検討、決定しておくこと。
8回	授業内容	「国語科教育法Ⅱ」のテキストにより、国語科教育の変遷について解説する。それをふまえ「学習指導要領解説」を参照し、新しい時代に求められる資質・能力を育むための国語科教育について解説する。また、「思考力、判断力、表現力を伸ばす」ための授業形態のひとつである「アクティブ・ラーニング」や、その力の評価を目指した「大学入試改革」についても解説する。
	事前学修	テキストと「学習指導要領解説」を再読しておくこと。
	事後学修	授業内容と配布資料を確認し、国語科教育に要求されている事項を理解しておくこと。
9回	授業内容	教育実践例として、アクティブ・ラーニングのひとつである「学習ゲーム」をDVDで紹介し、その教育的な意図と効果について分析・検討する。
	事前学修	2回目の授業で解説されたアクティブ・ラーニングの内容について確認しておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、アクティブ・ラーニングをどのようにしたら、授業に取り入れられるのかについて考えておくこと。
10回	授業内容	現代文・古文・漢文の授業それぞれの模擬授業展開上の留意点と、指導案作成上の注意点を説明し、質疑に答える。その後、グループごとに担当する教材の性格を分析し、模擬授業の準備に入る。配布された指導案のフォームを用いて、「よい指導案」づくりに取り組む。
	事前学修	指導案を作成するうえでの留意点をインターネット等であらかじめ調べておくこと。
	事後学修	授業内容をふまえ、各グループごとに担当する模擬授業の指導方法・授業形態について検討、決定しておくこと。
11回	授業内容	現代文・詩「二十億光年の孤独」（78～81頁）の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、適切と思われる指導方法を考え、授業プランを立てておくこと。 ※当該教材による模擬授業を担当するグループについては、発表者を中心に協働して教材のジャンルや性格に適した指導方法・授業形態を選択し、意欲的な授業プランを立てること。それに基づいた学習指導案を作成し、必要に応じてワークシートなども用意すること。
	事後学修	授業内容を確認し、詩教材の扱い方について整理し、教育現場で求められる指導力について把握しておくこと。

		※模擬授業を担当したグループについては、授業内容をふまえて、ふりかえりを行い、その成果を共有しておくこと。
1 2回	授業内容	古文 説話「老僧の水練」(238~240頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、古文・説話という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、古文教材の扱い方について整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
1 3回	授業内容	漢文 史伝「死せる孔明生ける仲達を走らす」(316~318頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、漢文という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、事前学習で立てた授業プランが当を得ていたかを評価しておくこと。
1 4回	授業内容	現代文 評論「想像するちから」(56~63頁)の模擬授業を演習形式で行い、その指導方法等の適否について、質疑と討論を重ねて考察・評価する。
	事前学修	当該教材を読んで、評論という性格をふまえた授業プランを立てておくこと。
	事後学修	授業内容を確認し、評論教材の扱い方を整理し、自らの授業プランを評価しておくこと。
1 5回	授業内容	試験
	事前学修	14回の授業のふりかえりを行い、試験のための準備をしておくこと。
	事後学修	試験問題(課題)について、正しい理解と適切な解答ができたかを確認しておくこと。

◆教科書 『新訂 国語科教育学の基礎』 森田信義・山元隆春 (渓水社)

『新編 国語総合』 高校1年教科書 (教育出版) 17教出 国総343

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 (文部科学省)

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』 (文部科学省)

◆参考書(参考文献等) 国語・古語・漢和の各辞書

『国語科 重要用語事典』 高木まさき他 (明治図書)

◆成績評価基準 授業参画度(30%)、提出物(30%)、試験(40%)により総合的に評価します。

講座内容 (シラバス)

〔博物館資料保存論〕 オープン受講：不可

青木 繁夫

◆授業概要 博物館・美術館では実物資料を用いて展示などの活用を実施している。賢明な利活用を行うためには博物館資料を常に良好な保存環境下で管理しなければならない。その方法について基礎知識や博物館の実践について授業を行う。独立行政法人東京文化財研究所の文化財保存研究をお行っていた経験をもとに博物館資料の持続的な保存及び活用について具体的な事例を交えて授業を構成し、反映する。

◆学修到達目標 博物館・美術館活動における基本財産は、博物館に収蔵された資料である。それらを保存し、持続的に活用するためには常に博物館資料を最適なコンディションしておかなければならぬ。そのための基礎知識を理解・習得し、博物館の場で実践できることを目標とする。

◆授業方法 授業前に資料を配布する。その資料とパワーポイントを使用して授業を実施する。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：*ガイダンス（授業テーマと授業方法について説明） *資料保存の目的と意義。 事前学修：「博物館資料論」関連の文献を読んでおくこと。 事後学修：次回以降の授業に備えてなぜ資料保存を行わなければならないのか、その目的を整理しておくこと。
2回	授業内容：博物館資料の製作技術： *日本画、甲冑などの材質と製作技術、 *史料の機能と使用方法 事前学修：「図解日本画用語辞典」東京美術、2007年、「図説甲冑のすべて」PHP研究所、2003年、などを読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を整理して理解しておくこと。授業で取り上げなかった彫刻や油絵、考古資料などの製作技術についても理解を深めておくこと。
3回	授業内容：博物館資料の劣化と損傷： *劣化・損傷の要因 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を整理して理解しておくこと。特に劣化メカニズムについてはすべての基本になるためよく理解しておくこと。
4回	授業内容：博物館照明：*光色・色温度・照度 *光による劣化、*照明光源・照明基準 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。博物館で照明の実例を見ておくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を整理して理解しておくこと。資料を好ましい状態で見せるための技術なため、博物館で実例をよく見ておくこと。
5回	授業内容：博物館の温湿度管理： *温度・湿度変化による劣化、*温湿度の管理基準、*温度調整 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。博物館で温度・湿度あるいは調湿材の使用実例を見ておくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を整理して理解しておくこと。博物館で温湿度調整の実例をよく見ておくこと。
6回	授業内容：博物館の空気汚染： *野外および屋内展示物に関する空気汚染の影響： *空気汚染のモニタリング 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。屋外に展示してあるプロンズ像などの錆の状態を観察しておくこと。
7回	授業内容：博物館資料の虫害とカビ： *虫の種類と虫害の特徴、*カビの発生・成長の特徴 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。屋外に展示してあるプロンズ像などの錆の状態を観察しておくこと。
8回	授業内容：IPM および防除対策： *IPM とは、*燻蒸による対策 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。博物館のIPM活動の状況を調べておくこと。
9回	授業内容：博物館におけるリスク管理： *博物館環境、*火災・事故・自然災害の事例について 事前学修：テキスト「博物館資料保存論」朝倉書店を読んでおくこと。博物館に行き、展示設備などのリスクを管理すること。 事後学修：博物館に行き展示設備などを観察し、理解を深めておくこと。
10回	授業内容：自然災害による博物館被害とレスキュー活動： *被害状況、*現場でのレスキューについて、*応急処置について 事前学修：文化財レスキューに関する情報をウェブサイトなどで調べておくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。レスキューに関する講演会などに参加して情報を共有しておくこと。
11回	授業内容：保存修復概論： *考古資料の保存修復理念について 事前学修：「博物館資料の臨床保存学」武藏野美術大学出版局、「修復の理論」三元社を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解すること。
12回	授業内容：出土金属遺物の保存・修復： *腐食について、*修復処置について、*修復後の保存管理について 事前学修：「保存科学入門」角川書店を読んでおくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。
13回	授業内容：史跡の保存整備と野外博物館： *史跡整備の理念、*史跡整備と保存技術、*史跡の保存と活用 事前学修：史跡整備に関するウェブサイトを開拓して情報を集め、理解しておくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。ウェブサイトに掲載されている保存整備計画書や整備報告書を読んでおくこと。
14回	授業内容：野外博物館の役割と保存： *動態保存について、*近代化遺産の保存について 事前学修：近代化遺産や野外博物館の動態保存についてウェブサイトを開拓して情報を集め、理解しておくこと。 事後学修：配布資料を読み、授業内容を理解しておくこと。動態保存についてはウェブサイトを開拓して実例を調べること。
15回	授業内容：評価試験に実施と解説 事前学修：配布資料を見直し、授業内について理解を深めておくこと。 事後学修：試験後の解説を聞いて、不十分な部分の理解を深めること。

◆教科書 **教材**「博物館資料保存論 Y20700」通信教育教材（教材コード 000477）
当日資料配布 授業当日配布する講義資料

◆参考書 **内沼**「文化財の保存環境」東京文化財研究所編、中央公論美術出版、2011年
内沼 濱田耕作「通論考古学」濱田耕作、復刻版、雄山閣、1996年
内沼「博物館資料取扱いガイドブック－文化財、美術品等梱包・輸送の手引き－」日本博物館協会編、ぎょうせい、2012年
内沼「博物館資料の臨床保存学」神庭信幸、武藏野美術大学出版局、2014年
丸沼「文化財の保存と修復」青木繁夫、木材保存 218号、日本木材保存教会、2018年

◆成績評価基準 授業終了時に実施する試験によって成績評価を行う。

◆授業相談（連絡先）：授業相談等がある場合は、aokidirector@yahoo.co.jp に連絡をください。

注意

・令和2年度東京スクーリング(11月期) 開講講座一覧

講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
KC01	法学(日本国憲法2単位を含む)	漆畠 貴久	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)		オンデマンド予定		1年	
KC02	英語 I ~ IV	賀美 真之介	1	C10100	英語 I		オンデマンド予定	100名	1年	・I ~ IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				C10200	英語 II				2年	
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
KC03	中国語III・IV	坂江 徹	1	F10300	中国語III		オンデマンド予定	200名	2年	・III, IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
KC04	体育実技 I・II	高橋 正則	1	J101S0	体育実技 I				1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
KC05	民法 I	藤村 和夫	2	K20200	民法 I		オンデマンド予定	60名	※	
KC06	英文法	小澤 賢司	2	N20200	英文法		オンデマンド予定		2年	・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。それ以外は2学年以上申込可。
KC07	イギリス文学史 II	野呂 有子	2	N30100	イギリス文学史 II		オンデマンド予定	60名	2年	
KC08	英語史	齊藤 雄介	2	N30300	英語史		オンライン ZOOM可能性有	60名	2年	
KC09	英米文学特殊講義	北原 安治	2	N31200	英米文学特殊講義		オンライン予定	60名	2年	
KC0B	英米文学演習 I ~ III	小田井 勝彦	1	N404S0	英米文学演習 I		オンライン 対面可能性有	40名	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				N405S0	英米文学演習 II					
				N406S0	英米文学演習 III					
KC0C	宗教学基礎講読	興津 香織	2	P30100	宗教学基礎講読		オンライン予定		2年	
KC0D	西洋思想史 II	石井 友人	2	P30600	西洋思想史 II		オンライン予定		2年	
KC0E	哲学演習 I・II	金子 佳司	1	P401S0	哲学演習 I		オンライン 対面可能性有	30名	3年	・哲学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				P402S0	哲学演習 II					
KC0G	考古学特講 I	浜田 晋介	2	Q30600	考古学特講 I		オンライン予定	60名	2年	
KC0H	日本史特講 II	八馬 朱代	2	Q30900	日本史特講 II		オンライン予定	60名	2年	
KC0J	日本史演習 I・II	坂口 太助	1	Q401S0	日本史演習 I		オンライン 対面可能性有	30名	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				Q402S0	日本史演習 II					
KC0K	経済史総論	飯島 正義	2	R20200	経済史総論		オンライン予定	60名	※	・経済学部は1学年以上申込可。それ以外は2学年以上申込可。
KC0L	経済開発論	田宮 憲	2	R31400	経済開発論		オンライン予定		2年	
KC0M	貨幣経済論	藤本 訓利	2	R31900	貨幣経済論		オンライン予定	60名	2年	
KC0N	自然地理学概論	柴原 俊昭	2	T22300	自然地理学概論		オンライン予定	60名	2年	
KC0P	英語科教育法IV	市川 泰弘	2	T30400	英語科教育法IV	×	オンライン 対面可能性有	40名	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

注意事項

・開講方法は、変更が入る可能性があります。

講座内容（シラバス）

〔法学〕

漆畠 貴久

◆授業概要 人の社会生活上の諸問題を解決する手段としての法について、具体的な法律等のルールを適切に用いることができるようになるための基本的な事項をについて学びます。そのために、法に関する基本的知識の修得するとともに、それらの知識を前提として具体的な紛争を解決するための思考方法の修得を目指します。

◆学修到達目標 ・法あるいは法律に関する基本的な専門用語等について理解し、説明できる。
・社会に生じる諸問題を解決する手段として、基本的な法的思考方法を用いることができる。

◆授業方法 基本的に講義方式で行います。レジュメを配布しますので（予定）、授業を聞きつつ必要・重要と考えられる事項をメモする等していってください。授業内で教員の側から発問し、受講生に解答を求めることがあります（能動的な学修、双方向的な授業運営）。

授業予定は「授業計画」に記した通りですが、受講生の理解度やテーマの重要性等によって適宜変更することがありますので、予めご了承ください。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	オリエンテーション（授業概要の説明）。社会生活において法律が機能する場面を想定して法律の働きについて考える。
	事前学修	法律がなぜ必要になるのかを考えてみる。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
2回	授業内容	規範としての法について考える。
	事前学修	教科書（法学1）第1章及び第3章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
3回	授業内容	法の体系と種類について考える。
	事前学修	教科書（法学1）第2章及び第4章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
4回	授業内容	法の解釈と運用について考える。
	事前学修	教科書（法学1）第9章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
5回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（憲法・統治）。
	事前学修	教科書（法学2）第11章を通読する。
	事後学修	教科書（法学2）第15章から第17章を通読する。
6回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（憲法・人権）。
	事前学修	教科書（法学2）第5章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、教科書（法学2）第6章から第12章を通読する。
7回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（民法・財産法）。
	事前学修	教科書（法学1）第5章及び第7章（特に財産関係のルールについて）を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
8回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（民法・家族法）。
	事前学修	教科書（法学1）第5章及び第7章（特に家族に関するルール等について）を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
9回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（刑法・犯罪論）。
	事前学修	教科書（法学1）第6章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
10回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（刑法・刑罰論）。
	事前学修	教科書（法学2）第9章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
11回	授業内容	我が国の基本的な法について考える（民事訴訟法と刑事訴訟法・手続法）
	事前学修	教科書（法学1）第8章及び第10章を通読する。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
12回	授業内容	法律が機能する場面を具体的に考えてみる（交通事故を例として）。
	事前学修	交通事故が発生したときに法がどのように機能するのかを考えてみる。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
13回	授業内容	法律が機能する場面を具体的に考えてみる（犯罪などを中心に）。
	事前学修	「犯罪が発生した」という言葉が何を意味するのかを考えてみる。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
14回	授業内容	法律が機能する場面を具体的に考えてみる（契約を例として）。
	事前学修	「契約が成立した」とは何を意味しているのかを考えてみる。
	事後学修	授業で紹介した専門用語の意味を確認するとともに、法制度の概要について確認する。
15回	授業内容	授業のまとめを行ったうえで、評価のための試験を実施します。
	事前学修	教科書（法学1）第1章を通読して、法を学ぶことの意義について改めて考え、自分の言葉で説明できるようにしておく。
	事後学修	授業を通して学んだことを改めてまとめて、それらの知識を今後の社会生活においてどのように活用するかを考えてみる。

◆教科書 通材『法学 B11500』 通信教育教材（教材コード 000515）
〔当日資料配布〕 レジュメを配布します。

◆参考書 丸沼 六法を持っている人は持参してください（小型のもの、あるいは電子機器を使用する場合も可）。
丸沼『体験する法学』 関根剛=北村貴編著 ミネルヴァ書房 2020年4月出版予定。

◆成績評価基準 筆記試験によって評価します（100%）。
授業中に担当教員からの発問に対して解答してくれた受講生には、一定の範囲で最終評価に加点します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔英語〕

賀美 真之介

◆授業概要 英語である程度内容的に豊かな情報を伝達するために不可欠となる英文法の知識を再確認する。

◆学修到達目標 英文法の理解で得られた知識を生かし、比較的平易な英語で書かれた文章を正確に理解できる。

◆授業方法 各項目について、解説、演習（練習問題）を行う。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容	Be
1回	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
2回	授業内容	自動詞と他動詞（5文型）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
3回	授業内容	主語と述語（動詞）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
4回	授業内容	動詞 時制（1）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
5回	授業内容	進行相
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
6回	授業内容	完了相
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
7回	授業内容	名詞と冠詞
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
8回	授業内容	前置詞
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
9回	授業内容	形容詞と副詞
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
10回	授業内容	関係詞（1）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
11回	授業内容	関係詞（2）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
12回	授業内容	関係詞（3）
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
13回	授業内容	句と節
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
14回	授業内容	接続詞と文の接続
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。
15回	授業内容	準動詞（不定詞・分詞・動名詞）の解説
	事前学修	テキストの該当箇所を読み、わからない文法用語や概念を調べておくこと。
	事後学修	テキスト及び配布プリントの要点を復習すること。理解できない点は、e-mail 等で質問すること。

◆教科書 丸沼 桑本裕二 [監修]『大学・高専・短大生のための英文法再入門』開拓社 2019

◆参考書

◆成績評価基準 レポート（100%）

◆授業相談（連絡先）：アドレスは初回の授業時に伝える。

注意

講座内容（シラバス）

〔中国語ⅢⅣ〕

坂江 徹

- ◆授業概要 中国語教科書の例文を通してレベルの高い中国語の文法を学ぶ。
- ◆学修到達目標 レベルの高い中国語文法を学ぶことによって、自ら中国語のレベルをアップさせることができる学習能力を養う。
- ◆授業方法 配布された教材の会話文・例文を訳し、詳しい文法を学び、さらに教科書以外の例文を学んで知識を増やす。
- ◆履修条件
- ◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
2回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
3回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
4回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
5回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
6回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
7回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
8回	授業内容	辞書を引く練習、中国語のドラマ鑑賞
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
9回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
10回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
11回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
12回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
13回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
14回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。
15回	授業内容	教材の例文を訳し、文法の解説を行う。
	事前学修	例文を見ながら中国を聞いておく。
	事後学修	例文の意味が完全に理解でき、中国語を聞いても意味がわかるようにする。

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 できれば中日辞典

◆成績評価基準 コロナによる非常事態であるため、学生諸君に配慮した成績をつけるだ、簡単なレポートを出題する予定。

◆授業相談（連絡先）: sakaeban-laifu@js7.so-net.ne.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔体育実技Ⅰ・Ⅱ〕 オープン受講：不可

高橋 正則

◆授業概要 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的方法を理解し、スポーツ実践に取り組むとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実技に反映させています。

◆学修到達目標 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようになる。

◆授業方法 この科目は、オンデマンドおよび課題研究方式によるオンライン授業となります。各授業の課題は、運動課題と研究課題で構成しています。運動課題は、体力テストを含んでおり、室内で可能な内容としていますが、運動前後にはウォーミングアップとクーリングダウンを入念に行なうことが必須となります。また研究課題は、日常生活において健康の維持増進に役立つ内容等を念頭に、それぞれ資料に基づいて学習し、クイズへの解答やリアクションペーパーの提出を求めます。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

回数	授業内容	授業の方法、スケジュール、安全管理、その他の注意事項等）、体力テスト、体力テスト結果の自己評価
1回	事前学修	前日まで各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2回	授業内容	ドローイン、スポーツの歴史
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
3回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
	授業内容	閉眼片足立ち、熱中症予防について
4回	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5回	授業内容	ダンベル体操、スポーツを営む権利について
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
6回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
	授業内容	ワイドスクワット・クランチ・プッシュアップ、メタボリックシンドロームと発生原因
7回	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8回	授業内容	ワイドスクワット・クランチ・プッシュアップ・足踏み30秒、スポーツ事故の訴訟について
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
9回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
	授業内容	プランク＆リバースプランク、自覚的運動強度について
10回	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11回	授業内容	座位運動、ストレスについて
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
12回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
	授業内容	タオルストレッチ、救命処置（AED等）について
13回	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14回	授業内容	10回立ち上がりテスト、オーバーヘッドバランススクワット、ストレスの生理的メカニズムと健康被害
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
15回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
	授業内容	立ち上がり能力テスト、呼吸調整法によるリラクセーション
16回	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
17回	授業内容	ラジオ体操第三、第1～15回授業のまとめ
	事前学修	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。
18回	事後学修	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆教科書

◆参考書 大学生のための最新健康・スポーツ科学 日本大学文理学部体育学研究室 編、八千代出版

◆成績評価基準 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

講座内容（シラバス）

〔民法Ⅰ〕

藤村 和夫

◆授業概要 私たちが意識するとしないと関わらず、民法は日常生活と密接に関わっている。その民法の基礎をなしているのが民法総則である。その民法総則の内容のおよその概要を弁護士の実務経験を踏まえ通観する。

◆学修到達目標 民法、財産法の基礎である民法総則のおよその内容を理解し、説明することができる。

◆授業方法 講義形式であるが、随時質問を交えて受講者の理解度を確認する。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	基本的事項（民法の意義、原則等） 教科書の1頁～22頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
2回	授業内容 事前学修 事後学修	権利主体（自然人） 教科書の25～30頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
3回	授業内容 事前学修 事後学修	制限行為能力者 教科書の30～59頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
4回	授業内容 事前学修 事後学修	失踪宣告、権利の客体 教科書の60～75頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
5回	授業内容 事前学修 事後学修	法律行為 教科書の77～85頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
6回	授業内容 事前学修 事後学修	意思表示 教科書の86～110頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
7回	授業内容 事前学修 事後学修	意思表示 教科書の110～135頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
8回	授業内容 事前学修 事後学修	代理 教科書の139～164頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
9回	授業内容 事前学修 事後学修	代理 教科書の164～192頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
10回	授業内容 事前学修 事後学修	無効、取り消し 教科書の192～206頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
11回	授業内容 事前学修 事後学修	条件、期限、期間 教科書の206～220頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
12回	授業内容 事前学修 事後学修	時効 教科書の221～242頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
13回	授業内容 事前学修 事後学修	時効 教科書の242～279頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
14回	授業内容 事前学修 事後学修	時効 教科書の279～303頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること
15回	授業内容 事前学修 事後学修	法人、授業内試験、振り返り 教科書の303～356頁を熟読すること 講義ノートを整理しながら、記憶を確かにすること

◆教科書 丸沼『民法総則』 藤村和夫 信山社 4,620円（税込み）（送料350円）

◆参考書 [当日資料配布] 特になし

◆成績評価基準 授業内試験（100%）

◆授業相談（連絡先）: fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔英文法〕

小澤 賢司

◆授業概要 無味乾燥な暗記から脱却し、「使える英文法」の修得を目指します。

◆学修到達目標 本授業では、以下の点を目標にします。

①これまで学習してきた（暗記してきたであろう）英文法項目のいくつかに焦点を当て、その働きと有機的な関連性を適切に理解し、活用することができる。

②「英文学（英語学）」を専攻するものとして知っておかなければならない英文法の知識・素養を身につけ、それらをわかりやすい言葉で説明することができる。

◆授業方法 本授業は Google Classroom を使用してのオンデマンド授業です。

本授業は、最終回を除いて、講義と演習の2つのパートから構成されます。講義パートでは導入および理解を主として行い、演習パートではそれを実際に使用する（練習する）ことを主として行います。英語学習においては復習はきわめて重要です。各授業後に必ず復習するようしてください。

◆履修条件 2020（令和2）年度夜間スクーリング（春期）『英文法』（小澤担当）との積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: 品詞と文法、4大品詞 事前学修: 本授業のシラバスを熟読しておくこと 事後学修: 「品詞と文法」、「4大品詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
2回	授業内容: 相当語句、語・句・節 事前学修: 第1回で学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「相当語句」、「語・句・節」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
3回	授業内容: 不定詞（名詞的用法） 事前学修: 第2回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「不定詞（名詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
4回	授業内容: 不定詞（形容詞的用法） 事前学修: 第3回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「不定詞（形容詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
5回	授業内容: 不定詞（副詞的用法） 事前学修: 第4回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「不定詞（副詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
6回	授業内容: 分詞（形容詞的用法） 事前学修: 第5回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「分詞（形容詞的用法）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
7回	授業内容: 分詞（副詞的用法〈分詞構文〉） 事前学修: 第6回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「分詞（副詞的用法〈分詞構文〉）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
8回	授業内容: 動名詞 事前学修: 第7回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「動名詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
9回	授業内容: 主語・述語・目的語・補語 事前学修: 第8回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「主語・述語・目的語・補語」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
10回	授業内容: 自動詞 事前学修: 第9回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「自動詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
11回	授業内容: 他動詞 事前学修: 第10回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「他動詞」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
12回	授業内容: 進行形（現在形との違い） 事前学修: 第11回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「進行形（現在形との違い）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
13回	授業内容: 進行形（未来表現として） 事前学修: 第12回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 「進行形（未来表現として）」について再度復習し、日々の学修に活かすこと
14回	授業内容: これまでの復習（予備日） 事前学修: 第13回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 知識に漏れのある学修項目を確認しておくこと
15回	授業内容: 最終課題およびまとめ 事前学修: 第14回までに学修した内容を復習しておくこと 事後学修: 本授業で学んだ文法を日々使ってみること

◆教科書 **〔当日資料配布〕** Google Classroom にてプリントを配布します。

◆参考書 **〔丸沼〕**『英文法解説』 江川泰一郎 第三版 金子書房 1991年

〔丸沼〕『英文法ビフォー&アフター（普及版）』 豊永彰 南雲堂 2009年

◆成績評価基準 課題（100%）

※すべての課題の提出を前提に評価します。

◆授業相談（連絡先）: Google Classroom 内の機能を使って質問を受け付けます。

注意

講座内容 (シラバス)

[イギリス文学史II]

野呂 有子

◆授業概要 指定テキストおよび配付資料を基にしながら、教師が個々の作家と作品について、伝統と作家個人の独創性について説明する。特に個々の作家および作品の特徴的な部分を具体的に提示し、それを音説・吟味しながら理解を深める。単なる作家と作品リストの羅列としてではなく、生きた作家、と、生きた時代から命を与えられて誕生した作品として捉え、その生命的の流れを追うことを主眼とする。

◆学修到達目標 1. 18世紀前半から現代に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独創性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学IIの全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全體の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の语法に親しみながら技能が取得できる。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的な知識を解説する。ターム後半は必要に応じて資料を提示して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。各授業の後半では、当該授業の主要テーマに関するリアクションペーパーの提出を求める場合がある。また、その内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

回数	授業内容	
1回	事前学修	授業配付資料や、教科書4 - 5頁、12 - 13頁、18 - 20頁、72 - 76頁、78 - 79頁を概観し、これらすべて「手書き」でノートに転記し、全体の流れと構成を把握しておくこと。 各自、授業内容を確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
2回	授業内容	授業配付資料や「ゴシック・ロマン」(1)(2)(3)(教科書「113頁」)、第7章ロマン主義復興の時代(前半: 122 - 138頁)を一緒に読みながら、メアリー・シェリイー作『フランケンシュタイン』やロマン派の詩人たちの作品群について考察し、理解を深める。
3回	事前学修	授業配付資料や、「ゴシック・ロマン」(1)(2)(3)(教科書「113頁」)、第7章ロマン主義復興の時代(前半: 122 - 138頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
4回	授業内容	授業配付資料や第7章ロマン主義復興の時代(後半: 139 - 145頁)を一緒に読みながら、サー・ウォルター・スコットの作品、シェイン・オースティンの作品などについて考察し、理解を深める。
5回	事前学修	授業配付資料や第7章ロマン主義復興の時代(後半: 139 - 145頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
6回	授業内容	授業配付資料や教科書「158 - 170頁」を一緒に読みながら、メレディス、ハーディ、ホブキンス、トマス・カーライル、ジョン・ラスキン、マシュー・アーノルド、チャーチルズ・ディケンズ、ウイリアム・サッカレー等について考察し、理解を深める。
7回	事前学修	授業配付資料や教科書「158 - 170頁」を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。
8回	授業内容	授業配付資料や教科書「184 - 191頁」を一緒に読みながら、ジョージ・メレディス、トマス・ハーディ、サミュエル・バトラー、ジョージ・ギッシング、ラドヤード・キpling、オスカーワイルド等について考察し、理解を深める。
9回	事前学修	授業配付資料や教科書「184 - 191頁」を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。
10回	授業内容	授業配付資料や教科書「203 - 208頁」を一緒に読みながら、H. G. ウエルズ、アーノルド・ベネット、ジョン・ゴルズワース、サマセット・モーム、E. M. フォスター等について考察し、理解を深める。
11回	事前学修	授業配付資料や教科書「203 - 208頁」を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。
12回	授業内容	授業配付資料や教科書「217 - 222頁」を一緒に読みながら、オールダス・ハクスレー、キャサリン・マンスフィールド、ジョージ・オーウェル、グレアム・クリーン、イーザリン・ウォー、ゴルティング等について考察し、理解を深める。
13回	事前学修	授業配付資料や教科書「217 - 222頁」を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。
14回	授業内容	授業配付資料を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理しておくこと。
15回	事前学修	授業配付資料を読み、この範囲で必要と判断される箇所を、すべて「手書き」でノートに転記しておくこと。 各自、授業内容を再確認し、手書ノートに書き加えて整理し、授業終了直後に通信教育部に郵送提出できるように準備しておくこと。

◆教科書 丸沼『イギリス文学の歴史』芹沢栄著 開拓社 2600 (税別)

■事前資料送付 無し
■当日資料配布 授業の進度や受講学生の興味の有り様に従って、適宜、授業担当教師が適切だと判断した資料を提示する

◆参考書 丸沼

丸沼

丸沼

野呂有子の研究サイト <http://www.milton-noro-lewis.com/database.html> (無料ウェブサイト) 受講前に目を通しておくこと

◆成績評価基準 每授業時の課題提出 (40%)、授業修了後に郵送提出する手書きノート (60%) を基に総合的に評価を行う

◆授業相談 (連絡先) : E-mail: yuko.kanakubo.noro@gmail.com
○教科書は受講前に購入し、授業範囲を読んでおくこと。上記シラバスに従って手書きノートをあらかじめ作成しておくこと。余裕を持って受講し、ノートの郵送提出を行うことが可能となる。
授業開始後に教科書を購入したり、教科書なしで授業に臨んだ受講生は残念ながら、結局、課題を提出することができなかつたので気を付けてください。

注意

講座内容（シラバス）

〔英語史〕

齊藤 雄介

◆授業概要 今日の英語、すなわち現代英語は、古英語、中英語、近代英語における言語変化を経て現在の表現形式に至っており、現代英語の文法だけでは説明がつかないこともあります。例えば、現代英語の knight はその綴りにもかかわらず、なぜ /nait/（ナイト）と発音するのでしょうか。そこで本科目では、上に挙げた各時代の英語の重要な言語的特徴を学ぶことにより、英語が現在までに辿ってきた基本的な変化を理解することを目標とします。

◆学修到達目標 古英語から現代英語に至る英語の歴史的变化を考察することにより、現代英語のみでは説明のつかない文法事項を説明できるようになることを目標とする。

◆授業方法 授業で主にピックアップするのは5章から14章ですので、特にその部分に目を通しておいてください。授業は主に講義形式で行います。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	ガイダンス：授業の方法、テキスト、及び英語史という分野について説明します。
	事前学修	テキストの1ページから6ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
2回	授業内容	英語の外面史と借入語：英國の外面史と英語にはどのような語が借入されたのかについて学びます。
	事前学修	テキストの9ページから15ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
3回	授業内容	語彙の歴史、文字、発音：もともと英語にはどのような語彙があり、歴史的にその綴りや発音がどう変化したのかを学習します。
	事前学修	テキストの17ページから31ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
4回	授業内容	名詞の発達：英語における普通名詞の歴史的な変化について学びます。
	事前学修	テキストの33ページから39ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
5回	授業内容	人称代名詞の発達：英語における人称代名詞の歴史的变化について学んでいきます。
	事前学修	テキストの41ページから47ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
6回	授業内容	指示代名詞と関係代名詞：今回は指示代名詞と関係代名詞の歴史的变化を学びます。
	事前学修	テキストの49ページから55ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
7回	授業内容	語形変化の衰退：前回までの授業まで扱ってきた名詞の語形変化が衰退したためにどのような変化が起こったのかを学習します。
	事前学修	テキストの57ページから63ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
8回	授業内容	主節と従属節：今回は節の従属関係の歴史的变化を学習します。
	事前学修	テキストの65ページから70ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
9回	授業内容	動詞の発達：動詞の語尾変化を中心に扱い、その語尾の歴史的発達について学びます。
	事前学修	テキストの71ページから76ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
10回	授業内容	非人称動詞と過去現在動詞：非人称動詞と過去現在動詞の歴史的变化について学習します。
	事前学修	テキストの77ページから82ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
11回	授業内容	be と have 及び分詞：主に完了形と受動態に焦点を当て、それらの歴史的発達について学びます。
	事前学修	テキストの83ページから89ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
12回	授業内容	不定詞と動名詞：現代英語においては同様に使用されることがある不定詞と動名詞の歴史的発達について学習します。
	事前学修	テキストの91ページから96ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
13回	授業内容	否定構文と助動詞 do：否定構文と助動詞 do の歴史的な発達について学びます。
	事前学修	テキストの97ページから102ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
14回	授業内容	言語の流れ：今回は現代英語の集合名詞、前置詞の流れ、形容詞、副詞について学びます。
	事前学修	テキストの103ページから109ページを読んでおくこと。
	事後学修	テキスト及びプリントを参考に、授業の内容をノートに整理し、該当箇所の内容を確認し、理解すること
15回	授業内容	学習内容のまとめ及び最終試験
	事前学修	4章から14章までの内容を中心に復習しておくこと
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、該当箇所の解答及び内容を確認し、理解すること

◆教科書 因沼『ベーシック英語史』 家入葉子 ひつじ書房 2007

◆参考書 英和辞典を持参してください。
適宜プリントを配布します。

◆成績評価基準 授業参加度（10%） 最終試験（90%） *毎回出席していることを前提に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

講座内容 (シラバス)

[英米文学特殊講義]

北原 安治

◆授業概要 シェイクスピアの詩型である「弱強5歩脚の無韻詩（プランクヴァース）」の基本を学び、当時のエリザベス女王の時代のカトリックとプロテスタントの闘争の歴史を学び、それが作品にどのような影響を及ぼしているかなどを学ぶ。四大悲劇の名せりふを原典から学ぶ。四大悲劇の『ハムレット』『リア王』『マーク・オセロ』『オセロ』などの翻訳本でも良いので読んでおくこと。新訳は角川文庫の河合祥一郎の訳本である。またケネス・ブランナーの1996年2枚組のDVD『ハムレット』は完全版なのでおすすめ。ただ時代背景が19世紀に設定されている。『シェイクスピア 映画大全集』（DVD10枚組 BCP-057）が2千円くらいで買えるので参考にすればよい。『蜷川幸雄とシェークスピア』角川書店2015もおすすめ。

◆学修到達目標 シェイクスピアの作品に親しみ、映像を多用して、時代背景や文化などを総合的に学習して全体的基本理解を得ることができるようになる。

◆授業方法 映像を多用する。蜷川幸雄のシェイクスピア劇もみせる。通信のテキストを使い、シェイクスピアの章（pp.163～199）を解説しながら進めていくが、目安としてpp.163～173まで読めば良いと思う。尚最後の部分の『アントニーとクレオパトラ』は省略の予定。その代わり代表作『ハムレット』を併読する。やさしい現代英語に書き直したものではなく原典を読む。『ハムレット』は講義中にプリント配布予定。『ハムレット』は通信のテキストと関係のあるところを読む。講義当日配布の『ハムレット』の原典は英文が難しいので、原典から和訳などの試験は出さない。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容	映像教材をみる。韻律の基本理解としてテキスト『英米文学概説 0086 English Literature 英文ラーナー』の75ページから77ページまで英文を読みながら解説する。
	事前学修	「英詩を味わう—韻律美の構造」1997深井龍雄（著）などを読み、韻律について予習をする。講義該当箇所の文法構造を把握して和訳をやっておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
2回	授業内容	映像教材をみる。163ページの英文を読み解説して正しい訳を学ぶ。劇をテキストで読む場合と観客となって目前で見る場合の違いを考える。
	事前学修	テキストに「ハムレット」からの引用があるので、どういう場面なのか、どう訳すのかを、翻訳書を見ながら予習しておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
3回	授業内容	映像教材をみる。164ページの英文を読み解説して正しい訳を学ぶ。ハムレットと親友ホレーシオの出会いのシーンの解説をする。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「ハムレット」の該当箇所をまえもって見ておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
4回	授業内容	映像教材をみる。165ページの英文を読み解説して正しい訳を学ぶ。劇作家が物語を提示する方法について考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「マーク・オセロ」の該当箇所をまえもって読んでおく。悲劇に喜劇が入り交じることについてテキストの注を見ながら考えておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
5回	授業内容	映像教材をみる。166ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇作家が物語を提示する方法について考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。劇を分析する際の要素の分け方について考えておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
6回	授業内容	映像教材をみる。167ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇作家が物語と筋を構成するやり方について考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「テンペスト」のあらすじと登場人物の関係を調べておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
7回	授業内容	映像教材をみる。168ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の構造と全体的雰囲気の構成について考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「ハムレット」の該当箇所を調べておく。シェイクスピアのあらすじの提示の仕方について考えておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
8回	授業内容	映像教材をみる。169ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の言葉の使い方について考える。散文と韻文の違いについて考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「オセロ」の悪役イーゴの人物造形について考えておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
9回	授業内容	映像教材をみる。170ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の言葉の使い方について考える。中世の道德劇とシェイクスピアの劇の違いについて考える。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。中世の道德劇はだれが主催して何が目的でどんな登場人物が出てくるか考えておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
10回	授業内容	映像教材をみる。171ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の筋や構成について学ぶ。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。ソフォクレスの『オイディップス王』とエリオットの『寺院の殺人』のあらすじを理解しておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
11回	授業内容	映像教材をみる。172ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の筋や構成について学ぶ。エリオットの『寺院の殺人』の構成について学ぶ。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。エリオットの『寺院の殺人』のあらすじを理解しておく。登場人物の関係を理解しておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
12回	授業内容	映像教材をみる。173ページの英文を読み解説して正しい訳をいう。劇の筋や構成について学ぶ。『マーク・オセロ』と『オセロ』の構成について学ぶ。
	事前学修	講義該当箇所の英文のS.V.Oなどの構造分析と和訳。「オセロ」の英文の訳ができるようにしておく。登場人物の関係を理解しておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
13回	授業内容	『ハムレット』の映画を見る。蜷川幸雄の日本版になる場合もある。『ハムレット』の原典を精読して、リズムや語の使い方を学ぶ。復讐の遅延について考える。
	事前学修	講義初日配布のハンドアウト（プリント）の講義該当箇所の英文の文法構造と和訳。『ハムレット』のあらすじを理解しておく。
	事後学修	講義該当箇所の事前の予習と講義の正しい訳を見比べて、復習する。
14回	授業内容	『ハムレット』の映画を見る。蜷川幸雄の日本版になる場合もある。『ハムレット』の原典を精読して、リズムや語の使い方を学ぶ。カトリックとプロテスタントの関係について考える。
	事前学修	講義初日配布のハンドアウト（プリント）の講義該当箇所の英文の文法構造と和訳。『ハムレット』のあらすじを理解しておく。登場人物の関係を理解しておく。
	事後学修	講義でやった全体の復習。試験の準備。
15回	授業内容	試験。ノートや辞書などの持ち込みなし。テキストの指定ページと和訳（範囲すべてでは長いので、講義でやったところを短く限定する。どのページを出すかは事前に教える）と小論文を出す。
	事前学修	テキストの和訳の試験範囲を訳せるようにしておく。文法に基づく直訳でよい。あらかじめまとめてある小論文の構成を理解しておく。
	事後学修	講義でやった全体の復習。講義で興味を持った劇をDVDで見る。

◆教科書 通材 『英米文学概説 0086 English Literature 英文ラーナー』 通信教育部教材。下記の英宝社の翻訳あり。

◆参考書 丸沼 (講義では使いません)

『英文学をどう読むか』（1969年）[絶版]

L.D. ラーナー（著）, 深瀬 基寛（翻訳） 英宝社

丸沼 (講義では使いません)

シェイクスピア『ハムレット』（NHK テレビテキスト 100分 de 名著）

河合祥一郎（著）

丸沼 (講義では使いません)

謎解き『ハムレット』：名作のあかし（ちくま学芸文庫）

河合祥一郎（著）

◆成績評価基準

授業への取り組みや小テストなどの総合評価。遅刻せずに皆出席すること。試験は限定箇所の英文和訳と小論文。小論文は『ハムレット』について各自でテーマを見つけて論じる。1,000字以上書く。ひとつずつテーマ（たとえば「復讐の遅延」）で1,000字以上書いてもよいし、複数のテーマ（たとえば「復讐の遅延」500字「ハムレットのオイディップス・コンプレックス」500字）で書いてもよい。100分試験。『ハムレット』の主要登場人物名は日本語で問題文のあとにヒントとして印刷しておく。試験のときに辞書やノートの持ち込みはできません。予習テストや予習ノート調べをする場合がある。pp.163～173の英文を書きでノートに写し、訳をつけるのが予習とするが、なかなか時間がとれない学生もいるので、予習ノート検査は最低限の予習として、pp.163～166つまり最初から4ページ分は必ず、英文をノートに書きで写し訳をつけてくる。もちろんそれ以上予習しててもよい。翻訳本参照。

◆授業相談（連絡先）: fra3in5@yahoo.co.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔英米文学演習Ⅰ～Ⅲ〕

小田井 勝彦

◆授業概要 文学作品を鑑賞する、そして分析して論じるにはどうしたらよいのだろうか。この授業では、20世紀を代表するジョイムズ・ジョイスの短編小説集『ダブリナース』を精読することを通じて、文学作品に対するアプローチの仕方を学び、文学作品で卒業論文を作成するまでの基礎を学びます。そして作品を通じて英米文化の理解、現代社会の諸問題について考えます。

◆学修到達目標 ・英語で書かれた文学作品について、英語のニュアンスをくみ取り、作品を正しく理解する。
・文学作品を鑑賞、論じる上でどのような点に注目すべきかを理解する。
・英米文化についてより深く知る。
・現代社会の諸問題について考察する。

◆授業方法 初回は文学作品の読み方、そしてこのスクーリングで取り上げる作家ジェイムズ・ジョイスについて講義をします。また、発表の担当者を決定します。2回目以降は、それぞれの作品について、担当者による発表、作品の精読、受講者による討論を行います（受講人数により進行方法が変わりますので、具体的な内容は初回に発表します）。最後にレポートを提出していただきます。

◆履修条件 なし

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	文学作品の鑑賞方法について講義。 この講義テーマについて思いつくことを考える。 授業内容について復習し、発表に備える。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	作家ジェイムズ・ジョイスとその時代について講義。 教科書のIntroductionを読む。 講義で紹介された関連本を読む。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	"The Sisters"について、発表、精読、討論 "The Sisters"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	"An Encounter"について、発表、精読、討論。 "An Encounter"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	"Araby"について、発表、精読、討論。 "Araby"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	"Eveline"について、発表、精読、討論。 "Eveline"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	"The Boarding House"について、発表、精読、討論。 "The Boarding House"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	"A Little Cloud"の前半について、発表、精読、討論。 "A Little Cloud"の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	"A Little Cloud"の後半について、発表、精読、討論。 "A Little Cloud"の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	"Counterparts"の前半について、発表、精読、討論。 "Counterparts"の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	"Counterparts"の後半について、発表、精読、討論。 "Counterparts"の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	"Clay"について、発表、精読、討論。 "Clay"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	"A Painful Case"について、発表、精読、討論。 "A Painful Case"を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	"Grace"の前半について、発表、精読、討論。 "Grace"の前半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	"Grace"の後半について、発表、精読、討論。 "Grace"の後半を読んでくる。担当者は発表準備。 授業内容について復習し、作品の考察を深める。レポートを作成する。

◆教科書 *Dubliners* James Joyce, Penguin Classic, 2000

◆参考書

◆成績評価基準 レポート50%、発表25%、討論への参加25%。毎回の出席を前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔宗教学基礎講読〕

興津 香織

◆授業概要 インドは仏教発祥の地でありながら、現代インドでの主流は仏教ではなく、ヒンドゥー教である。ヒンドゥー教は、仏教よりはるか昔に成立したバラモンを中心とする思想体系（バラモン教）から発展した民俗宗教であり、仏教とバラモン系思想の両者を考察・対比しなければ、仏教を含むインド諸思想や宗教は理解できない。両者の聖典講読を通じて、インド思想の根底にある基本的な考え方や専門用語を学び、理解に役立たせる。

◆学修到達目標 インド諸思想を学び、バラモン系統の思想と仏教との思想的な違いを理解し、説明できる。現代のインドへの理解を深めることができる。初期仏教を中心に学ぶことにより、仏教の根底にある考え方を知ることができる。またそれによって、のちに諸地域に広まった様々な仏教の根底にも同じ考え方が存在していることを理解し、検討していくことができるようになる。

◆授業方法 基本的には講義形式で専門用語や思想史的な背景、流れ、要点などを解説しながら教科書を読み進める。理解のためには資料を配付することもある。受講生にも分担して読んでもらう（発表）。担当者以外にもコメントを求める。必要に応じて、映像資料も使用する。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：“インド思想とは” 講義概要、講義の進め方、使用するテキストと参考文献の紹介 事前学修：通信教育教材『宗教学基礎講読』の第七章（インド人の宗教）を読んでおく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
2回	授業内容：“インド思想における仏教の位置付け” インド思想史の流れとテキストをめぐる基本情報や位置づけなどを解説 事前学修：通信教育教材『宗教学基礎講読』の第八章（仏教）を読んでおく 事後学修：配付資料を読み返し、内容を整理・確認する
3回	授業内容：ヴェーダ文献 I-1 インド思想の根幹であるヴェーダについて、その概要を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
4回	授業内容：ヴェーダ文献 I-2 テキストを読み進めるのに必要な基礎知識や専門用語を解説する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、ヴェーダの種類と部門について整理・確認し説明できるようにする
5回	授業内容：ヴェーダ文献 II-1 インドの哲学的思惟の最高峰であるウパニシャッドの概要について学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
6回	授業内容：ヴェーダ文献 II-2 ウパニシャッドの文献を実際に読み、輪廻、解脱、業などの基本的かつ重要な問題を検討する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、ウパニシャッドについて整理・確認し説明できるようにする
7回	授業内容：正統バラモン系哲学 I 一元論 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
8回	授業内容：正統バラモン系哲学 II 二元論、多元論 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、各哲学学派の概要や主張内容について整理・確認し説明できるようにする
9回	授業内容：原始仏典 I-1 インド仏教の流れを把握し、開祖である釈迦の事跡を辿る 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
10回	授業内容：原始仏典 I-2 原始仏典の中から短編の經典（梵天勸請やはじめての説法など）を読み、仏教の基本的な教説を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、インド仏教の歴史的な概要について整理・確認し説明できるようにする
11回	授業内容：原始仏典 II-1 原始仏典の中から中編の經典（階級の平等、殺人鬼の帰依など）を読み、仏教の基本的な教説を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
12回	授業内容：原始仏典 II-2 原始仏典の中から中編の經典（階級の平等、殺人鬼の帰依など）を読み、バラモン教系の思想との相違点を確認する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、仏教とバラモン系思想との相違点について整理・確認し説明できるようにする
13回	授業内容：原始仏典 III-1 『沙門果経』を読み、釈迦と同時代に活躍した六師外道の説を学び、当時のインドにおける思想の特徴を学ぶ 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と配付資料を読んで、授業内容を確認する
14回	授業内容：原始仏典 III-2 『沙門果経』を読み、釈迦と同時代に活躍した六師外道の説を学び、六師外道の説と釈迦の立場との対比について検討する 事前学修：教科書（読む箇所は前の回にて指定する）を読み、読み方や意味を調べておく 事後学修：配付資料を読み返し、これまで学んだインド諸思想について整理・確認し説明できるようにする
15回	授業内容：試験および解説 試験は論述形式。講義や発表内容を踏まえて、各自最も関心の高かったトピックについて掘り下げて自由に論じてもらう。テキストやノートの参照を認める 事前学修：14回までに学んだ内容を全体的に整理し、不明な言葉や項目などは調べる 事後学修：授業内容を確認・理解し、定着させる

◆教科書 丸沼『バラモン教典・原始仏典』（世界の名著1）長尾雅人編 中央公論社※

〈※上記の本は古本のみで入手可能。インターネットサイト（日本の古本屋やアマゾンなど）にて購入可能。入手不能の場合は初回授業にて対処します。〉

◆参考書 講義内において指示します。

◆成績評価基準 平常点（50%）、試験（50%）：発表やコメント状況などの授業参加の姿勢と最終回に実施する試験による総合評価。
一定以上の出席回数（回数は公表しない）がなければ評価はつけない。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔西洋思想史Ⅱ〕

石井 友人

◆授業概要 近代の哲学は、人間的理性を導き手として世界と対峙しました。本講義では、17世紀から18世紀にかけて、理性の可能性と限界づけが、どのように考えられてきたのかを、カントを中心に学んでいきます。具体的には、感情や懷疑、自由や美、生命といった問題に触れていくことになります。

◆学修到達目標 哲学の基本用語を確認しながら、17、18世紀の学者たちが、理性、感情、自由、美といった事柄について、どのように考えていたのか、その基本について知ることを目的とします。

◆授業方法 配布プリントと教科書（辞書的・資料集的な副読本扱いになります）を用いて講義形式で行います。授業計画は網羅的に記載されていますが、実際の講義では、ここからいくつのトピックを選択することになると思われます（講義の進度によっては授業計画を変更することもある）。また、少なくとも一回は中間課題を提出してもらうことになります。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	カントは何を問題にしたのか？ 独断論と懷疑論について。形而上学は可能か？
	事前学修	教科書のデカルトおよび合理論、経験論の各項目に目を通しておくこと。
	事後学修	形而上学という言葉は後にも出てくるので確認しておくこと。
2回	授業内容	独断論とされる哲学。スピノザについて（カントは独断論の例としてスピノザをあげてはいませんが、講義ではスピノザを扱います）。
	事前学修	教科書のスピノザの項目に目を通しておくこと。
	事後学修	表現という言葉について確認しておくこと。
3回	授業内容	スピノザにおける感情の分析について。
	事前学修	能動、受動とはどのような状況の事だと思うか、自分なりに考えておくこと。
	事後学修	スピノザの言う能動、受動がどのようなものが確認しておくこと。
4回	授業内容	懷疑論とされる哲学。ヒュームについて。ヒュームの因果律批判。
	事前学修	教科書のデカルトとヒュームについての項目に目を通しておくこと。
	事後学修	デカルトの懷疑との違いを考えてみること。
5回	授業内容	ヒュームの議論の続き。
	事前学修	カントの分析判断と総合判断という言葉について確認しておくこと。
	事後学修	ヒュームからカントへの様々な影響について考えてみること。
6回	授業内容	カントの批判哲学について。カントの理性の批判。カントにおける判断の三分類。感性と知性。
	事前学修	教科書のカントの批判哲学の項目に目を通しておくこと。
	事後学修	コペルニクスの転回について確認しておくこと。ヒュームとの違いについて各人で考えておくこと。
7回	授業内容	理性にはなにが可能か？ 形而上学は可能なのか？ 超越論的仮象／超越論的弁証論について。
	事前学修	形而上学が判断の三分類のどの判断であるのか、形而上学についてのカントの問題設定がどのようなものであるのか確認しておくこと。
	事後学修	弁証論については網羅的な説明の時間がないため、各自で確認しておくことが望ましい。
8回	授業内容	カントの実践理性の探求。道徳が成立する条件はなにか？
	事前学修	教科書のカントの道徳哲学の項目に目を通しておくこと。
	事後学修	道徳的な行為と自由の関係について考えてみること。
9回	授業内容	カント 実践理性において形而上学は可能か？ 自由は存在するのか？
	事前学修	因果律を前提にしたとき、自由な行為は可能なのか考えておくこと。
	事後学修	自由は可能であるのか、自分なりに考えてみること。
10回	授業内容	カント 普遍の能力としての判断力 1. 美と崇高、美的判断は普遍的であり得るか？
	事前学修	美などの感性的判断は普遍的か考えてみること。
	事後学修	美とは何であるとされたか確認しておくこと。
11回	授業内容	2. 不調和／不快の美はあるのか？
	事前学修	不調和／不快による美とはどんなものか考えてみること。
	事後学修	崇高とは何が確認しておくこと。
12回	授業内容	3. 目的論的に世界を捉えることは正当化されるか？ カントの生命論。
	事前学修	カントの体系において、目的論が成立する余地があるのか、考えてみること。
	事後学修	カントの考察は成功しているのか、自分なりに調べ、考えてみること。
13回	授業内容	目的論とは異なる観点から、生命について考える。
	事前学修	教科書のベルクソンの項目に目を通しておくこと。
	事後学修	目的論的でも、機械論的でもない生命観について考えてみること。
14回	授業内容	まとめ
	事前学修	講義で分からなかった部分を洗い出しておくこと。
	事後学修	教科書、配布資料等、授業内容を確認しておくこと。
15回	授業内容	最終課題の告知等（通常授業へ変更することもある）。
	事前学修	なし
	事後学修	近代的理性の特徴、評価、問題点について自分なりの観点も取り入れてまとめておくこと。

◆教科書 通材 『西洋思想史Ⅱ P30600』 通信教育教材（教材コード 000570）
〔当日資料配布〕 当日プリント配布

◆参考書

◆成績評価基準 全出席を前提に、中間課題（50%）、最終課題（50%）により評価（両課題とも提出を前提）します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

◇哲学演習 I・II

担当者:金子 佳司

◆授業概要 行為と規範の関係に焦点を当てた哲学的行為論を学びます。具体的には、行為とは何か、行為は規範とどのような関係にあるか、価値と規範はどのような関係にあるか、事実と価値はどのような関係にあるか、行為における因果的連関と自由はどのような関係にあるか、行為の正しさとは何か、などの問題を考察します。

◆学修到達目標 私たちは誰しもそれぞれのよい人生を生きたいと思い、その実現を目指していますが、その実現のための行為はさまざまな規範（為すべきこと、為すべからざること）によって制約されています。そのような私たちの行為に焦点を当てて、過去のさまざまな学説や論争を踏まえながら、自分の人生について考えることができるようになることがこの授業の目標です。

◆授業方法 授業は学生の発表とそれをもとにした質疑応答を中心に行ないますが、教員が解説も行ないます。また、授業中に小テストを行なって、授業内容の理解と自分自身の到達した考えを確認してもらいながら授業を進めていきますが、皆さんのが到達した考えも、できるだけ授業に反映させていきたいと思っています。

◆授業計画

	授業内容	テキスト第I部1「行為について」、2「規範について」の解説
1回	事前学修	テキスト第I部1 (p.7~p.15)、2 (p.16~p.24) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部1、2の内容を授業を踏まえて整理すること。
2回	授業内容	テキスト第I部3「価値と規範」の解説
	事前学修	テキスト第I部3 (p.25~p.33) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部3の内容を授業を踏まえて整理すること。
3回	授業内容	テキスト第I部4「自然主義の誤りについて」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部4 (p.34~p.42) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部4の内容を授業を踏まえて整理すること。
4回	授業内容	テキスト第I部5「実践的知識の構造」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部5 (p.43~p.49) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部5の内容を授業を踏まえて整理すること。
5回	授業内容	テキスト第I部6「意志行為の分析（I）」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部6 (p.50~p.58) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部6の内容を授業を踏まえて整理すること。
6回	授業内容	テキスト第I部7「意志行為の分析（II）」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部7 (p.59~p.68) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部7の内容を授業を踏まえて整理すること。
7回	授業内容	テキスト第I部8「人格の概念」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部8 (p.69~p.77) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部8の内容を授業を踏まえて整理すること。
8回	授業内容	テキスト第I部9「自由と決定」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部9 (p.78~p.88) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部9の内容を授業を踏まえて整理すること。
9回	授業内容	テキスト第I部10「欲望と意志」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部10 (p.89~p.98) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部10の内容を授業を踏まえて整理すること。
10回	授業内容	テキスト第I部11「快楽説をめぐって」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部11 (p.99~p.108) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部11の内容を授業を踏まえて整理すること。
11回	授業内容	テキスト第I部12「功利主義の検討」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部12 (p.109~p.118) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部12の内容を授業を踏まえて整理すること。
12回	授業内容	テキスト第I部13「正義について」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部13 (p.119~p.128) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部13の内容を授業を踏まえて整理すること。
13回	授業内容	テキスト第I部14「嘘と約束」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部14 (p.129~p.139) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部14の内容を授業を踏まえて整理すること。
14回	授業内容	テキスト第I部15「契約と功利」の発表と解説
	事前学修	テキスト第I部15 (p.140~p.149) を読んでおくこと。
	事後学修	テキスト第I部15の内容を授業を踏まえて整理すること。
15回	授業内容	これまでの授業内容の重要な論点の理解度の確認（期末試験）。
	事前学修	これまでの授業内容の重要な論点を理解すること。
	事後学修	これまでの授業内容の重要な論点のうちで自分が理解できていなかったところを見直すこと。

◆教科書 『行為と規範』 黒田亘著 勁草書房

◆参考書(参考文献等) テキスト（『行為と規範』）のp.151~p.155に紹介されている。

◆成績評価基準 平常点35%（授業中に行なう小テスト〔7回行なう予定〕によって評価）、発表15%、理解度確認の試験（期末試験）50%で評価します。なお、やむを得ず欠席する場合には必ず書面で報告してください。

講座内容（シラバス）

〔考古学特講Ⅰ〕

浜田 晋介

◆授業概要 弥生時代の研究は、すでに130年以上の歴史がある。現在われわれが理解する弥生時代・弥生文化の概念は、さまざまな発見や研究方法によって、変化しながら形づけられてきたものである。例えば縄文時代のあとに弥生時代が存在するという現在の常識は、戦後になって一般化したものである。そうした研究の歴史を知ることで、現在の弥生文化の内容を理解することができる。

◆学修到達目標 弥生文化・弥生時代のこれまでに研究をひもとくことで、弥生文化の特色や弥生時代の概念を理解し、現在理解されている弥生文化・弥生時代について、説明することができるようになる。また、考古資料や遺跡・遺構の解釈の方法について学ぶことができる。

◆授業方法 教科書を使用しながら各章に沿って解説を加え、図・写真・概念図・要点指示などをスライドで映していく。また、必要に応じてプリントの配布も行う。また、各回に小テストを行う。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 この講義では研究史を扱っていくが、研究の歴史を調べることの必要性について説明する。 事前学修 教科書「1. 本書を読むにあたって」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
2回	授業内容 弥生時代像 弥生文化研究の現在の到達点を説明する。 事前学修 教科書「2. 弥生文化研究の現在の到達点」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
3回	授業内容 戦後の弥生時代の枠組み 戦前の研究を受けて、戦後の弥生文化・弥生時代の枠組みがどのように変化したのかを説明する。 事前学修 教科書「16. 戦後の弥生時代の枠組み」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
4回	授業内容 弥生の民族論争 縄文文化と弥生文化の民族のとらえ方が、戦後どのように変化したのかを説明する。また、第1回～第4回までの内容について小テストを行う。 事前学修 教科書「17. 戦後の弥生民族論争」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
5回	授業内容 弥生文化の東漸論 弥生文化の波及について、戦後どのように変化したのかを説明する。 事前学修 教科書「18. 戦後の東漸論とその変化」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
6回	授業内容 戦後の研究方法の変化 戦前の皇国史観から唯物史観への変化と、プロセス考古学について解説する。 事前学修 教科書「20. 戦後の研究方法」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
7回	授業内容 金属器について 弥生文化と金属器の関係について、戦前の考え方を含め解説する。 事前学修 教科書「21. 金属器の在り方」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
8回	授業内容 階級の形成 階級がどのように生まれるのか。戦前を含め代表的な階級形成論を解説する。また、第5回～第8回までの内容について小テストを行う。 事前学修 教科書「22. 階級社会の形成論」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
9回	授業内容 弥生農業の実像 弥生文化の農業が戦後どのように理解されてきたのか、を説明する。 事前学修 教科書「23. 弥生農業の実像」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
10回	授業内容 争乱の時代1 弥生時代は争乱の時代である、という根拠と批判について、集落の面から解説する。 事前学修 教科書「24. 高地性集落論」「25. 争乱の時代」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
11回	授業内容 争乱の時代2 弥生時代は争乱の時代である、という根拠と批判について、人骨・遺物から解説する。 事前学修 教科書「24. 高地性集落論」「25. 争乱の時代」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
12回	授業内容 弥生時代の集落 弥生時代の集落に関する研究について解説する。 事前学修 教科書「26. 大規模集落と小規模集落」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
13回	授業内容 弥生墳墓から古墳へ 古墳の発生と弥生時代の墳墓の関係が、どのように理解されてきたのかを解説する。 事前学修 教科書「27. 墓制論」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
14回	授業内容 弥生時代の年代 弥生時代の実年代がどのように導き出されてきたのか、について解説する。 事前学修 教科書「29. 年代決定論」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。
15回	授業内容 自然科学分析の適用と限界 考古学資料に対する自然科学分析の使用事例とその問題点について、脂肪酸分析や年輪年代測定法を取り上げて解説する。また、第1回～第15回までの内容についてまとめテストを行う。 事前学修 教科書「30. 自然科学分析の応用」を熟読しておくこと。 事後学修 授業の内容とノートを要約してまとめ、理解の足りなかつた内容や用語について調べる。

◆教科書 『丸沼』『弥生文化読本』浜田晋介 六一書房 2018年2月28日発行

◆参考書

◆成績評価基準 各回の小テスト（それぞれ20%）と最後にまとめテスト（40%）を実施し、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔日本史特講Ⅱ〕

八馬 朱代

◆授業概要 9～11世紀における天皇・貴族の神祇信仰について、石清水八幡宮を中心に考察し、政治と宗教との関わりについて説明していく。八幡神は古代・中世にかけて伊勢神宮と並び「宗廟」と称され、天皇・貴族・武士の人々に信仰された神社である。日本固有の神祇信仰が平安時代において、どのような役割を果たし、崇敬されたのかについて解説していく。平安時代の国家と神祇信仰の関係について説明できることを目標とする。

◆学修到達目標 平安時代中期は主に摂関政治が行われていた時代とされ、摂政・関白をつとめた藤原氏が主体として政治史が語られることが多いが、この時期の天皇と摂関がどのような関係性であったのか、皇位継承問題や宗教と政治との関わりを見ることで学んでいく。この時期の天皇と摂関との関係、国家と宗教との関係について知り、説明することができる。

◆授業方法 配布したプリントを使用して講義を行います。適宜、授業で史料を読むので、史料の読み方を学んでもらいたい。また、授業で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で手にとってみるよう心がけてください。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	授業の進め方、オリエンテーション・平安時代の政治と宗教との関係について考える。
	事前学修	最初に授業の進め方を説明し、次に神社と寺院との関係や政治と宗教との関わりについて説明する。
	事後学修	平安時代の政治史について高校日本史程度の知識を持っておくこと。
2回	授業内容	文徳天皇の皇位継承について文徳天皇の後継についてどのような問題があったのかを考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	授業内容や当該期の人間関係をノートに整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
3回	授業内容	石清水八幡宮の創立について八幡信仰や石清水八幡宮の創立と皇位継承問題との関わりについて考える。
	事前学修	八幡信仰について辞書等で調べておくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
4回	授業内容	神祇制度の変質について平安時代の国家祭祀としての神祇信仰について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。授業内でわからない用語は辞書等で調べておくこと。
5回	授業内容	御靈信仰について平安時代に度々行われた御靈会などについて、当時の人々の信仰について考える。
	事前学修	辞書等で御靈信仰について調べておくこと。配布資料を読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
6回	授業内容	承平・天慶の乱と石清水八幡宮について承平・天慶の乱について説明し、内乱に対して朝廷がどのような対応したのかを考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で承平・天慶の乱について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
7回	授業内容	10世紀の皇位継承について当該期の天皇と藤原氏との関係や皇位継承、摂関政治について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
8回	授業内容	円融天皇と石清水八幡宮について円融天皇の皇位継承問題と石清水八幡宮への信仰について考える。
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の平安時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
9回	授業内容	一条天皇と石清水八幡宮について一条天皇の行った神社行幸と一条天皇と藤原氏との関係について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
10回	授業内容	藤原氏の神祇信仰について皇位継承と深い関わりのある藤原氏がどのような神社を信仰し、それが国家祭祀へ編入されることについて考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で春日社や大原野社、北野社について調べておくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。授業内でわからない用語は辞書等で調べておくこと。
11回	授業内容	女院の石清水八幡宮・住吉社・四天王寺行啓について一条天皇の生母の東三条院、後一条、後朱雀天皇の生母上東門院の神社行啓について考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。辞書等で当該期の人物について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
12回	授業内容	後一条天皇以降の皇位継承について後一条天皇以降の皇位継承について、天皇家と藤原氏との関係を踏まえて考える。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	授業内容を整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
13回	授業内容	白河天皇の即位と石清水八幡宮について白河天皇の即位とその後の皇位継承について、白河天皇の石清水八幡宮・賀茂社への信仰について考える。
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の院政期の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	配布した資料を熟読し、重要な部分についてノートをまとめておくこと。
	事後学修	要点を再確認し、授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	前回の授業で指摘した部分をノートにまとめておくこと。
	事後学修	授業内容を確認して、試験の内容についてプリントやノートで再確認しておくこと。

◆教科書 当日配布資料

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

◆成績評価基準 最終試験 70%、平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：授業終了時に教壇で対応します。

注意

講座内容（シラバス）

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

坂口 太助

◆授業概要 歴史を学ぶためには、学びたい時代に生きていた人によって作られた、様々な文献・史料（日記、回想、評論など）を読み込むことが重要である。本講義は、『昭和東京ものがたり 2』を題材として日本近代史を対象とした文献・史料の読み方、そしてより深く読む（内容を把握する）ための調べ方を学ぶことを目標とし、同時に文献・史料から浮かび上がる近代日本の特徴や問題点を考えていく。

◆学修到達目標 1. ある文献・史料について、ただ「読む」だけではなく、その内容について自ら調べ、確認して本当の意味での文献・史料を「読む（読み込む・読み解く）」ことができるようになる。
2. 「1」に基づき、文献・史料から歴史上の出来事について自ら「考える」ことができるようになる。

◆授業方法 受講者による報告とそれを受けた質疑応答・議論が中心の授業となる（教員もコメントを行うがあくまで中心は受講者、また理解を深めるために映像資料を視聴することもある）。受講者確定後、各受講者に教科書の担当ページを連絡するので、授業開始日までに報告用プリントを作成して授業に出席してもらうこととなる。なお「報告用プリントはA3用紙2~3枚、報告時間は20~30分」が目安となる（受講者数によって増減）。

◆履修条件

◆授業計画【各90分】

1回	授業内容	ガイダンス及び事前解説①：この講義の目的・到達目標・評価方法等について確認するとともに、教科書の特徴等について解説する。
	事前学修	指定した教科書（山本七平『昭和東京ものがたり 2』日経ビジネス人文庫、2010年。『1』ではないので注意）は必ず購入して読んでおくこと。
	事後学修	講義の目的や評価方法、教科書の特徴について確認する。
2回	授業内容	事前解説②：この授業で扱う昭和戦前期を中心に、日本の近代とはどのような時代であるのかを解説する。
	事前学修	日本の近代史を対象とした授業を受講したことがある場合には内容を簡単に振り返っておくこと。
	事後学修	事前解説を参考に、報告に向け準備を進める。
3回	授業内容	事前解説③：前回に続き、この授業で扱う時代特に「戦争」に注目して解説する。
	事前学修	前回の内容をふまえての授業となるので内容を確認しておくこと。
	事後学修	事前解説を参考に、報告に向け準備を進める。
4回	授業内容	事前解説④：教科書の著者である山本七平について解説する。
	事前学修	参考文献を読むなどして、教科書の著者・山本七平についてある程度は調べておくこと。
	事後学修	事前解説を参考に、報告に向け準備を進める。
5回	授業内容	【課題学習（ここまでまとめて）】「昭和戦前期という時代を考える」
	事前学修	第1~4回の授業と報告準備をふまえ、昭和戦前期という時代をどのように考えるのか整理すること。
	事後学修	課題学習を通じて考えたこと・学んだことをふまえ、報告に向け準備を進める。
6回	授業内容	昭和初期の『昭和東京ものがたり2』を読む①：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告初日（第6~10回）は概ね昭和初期の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告初日に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
7回	授業内容	昭和初期の『昭和東京ものがたり2』を読む②：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告初日（第6~10回）は概ね昭和初期の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告初日に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
8回	授業内容	昭和初期の『昭和東京ものがたり2』を読む③：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告初日（第6~10回）は概ね昭和初期の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告初日に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
9回	授業内容	昭和初期の『昭和東京ものがたり2』を読む④：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告初日（第6~10回）は概ね昭和初期の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告初日に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
10回	授業内容	昭和初期の『昭和東京ものがたり2』を読む⑤：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告初日（第6~10回）は概ね昭和初期の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告初日に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
11回	授業内容	昭和10年前後の『昭和東京ものがたり2』を読む①：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告2日目（第11~15回）は概ね昭和10年前後の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告2日目に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
12回	授業内容	昭和10年前後の『昭和東京ものがたり2』を読む②：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告2日目（第11~15回）は概ね昭和10年前後の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告2日目に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
13回	授業内容	昭和10年前後の『昭和東京ものがたり2』を読む③：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告2日目（第11~15回）は概ね昭和10年前後の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告2日目に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
14回	授業内容	昭和10年前後の『昭和東京ものがたり2』を読む④：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告2日目（第11~15回）は概ね昭和10年前後の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告2日目に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。
15回	授業内容	昭和10年前後の『昭和東京ものがたり2』を読む⑤：正確な担当ページは受講者確定後に決定するが、報告2日目（第11~15回）は概ね昭和10年前後の部分について受講者に報告してもらう。
	事前学修	報告者以外の受講者も必ず教科書の報告2日目に扱う部分を読んでおくこと。
	事後学修	質疑応答・講師コメント等をふまえ、改善点を確認する。

◆教科書 囮沼『昭和東京ものがたり 2』山本七平、日経ビジネス人文庫、2010年
「1」ではなく「2」であることに注意。受講者は必ず購入すること。文庫版が入手できない場合は、1990年に読売新聞社から刊行された単行本（の古書）でも良い。

◆参考書 囮沼『山本七平の思想 日本教と天皇制の70年』東谷暁、講談社現代新書、2017年
山本七平を取り上げた文献は多数ある。とりあえず新しいものとして本書を挙げておく。

◆成績評価基準 報告 50%、平常点（授業参画度）50%。試験は実施しない。報告と、他の受講者の報告を受けての質疑応答・議論への参画度から評価する。なお、毎回出席することが前提となる。

◆授業相談（連絡先）：受講者確定後、各受講者に教科書担当ページ・相談用メールアドレスを記載したプリントと、「報告用プリント作成のてびき」を送付する。

注意

講座内容（シラバス）

〔経済史総論〕

飯島 正義

◆授業概要 授業は、1870年代以降の時期を中心に進めています。具体的には、世界資本主義体制の構造変化、列強による競合の激化と戦争、植民地の再分割・支配の強化、両大戦期の植民地の状況、第2次世界大戦後植民地であった国・地域がどのように独立、工業化を図っていったのかについて学んでいきます。

◆学修到達目標 1. 19世紀後半からの世界資本主義の構造変化について説明することができるようになる。
2. 第1次・第2次世界大戦の経済的背景を説明できるようになる。
3. 両大戦が植民地諸国・地域に与えた影響と独立後の植民地諸国における工業化の過程について説明することができるようになる。

◆授業方法 講義形式。授業は、オーディオ方式を基本とし、当日配信するPower Point資料で進めています。理解を確認するためには何回か「確認問題」の提出をお願いします。「確認問題」の解答・解説はスクーリング中にまとめて提示し、質問も受け付けます。双方面型授業も組み合わせていきたいと考えています。その場合にはClassroomで改めて連絡します。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

回	授業内容	経済史をなぜ学ぶのか。
1回	事前学修	シラバスで全体の授業内容を確認しておくこと。
	事後学修	配布プリントの見直しを行うとともに、再度全体の授業内容を確認し、参考文献等で関連するところを読んでおくこと。
2回	授業内容	後発国の資本主義化(1) フランス・アメリカ・ドイツ
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	フランス、アメリカ、ドイツの資本主義化の特徴についてそれぞれまとめておくこと。
3回	授業内容	後発国の資本主義化(2) 日本
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	日本の資本主義化の過程と特徴についてまとめておくこと。
4回	授業内容	19世紀後半の大不況と世界経済
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	19世紀後半以降の世界経済の構造的変化についてまとめておくこと。
5回	授業内容	大不況と第2次産業革命
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	第2次産業革命の内容とその影響についてまとめておくこと。
6回	授業内容	帝国主義的拡張の時代
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	帝国主義とは何かについて整理まとめておくこと。
7回	授業内容	イギリスによるインドの植民地化
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	イギリスのインドにおける植民地化の過程と統治方法についてまとめておくこと。
8回	授業内容	欧米列強による東南アジアの植民地化
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	欧米列強による東南アジアの植民地化の過程と特徴についてまとめておくこと。
9回	授業内容	ヨーロッパ列強によるアフリカの植民地化
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	ヨーロッパ列強によるアフリカの植民地化の過程と特徴についてまとめておくこと。
10回	授業内容	両大戦期の欧米経済
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	第1次世界大戦から第2次世界大戦までの時期の欧米経済の状況についてまとめておくこと。
11回	授業内容	両大戦と植民地
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	両大戦が植民地に及ぼした影響についてまとめておくこと。
12回	授業内容	第2次世界大戦後の世界経済－冷戦体制
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	第2次世界大戦後の世界経済の枠組みについてまとめておくこと。
13回	授業内容	植民地の独立と工業化(1) 東南アジア
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	東南アジアの戦後の独立、工業化についてまとめておくこと。
14回	授業内容	植民地の独立と工業化(2) アフリカ
	事前学修	前回の授業内容を再度確認するとともに、プリント資料を中心に参考図書等で今回の授業内容の関係するところを予め理解しておくこと。
	事後学修	アフリカの戦後の独立、工業化についてまとめておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	これまでの内容のポイントを再度確認しておくこと。
	事後学修	設題に対して、重要な事項を落とさず論理的な記述ができたかどうかを確認する。

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 授業時にあわせて授業資料を配信します。

◆参考書 **〔丸沼〕『エレメンタル欧米経済史』** 馬場哲也著 晃洋書房、2012年

◆成績評価基準 授業内における確認問題の提出（40%）、試験（60%）

◆授業相談（連絡先）：遠隔授業ですので、授業日を中心にGメール、Classroomでお願いします。メール等が多数の場合、返信が遅れることがあります。

注意

◇経済開発論

担当者:田宮 憲

◆授業概要 この授業では、発展途上国の開発問題について、主に経済学的アプローチを用いながら解説します。具体的には以下のトピックスについて学修します。（1）開発とは何か、（2）戦後の開発問題の歴史的変遷、（3）さまざまな開発理論、（4）開発戦略としての貿易、対内直接投資問題。上記トピックスについて、教科書に従って、解説します。

◆学修到達目標 経済開発に関する歴史・理論・政策の基本を整理し、戦後の開発理論・開発戦略の変遷を理解することを学修目標とします。具体的には、本講義の受講によって、受講生は、（1）「開発」という概念の整理、（2）開発問題の歴史的展開、（3）開発理論の変遷、（4）実際の開発戦略の諸形態を理解し、説明できるようになります。

◆授業方法 オンライン授業のため、授業計画に記された各回の内容について、講義資料と音声をアップします。各回の学修後、その内容をリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）にまとめ、提出してください。そのまとめが最終レポートの準備になるように配慮します。

◆授業計画

	授業内容	ガイダンスおよび開発経済の全体像の解説（1）
1回	事前学修	
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
2回	授業内容	ガイダンスおよび開発経済の全体像の解説（2）
	事前学修	第1回授業の復習
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
3回	授業内容	「開発」とは何か。その一般的な定義、概念について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.1~10 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
4回	授業内容	発展途上国の特徴について。発展途上国の定義、共通点、相違点について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.11~20 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
5回	授業内容	開発問題の歴史的展開（1）。植民地支配から戦争直後の開発問題について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.21~30 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
6回	授業内容	開発問題の歴史的展開（2）。第三世界の連帯、国連の関わり等について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.30~37 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
7回	授業内容	開発問題の歴史的展開（3）。プレビッシュ報告、新国際経済秩序について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.37~47 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
8回	授業内容	開発問題の歴史的展開（4）。後発開発途上国、新興工業国について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.48~60 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
9回	授業内容	経済発展段階説、ハロッド＝ドーマー型成長理論等の初期の開発理論について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.61~65 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
10回	授業内容	二重経済発展理論、従属理論等の構造論的理論モデルについて解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.65~69 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
11回	授業内容	発展途上国経済における新自由主義的アプローチの有益性と限界について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.69~73 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
12回	授業内容	ソーシャル・キャピタルと経済発展の関係について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.80~84 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
13回	授業内容	発展途上国と国際貿易との関わり、経済発展と国際貿易の関係について解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.123~130 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
14回	授業内容	輸出促進戦略、輸入代替戦略等の貿易戦略を解説します。
	事前学修	指定教科書の pp.130~136 を読んでください。
	事後学修	受講後にリフレクション・ノート（授業の振り返りノート）の提出
15回	授業内容	「最終レポート」に関する説明
	事前学修	前回までの授業内容を指定教科書、リフレクション・ノートをもとに復習してください。
	事後学修	「最終レポート」の作成

◆教科書 辻 忠博 著 『経済開発のエッセンス』 創成社 2015年

◆参考書(参考文献等) 『経済開発論』 加藤義喜・辻忠博・陸亦群 日本大学通信教育部教材

◆成績評価基準 (1) リフレクション・ノートの提出（50%）、(2) 最終レポート（50%）で評価する。リフレクション・ノートとは、各回の授業について、「授業内容のまとめ」と「コメント・感想」を記したもの。

講座内容（シラバス）

〔貨幣経済論〕 オープン受講：不可

藤本 訓利

- ◆授業概要 この講義では、J. M. ケインズが1936年に著した『雇用・利子および貨幣の一般理論』（以下、『一般理論』と略す）の体系を紹介し、ケインズが、その当時の経済学（古典派理論）のどのように批判したかを説明します。また、今日のマクロ経済学がケインズのこの著書に大きく依拠していることにも触れたいと思う。
- ◆学修到達目標 ケインズ経済学（『一般理論』体系）の骨組みを学び、ケインズ経済学の視点から、今日のマクロ経済の動きや経済政策について、自分なりの考えを述べることができます。
- ◆授業方法 テキストに沿って、ケインズ『一般理論』のコピーを配付しながら、板書で講義を進めます。また、テーマごとに練習問題を行い、理解度を深めるようにします。
- ◆履修条件 事前にマクロ経済学の分野を少し勉強しておくと、理解が深まるでしょう。
- ◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	マクロ経済学の誕生やケインズの生涯や『一般理論』の誕生について説明します。
	事前学修	ネットでケインズの生涯やケインズの著作などについて調べてみましょう。
	事後学修	配布資料を参考にケインズ『一般理論』が誕生した背景に整理しておきましょう。
2回	授業内容	労働市場分析：古典派とケインズの雇用理論について説明します
	事前学修	テキストの83-87, 99-101ページを予習しておきましょう。
	事後学修	古典派理論とケインズ理論の違いをしっかりと理解しましょう。
3回	授業内容	有効需要の原理①：有効需要の原理の骨子とケインズ型消費関数について説明します。
	事前学修	テキストの17-21ページを予習しておきましょう。
	事後学修	ケインズ型消費関数の特徴を理解するとともに、簡単な計算問題も解けるようにしましょう。
4回	授業内容	有効需要の原理②：財市場の均衡（均衡国民所得の決定理論）について説明します。
	事前学修	テキストの23-28, 101-105ページを予習しておきましょう。
	事後学修	有効需要の原理（国民所得の決定理論）の骨組みを理解すると同時に、簡単な計算問題も解けるようにしておきましょう。
5回	授業内容	過少雇用均衡と投資乗数について説明します。
	事前学修	テキストの30-33, 113-114ページを予習しておきましょう。
	事後学修	公共投資の必要性と、その効果について理解するとともに、簡単な計算問題も解けるようにしておきましょう。
6回	授業内容	ケインズ型投資関数について説明します。
	事前学修	テキストの105-110ページを予習しておきましょう。
	事後学修	ケインズ型投資関数に関する重要な専門用語を整理し、理解しておきましょう。
7回	授業内容	流動性選好説①：貨幣の保有動機と貨幣需要関数について説明します。
	事前学修	テキストの73-77ページを予習しておきましょう。
	事後学修	貨幣の3つの保有動機と貨幣の2つの需要関数について整理し、理解しておきましょう。
8回	授業内容	流動性選好説②：貨幣市場の均衡（均衡利子率の決定）について説明します。
	事前学修	テキストの77-80ページを予習しておきましょう。
	事後学修	債券価格と利子率の関係、利子率の決定メカニズム（貨幣市場の均衡）について理解しましょう。
9回	授業内容	『一般理論』体系①：貨幣のトランズミッション・メカニズムと古典派の貨幣觀について説明します。
	事前学修	テキストの111-113ページを予習しておきましょう。
	事後学修	ケインズが『一般理論』で、古典派理論を批判し、何を言おうとしたのか整理しておきましょう。
10回	授業内容	『一般理論』体系②：ケインズ革命の意義
	事前学修	これまでの講義を振り返り、労働市場・財市場・貨幣市場に関する古典派理論とケインズ理論の違いについて事前に整理しておきましょう。
	事後学修	古典派理論とケインズ『一般理論』の違いをしっかりと理解しましょう。
11回	授業内容	『一般理論』の一般化①：IS-LM分析：IS-LM曲線の導出と財市場・貨幣市場の同時均衡
	事前学修	テキストの115-124ページを予習しておきましょう。
	事後学修	IS曲線やLM曲線の定義・特徴・シフト要因について整理しておきましょう。
12回	授業内容	『一般理論』の一般化②：IS-LMモデルと財政金融政策
	事前学修	テキストの129-141ページを予習しておきましょう。
	事後学修	拡張的財政政策の効果（とくに、クラウディング・アウト効果）についてIS-LMモデルで説明できるように整理しておきましょう。
13回	授業内容	『一般理論』の再評価
	事前学修	A. レイヨンフーブッドやR. W. クラウサーという経済学者について、ネットなどをを利用して調べてみましょう。
	事後学修	レイヨンフーブッドを中心としたケインズ再評価主義者の主張について整理しておきましょう。
14回	授業内容	まとめ
	事前学修	ノートを中心に復習し、理解できていない箇所を各自、確認しておきましょう。
	事後学修	再度、レジメ全体に目を通し、計算問題も解けるようにしておきましょう。
15回	授業内容	筆記試験
	事前学修	レジメや練習問題を中心によく復習をしておきましょう。
	事後学修	

◆教科書 通材『貨幣経済論 R31900』（教材コード000440）』

◆参考書 特になし

◆成績評価基準 平常点（練習問題等30%）と筆記試験（70%）で総合評価します。4日間、出席することを前提として評価します。詳細は、最初の講義時間に説明します。

◆授業相談（連絡先）：最初の授業にお知らせします。

注意

講座内容（シラバス）

〔自然地理学概論〕

柴原 俊昭

◆授業概要 地理学は自然と人間の関係を探求する学問である。人間を取り巻く自然は、人間の生活範囲や生活スタイル、ものの見方・考え方などあらゆる面で人間社会に影響を与えている。しかし、人間も主体的に自然に働きかけ、自然環境を変えてきた。自然と調和した生活を営むためには自然の構造やメカニズムを正しく認識する必要がある。本講義では自然を構成している地形・気候・植生・土壤などのなかから、気候・植生に焦点をあて、気候変動、気候メカニズム、世界の気候分布、日本の気候特徴、世界の森林分布、日本の森林特徴などについて学んでいく。

◆学修到達目標 1) 気候変動の周期性、気候のメカニズムについて説明することができる。

2) 各気候区、日本の気候の特徴を説明することができる。

3) 世界の森林・日本の森林の特徴、および森林の効果を説明することができる。

4) 森林の人為的影響について説明することができる。

5) 都市化と自然環境の関わりについて説明することができる。

◆授業方法 配布プリントをもとに講義を行う。前半は気候環境について、後半は森林環境について講義を行う。黒板に板書することが多く、ノートは必需品である。復習はノートをもとにまとめておくこと。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	地理学と何か、自然地理学の必要性について説明する。また、授業の内容の説明、評価方法について説明する。
	事前学修	身近な自然で、人間への影響について考えておくこと。
	事後学修	授業内容をノートにまとめ、整理しておくこと。
2回	授業内容	第四紀気候変動—第四紀の気候変動の周期性、現在の位置づけ、今後の将来予測について解説する。
	事前学修	気候が変化したら生活がどのように変化するか、考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。特に気候変動の特徴と現在の位置づけを理解しておく。
3回	授業内容	後氷期気候変動—訳 1 万年間の気候変動と人間生活への影響について解説する。
	事前学修	気候が変化したら生活がどのように変化するか、考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。特に気候変動の特徴と現在の位置づけを理解しておく。
4回	授業内容	気候システム—大気の循環、世界の気候帯について解説する。
	事前学修	世界の気候帯について、その特徴について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。特に雨の降る地域と、降らない地域を理解する。
5回	授業内容	気候改変—人為的作用による気候の改変について解説する。
	事前学修	現在の環境問題について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。特にヒートアイランドの発生要因について理解する。
6回	授業内容	日本の気候—日本の気候の特徴について解説する。
	事前学修	日々の生活の中で考えられる日本の気候の特徴について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
7回	授業内容	世界の森林—森林の生育条件、世界の森林の特徴について解説する。
	事前学修	世界の森林について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
8回	授業内容	日本の森林—日本の森林の種類、特徴について解説する。
	事前学修	身近な森林の特徴について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
9回	授業内容	森林の効用—森林の効果・効用について解説する。
	事前学修	緑があるとどのような効果があるか、考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
10回	授業内容	森林の生態—森林、土壤、動物のかんけいについて解説する。
	事前学修	森林と土壤のかんけいについて考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
11回	授業内容	土壤の生成—土壤と人間の関わり、土壤の生成、土壤の種類について解説する。
	事前学修	土壤と人間の関わりについて考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
12回	授業内容	熱帯林の破壊、熱帯林の利用、生態的特徴について解説する。
	事前学修	環境問題のひとつである熱帯林の破壊について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
13回	授業内容	マツ林の変遷—飛鳥時代から現在までのマツ林の変遷について解説する。
	事前学修	身近なかなマツ林の状態について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
14回	授業内容	都市化と自然—都市化に伴い自然の変化、および自然への働きかけについて解説する。
	事前学修	身近な自然の変化について考えておくこと。
	事後学修	ノートを整理し、理解しておくこと。
15回	授業内容	試験と解説—試験とその内容について解説する。
	事前学修	今までのノートをまとめ、まとめておくこと。
	事後学修	試験の内容の確認、整理をしておくこと。

◆教科書 **〔当日資料配布〕**教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

◆参考書 高等学校地理教科書（新編詳解地理 B、二宮書店）（新詳地理 B、帝国書院）など。

『はじめての地理学』富田啓介著、ベレ出版、2017

『世界がわかる地理学入門』水野一晴著、ちくま新書、2018

◆成績評価基準 出席していることを前提に試験 100%で評価する。出席が8割満たない場合は採点対象にならない。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

講座内容（シラバス）

〔英語科教育法Ⅳ〕

市川 泰弘

◆授業概要 本講義では英語を教える目的を見据え、日本の英語教育の現状を踏まえながら、今まで提案されてきた第2言語習得理論を概観し、英語以外の言語での成果をみながらそれぞれの理論が実際の英語教育にどのように生かすことができるかを考察していく。

◆学修到達目標 本講義の目標は、1) 第2言語習得理論の概要を理解し、2) これらの理論が実際の英語教育へどのように生かすことができるかをまとめ、3) 具体の方策を考えて行くことである。さらに個々の内容は当然学生・生徒のモティベーション・能力の違いによって変化していくものであるから、その変化に対応できる能力および対応の基盤となる英語力を修得し、様々な教えるための方策を作成できるようになります。

◆授業方法 テーマを設定し、グループディスカッションを行い、発表をしてもらいます。テーマに関する資料は事前あるいは当日配布し、決められた時間で内容をまとめ、議論を進めて行きます。テーマごとにその日の最後にレポートを作成、提出してもらいます。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：行動主義を概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。
1回	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
2回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：生得主義を概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
3回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：対照分析を概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行い、最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
4回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：認知主義を概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
5回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：オーラルアプローチを概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
6回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：ナチュラルアプローチを概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
7回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：コミュニケーションアプローチを概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
8回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：Task-based Approach を概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
9回	授業内容	第二言語習得理論の歴史について：その他のアプローチを概観し、それに沿った資料を踏まえてテーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
10回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について小学校の英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part I
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
11回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について小学校の英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part II
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
12回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について中学校での英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part I
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
13回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について中学校での英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part II
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
14回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について高等学校での英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part I
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。
15回	授業内容	第二言語習得理論の具体的対応について高等学校での英語教育を中心に、配布した資料を使いながら、テーマディスカッションを行う。最後にレポートを作成し、提出する。Part II
	事前学修	参考文献の授業内容に関わる部分を読みまとめておくこと。
	事後学修	配付資料を復習し、ポイントを整理しておくこと。

◆教科書 資料を作成し、配布するか、使用する資料がダウンロードできるサイトを示します。

◆参考書 『行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－』 JACET 教育問題研究会編 三修社 2017 年
『英語教師のための第二言語習得論入門』 白井恭弘 大修館書店

Brown, H.D. *Teaching by Principles - An Interactive Approach to Language Pedagogy* (4th Edition) Longman

◆成績評価基準

◆授業相談（連絡先）：

注意

・令和2年度東京スクーリング(2月期)第1期 開講講座一覧

講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
Q1A1	英語 A	和泉 周子	1	C10100	英語 I		オンデマンド	60名	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				C10200	英語 II				2年	
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
Q1A2	英語 B	大庭 香江	1	C10100	英語 I		オンデマンド	60名	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				C10200	英語 II				2年	
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
Q1A3	憲法	名雪 健二	2	K20100	憲法		オンデマンド	60名	※	・法学部のみ1学年以上申込可。それ以外は2学年以上申込可。
Q1A4	国文学史 I	鈴木 雅裕	2	M30100	国文学史 I		オンデマンド		2年	
Q1A5	英作文 II	アレックス ブラウン	2	N30500	英作文 II	×	オンデマンド	60名	2年	・スクーリング1講座の合格で単位完成する科目です。
Q1A6	英米事情 II	石川 勝	2	N31600	英米事情 II	×	オンデマンド	60名	2年	・スクーリング1講座の合格で単位完成する科目です。
Q1A7	英語学演習	山岡 洋	1	N401S0	英語学演習 I	×	オンデマンド ZOOM	60名	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				N402S0	英語学演習 II					
				N403S0	英語学演習 III					
Q1A8	日本史特講 II	堀川 徹	2	Q30900	日本史特講 II		オンデマンド	60名	2年	
Q1A9	金融機関論	谷川 孝美	2	S311S0	金融機関論		オンデマンド ZOOM	100名	2年	
Q1AA	教育制度論	佐久間 邦友	2	T20200	教育制度論	×	オンデマンド ZOOM		2年	・スクーリング1講座の合格で単位完成する科目です。

注意事項

・開講方法は、変更が入る可能性があります。

・令和2年度東京スクーリング(2月期)第2期 開講講座一覧

講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
Q1B1	英語 C	小川 佳奈	1	C10100	英語 I		オンデマンド	60名	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				C10200	英語 II				2年	
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
Q1B2	英語 D	中村 則子	1	C10100	英語 I		オンデマンド	60名	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				C10200	英語 II				2年	
				C10300	英語 III					
				C10400	英語 IV					
Q1B3	民法III	長谷川 貞之	2	K30200	民法III		オンデマンド	60名	2年	
Q1B4	国文学史II	布村 浩一	2	M30200	国文学史II		オンデマンド		2年	
Q1B5	異文化間コミュニケーション概論	大庭 香江	2	N31700	異文化間コミュニケーション概論	×	オンデマンド		2年	・スクーリング1講座の合格で単位完成する科目です。
Q1B6	英米事情I	鈴木 ふさ子	2	N31500	英米事情I	×	オンデマンド		2年	・スクーリング1講座の合格で単位完成する科目です。
Q1B7	英米文学演習	山下 登子	1	N404S0	英米文学演習I		オンデマンド	60名	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず確認してください。
				N405S0	英米文学演習II					
				N406S0	英米文学演習III					
Q1B8	西洋史入門	後藤 秀和	2	Q20300	西洋史入門		オンデマンド ZOOM	60名	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可、それ以外は2学年以上申込可。
Q1B9	考古学概説	山本 孝文	2	Q30500	考古学概説		オンデマンド	60名	2年	
Q1BA	哲学概論	齋藤 隆	2	P30300	哲学概論		オンデマンド ZOOM		2年	
Q1BB	東洋思想史II	本間 直人	2	P30700	東洋思想史II		オンデマンド		2年	

注意事項

・開講方法は、変更が入る可能性があります。

講座内容（シラバス）

〔英語A〕

和泉 周子

◆授業概要 本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになります。

◆学修到達目標 1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できるようになる。
2. 英文の内容を正確に把握することができるようになる。

◆授業方法 授業は Google Classroom を使用し、オンデマンド方式で実施します。

授業動画を視聴後、期限までに Google Classroom 内の指定された場所に指定された方式で課題を提出してください。
本授業の事前学修・事後学修の時間は各 2 時間を目安としています。

◆履修条件 令和 2 年度夏期スクーリング（前期）『英語 J』（和泉周子）・令和 2 年度夏期スクーリング（前期）『英語 U』（和泉周子）・
令和 2 年度夏期スクーリング『英語 C』（和泉周子）とは積み重ね不可

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	ガイダンス：授業内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 1 The Hungry Cat：現在時制・現在進行形の文法確認
	事前学修	①シラバスを確認する。② GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読む。
	事後学修	現在時制・現在進行形の内容をノート等に整理する。
2回	授業内容	Unit 1 The Hungry Cat：現在時制・現在進行形の文法演習と READING の読解（前半部）
	事前学修	①授業計画の第 1 回目で学習・整理した内容を確認後、PRACTICE の問題を解く。② READING の英文（1-17 行目）を訳す。
	事後学修	① PRACTICE は授業計画の第 1 回目で学習・整理した内容と照らし合わせ、間違えた問題を中心にして復習する。② READING は各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、1-17 行目の内容全体を理解する。
3回	授業内容	Unit 1 The Hungry Cat : READING の読解（後半部）
	事前学修	READING の英文（18-34 行目）を訳す。
	事後学修	各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、18-34 行目の内容全体を理解する。
4回	授業内容	Unit 1 The Hungry Cat : READING の内容理解問題
	事前学修	READING 全体の内容を確認後、COMPREHENSION の問題を解く。
	事後学修	①間違えた問題を READING の該当箇所と照らし合わせて復習する。② COMPREHENSION の中に出てきた重要表現等を確認・復習する。
5回	授業内容	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie : 過去時制・過去進行形の文法確認及び演習と READING の読解（5 行目まで）
	事前学修	① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読む。② PRACTICE の問題を解く。③ READING の英文（1-5 行目）を訳す。
	事後学修	①過去時制・過去進行形の内容をノート等に整理する。② PRACTICE は学習・整理した内容と照らし合わせ、間違えた問題を中心にして復習する。③ READING は各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、1-5 行目の内容全体を理解する。
6回	授業内容	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie : READING の読解（6 行目以降）
	事前学修	READING の英文（6-38 行目）を訳す。
	事後学修	各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、6-38 行目の内容全体を理解する。
7回	授業内容	Unit 2 The Chocolate Chip Cookie : READING の内容理解問題
	事前学修	READING 全体の内容を確認後、COMPREHENSION の問題を解く。
	事後学修	①間違えた問題を READING の該当箇所と照らし合わせて復習する。② COMPREHENSION の中に出てきた重要表現等を確認・復習する。
8回	授業内容	Unit 1 と Unit 2 のまとめ（課題の提出）
	事前学修	授業計画の第 1 回目から第 7 回目までの授業内容を総復習する。
	事後学修	授業計画の第 1 回目から第 7 回目までの全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。
9回	授業内容	Unit 3 Hollywood's Hero : 現在完了・現在完了進行形の文法確認及び演習
	事前学修	① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読む。② PRACTICE の問題を解く。
	事後学修	①現在完了・現在完了進行形の内容をノート等に整理する。② PRACTICE は学習・整理した内容と照らし合わせ、間違えた問題を中心にして復習する。
10回	授業内容	Unit 3 Hollywood's Hero : READING の読解（25 行目まで）
	事前学修	READING の英文（1-25 行目）を訳す。
	事後学修	各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、1-25 行目の内容全体を理解する。
11回	授業内容	Unit 3 Hollywood's Hero : READING の読解（26 行目以降）と内容理解問題
	事前学修	① READING の英文（26-34 行目）を訳す。② READING 全体の内容を確認後、COMPREHENSION の問題を解く。
	事後学修	① READING は各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら、26-34 行目の内容全体を理解する。② COMPREHENSION は間違えた問題を READING の該当箇所と照らし合わせて復習する。③ COMPREHENSION の中に出てきた重要表現等を確認・復習する。
12回	授業内容	Unit 4 Miscommunication : 未来の文法確認及び演習
	事前学修	① GRAMMAR & USAGE (TEXT HIGHLIGHT! を含む) の説明を読む。② PRACTICE の問題を解く。
	事後学修	①未来の内容をノート等に整理する。② PRACTICE は学習・整理した内容と照らし合わせ、間違えた問題を中心にして復習する。
13回	授業内容	Unit 4 Miscommunication : READING の読解
	事前学修	READING の英文（1-38 行目）を訳す。
	事後学修	各英文の文法や文構造、語彙を確認・復習しながら 1-38 行目の内容全体を理解する。
14回	授業内容	Unit 4 Miscommunication : READING の内容理解問題
	事前学修	READING 全体の内容を確認後、COMPREHENSION の問題を解く。
	事後学修	①間違えた問題を READING の該当箇所と照らし合わせて復習する。② COMPREHENSION の中に出てきた重要表現等を確認・復習する。
15回	授業内容	Unit 3 と Unit 4 のまとめ（課題の提出）
	事前学修	授業計画の第 9 回目から第 14 回目までの授業内容を総復習する。
	事後学修	授業計画の第 9 回目から第 14 回目までの全授業内容を整理し、ノート等にまとめる。

◆教科書 丸沼『Premium Reader Elementary 英語リーディングとの出会い：初級編』 Robert Juppe・馬場幸雄 金星堂 2019 年

◆参考書 指定しない

◆成績評価基準 課題の解答内容に対する評価（100%）

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔英語B〕

大庭 香江

◆授業概要 英語のポピュラーソングを聞きながら、単語や表現を学び、曲やアーティストに関連する、英語圏を中心とした世界各国の文化について書かれた英文を読みます。

◆学修到達目標 英語の曲の歌詞に頻出する重要な単語や表現を身に付け、英語圏の文化的背景について知り、理解する。

◆授業方法 1. 曲のリスニングを、ヒントを参考に行う。

2. 資料を参考に、歌詞の意味を理解する。

3. 曲やアーティストに関する文化的背景について書かれた英文を読む。

4. 読解問題を行う。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: My heart will go on / A clearly Canadian identity 事前学修: Unit 1 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 1 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
2回	授業内容: Open arms / Wedding customs 事前学修: Unit 2 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 2 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
3回	授業内容: Life / Superstitions 事前学修: Unit 3 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 3 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
4回	授業内容: Don't look back in anger / Britain's rock'n roll royalty 事前学修: Unit 4 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 4 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
5回	授業内容: A whole new world / Disney movies 事前学修: Unit 5 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 5 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
6回	授業内容: I don't want to miss a thing / Armageddon 事前学修: Unit 6 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 6 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
7回	授業内容: Review unit 1 / Hollywood 事前学修: Unit 7 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 7 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
8回	授業内容: The stranger / The stranger world of Harry Potter 事前学修: Unit 8 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 8 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
9回	授業内容: Hey now / Redheads 事前学修: Unit 9 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 9 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
10回	授業内容: Everytime I close my eyes / What's in a name? 事前学修: Unit 10 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 10 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
11回	授業内容: Kiss of life / British family tree 事前学修: Unit 11 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 11 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
12回	授業内容: All I want for Christmas is you / Christmas traditions 事前学修: Unit 12 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 12 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
13回	授業内容: Livin' la vida loca / The changing face of America 事前学修: Unit 13 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 13 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
14回	授業内容: Review unit 2 / British order 事前学修: Unit 14 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。 事後学修: Unit 14 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
15回	授業内容: まとめと復習、及び試験 事前学修: 配布資料等を含め、授業で学修した内容を全て整理し、確認しておくこと。 事後学修: 授業で学修した内容全てを確認し、復習しておくこと。

◆教科書 『English with Hit Songs』 角山 他著 成美堂

◆参考書

◆成績評価基準 試験及びレポート 50%，授業参画度 50%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔憲法〕

名雪 健二

◆授業概要 本スクーリングでは、憲法の概念、憲法の分類、日本国憲法の構造といった基礎観念や基本原理、また、天皇の地位についてみしていくが、人権総論（人権の制約、人権享有の主体、法の下の平等など）と精神的自由（思想および良心の自由、信教の自由、学問の自由）および国会（国会の憲法上の地位、衆議院の解散）、内閣（内閣総理大臣の地位および権能）、最高裁判所（違憲審査権）についてもみていく。

◆学修到達目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ることは、極めて重要である。憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法判例をみると、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、講義に関連する判例を配布する。

◆履修条件 令和2年度夏期スクーリング『憲法』（名雪健二）とは積み重ね不可

◆授業計画〔各90分〕

	授業内容	ガイダンス、憲法の概念、憲法の分類、日本国憲法制定の法理
1回	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、近代的意味の憲法とは何か、理解しておくこと。また、日本国憲法制定の法理についてまとめておくこと。
2回	授業内容	前文の性質、基本原理（国民主権主義、人権尊重主義）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、憲法前文の法的性質と前文が裁判規範となるかどうかについて理解しておくこと。あわせて、判例もみておくこと。また、国民主権の原理が、憲法上、いかに具現化されているかについて理解しておくこと。
3回	授業内容	平和主義、天皇の地位
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、天皇の行為について理解しておくこと。
4回	授業内容	人権の歴史、人権の制約、違憲審査基準
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、人権の制約と違憲審査基準について理解しておくこと。
5回	授業内容	人権享有の主体（外国人の人権）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。外国人は人権享有の主体となるか、なるとすれば、いかなる人権を享有することができるかよく理解しておくこと。あわせて、判例もみておくこと。
6回	授業内容	人権享有の主体（国民、法人、天皇・皇族）、幸福追求権
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、法人の人権享有の主体性について理解しておくこと。また、幸福追求権についてまとめておくこと。
7回	授業内容	私人間効力
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。私人間効力とは、どのような問題であるのかを理解し、これを巡る学説をまとめておくこと。また、どのような判例があるのかをまとめておくこと。
8回	授業内容	法の下の平等
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、法の下の平等の意味と不合理な差別の禁止について、判例を含めて理解しておくこと。
9回	授業内容	精神的自由（思想および良心の自由）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。内心の自由の保障の内容について理解しておくこと。また、判例もみておくこと。
10回	授業内容	精神的自由（信教の自由）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、信教の自由の内容と政教分離の原則について、判例を含めて理解しておくこと。
11回	授業内容	精神的自由（学問の自由）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。とくに、憲法が、学問の自由を保障した意義、学問の自由の内容、大学の自治についてよく理解し、あわせて、判例もよくみておくこと。
12回	授業内容	国会の性格（国会の憲法上の地位）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。憲法第41条にいう国権の最高機関と唯一の立法機関の意味をよく理解しておくこと。
13回	授業内容	国会の活動（衆議院の解散）
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。解散の性格、解散権の主体と根拠規定、解散の原因、解散の効果についてよく理解しておくこと。
14回	授業内容	内閣総理大臣の地位および権能
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。内閣総理大臣の憲法上の地位と権能について、とりわけ、国務大臣の任免権、内閣代表権、法律・政令への連署権、国務大臣の訴追同意権について、それぞれ問題点があるのでよくまとめておくこと。
15回	授業内容	最高裁判所の権能（違憲審査権）、試験の説明
	事前学修	講義の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義でノートしたところを整理しておくこと。違憲審査権の意義を踏まえた上で、違憲審査権の性格および違憲審査の対象について、それぞれ学説が対立しているのでよくまとめておくこと。また、判例もあるので、よくみておくこと。

◆教科書 丸沼『日本国憲法』 名雪健二 有信堂
〔当日資料配布〕

◆参考書 丸沼 参考書を希望する者は、『憲法第7版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店を購入されたい。

◆成績評価基準 課題の提出および最終試験を中心に総合的に判断する。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔国文学史Ⅰ〕

鈴木 雅裕

◆授業概要 本授業では、国文学史の範囲から奈良～平安時代前期の古代文学作品を取り上げる。古代文学については、一般的に漢字で書かれた奈良時代の諸作品、仮名で書かれた平安時代の諸作品、というかたちで切り分けることも可能である。だが、その二つの時代のいずれにも、漢文という共有の知がある。いくつかの作品を具体的に取り上げながら、背景に横たわる知を捉え、文学の史的展開を考えてみたい。

◆学修到達目標 古代文学についての概要を知り、説明することができる。

古代文学作品の時代背景を理解し、作品への理解を深めることができる。

古典文学についての基礎的な知識を身に着け、今後の作品読解に活かすことができる。

◆授業方法 オンデマンド形式で実施する。各授業回ごとに授業動画を配信するが、あわせて課題を設け、提出を求める予定である。課題に対するフィードバックは、課題に対するコメント、及び課題を指定した回の次の授業動画にて解説をする。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: ガイダンス（授業の進め方・講義内容の説明等）、国文学史に関する基礎知識の解説 事前学修: シラバスを熟読し、講義全体の流れを理解しておく。また、上代～平安文学にどのようなものがあるかを調べておく。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
2回	授業内容: 古代文学の基盤①—律令国家の成立— 事前学修: 律令国家とはどのようなものかを調べておく。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
3回	授業内容: 古代文学の基盤②—令という制度— 事前学修: 律・令とは何を意味するかを調べておく。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
4回	授業内容: 奈良時代の文学作品①:『日本書紀』 事前学修: 『日本書紀』について、その概要・構成を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
5回	授業内容: 奈良時代の文学作品②:『古事記』 事前学修: 『古事記』について、その概要・構成を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
6回	授業内容: 奈良時代の文学作品③:『風土記』 事前学修: 『風土記』について、その概要・構成を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
7回	授業内容: 奈良時代の文学作品④:『万葉集』 事前学修: 『万葉集』について、その概要・構成を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
8回	授業内容: 『万葉集』について、その概要・構成を調べてみる。 事前学修: 事前配布プリントに目を通し、話の概要を理解しておく。「国譲り」について調べておく。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
9回	授業内容: 平安時代の文学①:『古今和歌集』・『後撰和歌集』 事前学修: 『古今和歌集』・『後撰和歌集』について、その概要・構成を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
10回	授業内容: 平安時代の文学①:『古今和歌集』・『後撰和歌集』 事前学修: ふたつの歌集にはどのような部立があるかを調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
11回	授業内容: 平安時代の文学②:『土佐日記』 事前学修: 『土佐日記』について、概要を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
12回	授業内容: 平安時代の文学③:『伊勢物語』 事前学修: 『伊勢物語』について、概要を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
13回	授業内容: 平安時代の文学④:『大和物語』 事前学修: 『大和物語』について、概要を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
14回	授業内容: 平安時代の文学⑥:『蜻蛉日記』 事前学修: 『蜻蛉日記』について、概要を調べてみる。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。
15回	授業内容: 授業総括 - 古代の日本文学の特色を考える - 事前学修: これまでの授業内容を、再度復習しておく。 事後学修: 授業で解説した内容について復習をする。

◆教科書 授業回前にそれぞれの資料をアップする。

◆参考書

◆成績評価基準 動画の視聴状況を授業参画度とみなす（20%）。授業内課題を複数回設け、その合計が30%、学期末の課題が50%の配分とする。

◆授業相談（連絡先）:

注意

講座内容（シラバス）

〔Composition 2〕

Alex Brown

- ◆授業概要 This is a short, intensive writing course that requires students to work together in groups to generate ideas and edit student's essays. The teacher will review notes on the writing process and guide you through various writing activities such as grammar revision and persuasive writing techniques.
- ◆学修到達目標 This course focuses on the writing process of a five-paragraph essay. It's a step by step process in which we'll build two essays that have a sound Introduction, Body and Conclusion. Students will work together in a work-shop like manner and will have the chance to explore writing narratives and comparative essays.
- ◆授業方法 Students will work on developing ideas, arguments and opinions based on supporting sentences within a five-step process. Generating ideas in groups along with editing various pieces is an important part of the course.
- ◆履修条件 This course is an introduction to academic writing. You will be responsible for writing individual essays, however, group work is an important part of the course.
令和2年度夏期スクーリング『英作文Ⅱ』(アレックス・ブラウン)とは積み重ね不可。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: Prepare a written self-introduction. 事前学修: Orientation and writing survey. 事後学修: Read over the writing process.
2回	授業内容: Study the notes on topic sentences. 事前学修: Topic sentence activities. 事後学修: Research your topic for Essay 1.
3回	授業内容: Present your essay topic to the group. 事前学修: Brainstorm topic ideas. List ideas accordingly. 事後学修: Finish the activity on supporting sentences.
4回	授業内容: Prepare to present answers regarding supporting sentences. 事前学修: Paragraph construction. Follow the rules of the process. 事後学修: Complete the grammar editing exercise.
5回	授業内容: Prepare your answers for presentation in a small group. 事前学修: Finish the rough draft for Essay 1. 事後学修: Use the editing checklist and make corrections accordingly.
6回	授業内容: Prepare some comments and questions for your partner's essay. 事前学修: Essay analysis of students' essays. 事後学修: Prepare your final draft for submission.
7回	授業内容: Pass in Essay 1 at the beginning of class. 事前学修: Lecture on Compare and Contrast essays. 事後学修: Research ideas for Essay 2.
8回	授業内容: List 3 ideas for Essay 2. 事前学修: Brainstorm Ideas for Essay 2 in groups. 事後学修: Complete your free writing activity.
9回	授業内容: Summarize your free-writing activity. 事前学修: Construct supporting ideas for your main points of Essay 2. 事後学修: Read through your paragraphs for Essay 2.
10回	授業内容: Present rough draft for Essay 2. 事前学修: Editing and Revision of Essay 2. Fill out your partner's checklist and comment sheet. 事後学修: Edit your essay with attention to grammar and sentence structure.
11回	授業内容: Prepare Essay 2 for submission. 事前学修: Fill out two grading forms for each essay. 事後学修: Review notes for plot-driven essays.
12回	授業内容: Explain the plot of your favorite story (movie or literary). 事前学修: Unscramble the beginnings of three stories in a group. 事後学修: Complete your designated story.
13回	授業内容: Revise your designated story. 事前学修: Creation and presentation of dialogue. 事後学修: # minute writing activity for homework.
14回	授業内容: Prepare a discussion of the key points of your free-writing piece. 事前学修: Character-driven stories and character generation. 事後学修: Improve the focus of your three characters.
15回	授業内容: Present your characters in a group. 事前学修: Use your characters in a story board and work on their expansion. 事後学修: Thank you for your efforts in this course.

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 当日資料配布

◆成績評価基準 Students will be graded on two essays (60%). Strong consideration is placed on participation and group contributions (40%).

◆授業相談（連絡先）:

注意

講座内容（シラバス）

〔英米事情Ⅱ〕

石川 勝

- ◆授業概要 イギリスの金融と経済を背景にして、その歴史を新しい視点で見直す。特にアメリカへの投資とその国に与えた影響を中心に論じていく。それが文化にどのように英米の文化を形成したかを考える。
- ◆学修到達目標 イギリスの金融・経済がどのように形成された過程を把握し、そのうえでそれが英米に文化（特に文学）にどのような影響を与えたかを理解することを目標とする。
- ◆授業方法 講義形式で授業を行う。資料を見ながらノートをとってもらう。スクーリングの前に必ず英米の文学作品（翻訳でよい）を一冊以上読んでおく。講義の内容を背景にして自分が読んだ作品について論じてもらう。
- ◆履修条件 令和元年の東京スクーリング（6月Ⅰ期）の英米事情Ⅰと講義内容が重なるところがあるが、昨年受けた人も本年度の英米事情Ⅱを受講しても構わない。

◆授業計画〔各90分〕

	授業内容	資本主義の成立
1回	事前学修	英米の文学作品を読んでおく。
	事後学修	ノートの整理
2回	授業内容	イングランド銀行の設立
	事前学修	イングランド銀行について調べておく。
	事後学修	ノートの整理。
3回	授業内容	フランス革命
	事前学修	フランス革命について調べておく。
	事後学修	ノートの整理。
4回	授業内容	合衆国銀行の成立をめぐって
	事前学修	文学作品を読んでいない学生は読んでおく。
	事後学修	講義の内容と文学との関係について考えてみる。
5回	授業内容	南北戦争とイングランド銀行の関係
	事前学修	南北戦争について調べておく。
	事後学修	ノートの整理
6回	授業内容	明治維新に対する国際金融の影響
	事前学修	黒船来航について調べておく
	事後学修	ノートの整理
7回	授業内容	アメリカン・ルネサンスとイギリスのリアリズム
	事前学修	できればアメリカンルネサンスの作品を読んでおく。
	事後学修	講義の内容と読んだ作品の関係について考える。
8回	授業内容	国際金融と自由民権運動
	事前学修	これまでの講義の内容を復習しておく。
	事後学修	ノートの整理
9回	授業内容	リアリズム
	事前学修	アメリカ文学のリアリズムについて調べておく
	事後学修	講義の内容と自分が読んだ作品との関係を考える。
10回	授業内容	金本位制
	事前学修	これまでの講義の復讐をしておく。
	事後学修	ノートの整理
11回	授業内容	FRBの成立
	事前学修	FRBについて調べておく。
	事後学修	ノートの整理
12回	授業内容	第一次大戦
	事前学修	第一次大戦について調べておく。
	事後学修	ノートの整理
13回	授業内容	ロストジェネレーション
	事前学修	ロストジェネレーションの作品を読んでおく。
	事後学修	試験の準備
14回	授業内容	世界恐慌
	事前学修	世界恐慌について調べておく。
	事後学修	ノートの整理
15回	授業内容	第二次大戦
	事前学修	試験の準備
	事後学修	講義全体の復讐

◆教科書 なし

◆参考書

◆成績評価基準 講義終了後レポートを提出してもらい、その結果で成績を付ける。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔英語学演習〕

山岡 洋

◆授業概要 英語の構造を正しく理解するために、文の中心要素である述語動詞とその必須要素である補部から成る「述部(Predicate)」の範囲を見極める方法を理解した上で、「主部(Subject)」と「付加部(Adjunct)」を区別し、最終的には複文レベルで、主部・述部・付加部を見極められるようにする。

◆学修到達目標 複文レベルの構造を十分に理解できるようになることを目標とする。特に、主節と従属節の区別することと、「述部(a predicate)」を発見することによって、文の構造を見極められるようになる。そのための基礎知識として、準動詞・従属接続詞・関係詞の理解を深めることを目指す。

◆授業方法 初日に品詞・文型などの基本的文法事項を復習・確認し、2日目にその知識を定着させるために実際の英文を使って、文構造の分析練習を行う。最終日3日目の午前中に理解度をチェックするための模擬試験を行い、その日の午後に最終試験を行う予定。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: Course Introduction: The Difference Between Word Classes and Sentence Functions 事前学修: 教科書 pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. pp. 2-12 を見ながら再確認する。
2回	授業内容: Course Introduction: Types of Sentences, Parts-of-Speech 事前学修: 教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 65-87 と pp. 2-12 を見ながら再確認する。
3回	授業内容: Course Introduction: Sentence Patterns, Sentence Functions 事前学修: 教科書 pp. 13-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
4回	授業内容: Course Introduction: How Phrases Are Formed, Complement, Modification 事前学修: 教科書 pp. 53-64 を読んでおく。 事後学修: 授業中にとったノートを、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
5回	授業内容: 品詞の理解を定着させるための中級英文分析 事前学修: 教科書第6章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第6章を見ながら再確認する。
6回	授業内容: 文の働きを定着させるための中級英文分析 事前学修: 第3回目の授業の復習と教科書 pp. 13-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
7回	授業内容: S, P, A 分析を定着させるための中級英文分析 事前学修: 第4回目の授業の復習と教科書 pp. 53-64 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 53-64 を見ながら再確認する。
8回	授業内容: Trial Quizzes とその解説 事前学修: 第1回目から第4回目までの内容を復習し、Trial Quizzes に備える。 事後学修: Trial Quizzes で理解度を確認し、最終試験に備えて理解不十分な部分を修正する。
9回	授業内容: 品詞の理解を定着させるための中上級英文分析 事前学修: 教科書第4章、第5章を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書第4章、第5章、第6章を見ながら再確認する。
10回	授業内容: 文の働きを定着させるための中上級英文分析 事前学修: 第3回目の授業の復習と教科書 pp. 13-31 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 13-31 を見ながら再確認する。
11回	授業内容: S, P, A 分析を定着させるための中上級英文分析 事前学修: 第4回目の授業の復習と教科書 pp. 53-64 を読んでおく。 事後学修: 授業中の分析を、教科書 pp. 53-64 を見ながら再確認する。
12回	授業内容: 総合的な英文分析 事前学修: 第5回目から第11回目までの授業の復習をしておく。 事後学修: 授業中の分析を、第5回目から第11回目までの授業の復習を見ながら再確認する。
13回	授業内容: 理解度確認 事前学修: これまでの授業の内容を改めて見直し、特に英文分析を確認する。 事後学修: 試験に備えて、例文における英文分析を確認する。
14回	授業内容: 最終試験とその解説 事前学修: 前回の理解度確認を改めて読み直し、新たな英文で自分の理解度を再度確認する。 事後学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。
15回	授業内容: 最終試験の解説 事前学修: 自分の試験の答案を確認し、教科書の該当箇所と照合する。 事後学修: 授業内容を確認して、自分の複文の構造に関する理解が適切かどうかを再確認する。

◆教科書 丸沼 山岡洋 (2014)『新英文法概説』開拓社。
〔当日資料配布〕当日配付資料あり

◆参考書 丸沼 江川泰一郎 (1991)『英文法解説』金子書房。
丸沼 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン (2001)『ロイヤル英文法』改訂新版、旺文社。
丸沼 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 (2017)『ジニアス総合英語』大修館。
丸沼 安井稔 (1996)『英文法総覧』改訂版、開拓社。

◆成績評価基準 授業参加度: 20% (半日欠席につき 10 点マイナス。遅刻は 5 点マイナス)
最終試験: 80% (教科書・参考図書・ノート・電子辞書持ち込み可)

◆授業相談(連絡先):

注意

講座内容（シラバス）

〔日本史特講Ⅱ〕

堀川 徹

◆授業概要 律令制成立以前の地域支配制度をテーマとして取り上げる。このテーマは国家形成と関係が深く、重要な視点であると考えられている。王権はいかにして民衆を支配・管理していたのか、制度史的視点から講義する。

地域支配制度に対する理解を深めるとともに、先行研究についても講義する。

◆学修到達目標 歴史的事実とその意義について、残された史・資料に基づき論理的に説明することができる。

日本古代国家形成過程について、地域支配制度の側面から説明することができる。

日本の古代国家・社会の構造を理解し、説明することができる。

先行研究を理解し、説明することができる。

先行研究のまとめ方を理解し、自身の卒論に反映させることができる。

◆授業方法 パワーポイントを使用した講義形式。

パワーポイントに音声を入れた動画を classroom を通じて配信する。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	講義の導入—国家形成と地域支配
	事前学修	国家形成史に関する議論について考えておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
2回	授業内容	人制の研究史 5世紀後半に施行された人制について、どのような研究史があり、どのような点が現在の論点なのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、自分なりに人制とは何か、研究史もあわせて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
3回	授業内容	人制の内容 5世紀後半に施行された人制について、その特徴を考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、人制の論点を理解しておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
4回	授業内容	部民制の研究史 6世紀前半に施行された部民制について、どのような研究史があり、どのような点が現在の論点なのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、自分なりに部民制とは何か、研究史もあわせて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
5回	授業内容	部民制の内容 6世紀前半に施行された部民制について、その特徴と人制との差異を考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、部民制の論点を理解しておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
6回	授業内容	国造制の研究史 6世紀前半に施行された国造制について、どのような研究史があり、どのような点が現在の論点なのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、自分なりに国造制とは何か、研究史もあわせて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
7回	授業内容	県主制と国造制 6世紀前半に施行された国造制について、それ以前に施行された県主制との比較からその特徴を考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、県主制と国造制の違いについて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
8回	授業内容	国造制の成立とその内容 国造制の成立について、どのような経緯で成立したのか、その特徴を考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、国造制の成立基準について調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
9回	授業内容	ミヤケ制の研究史 6世紀前半に施行されたミヤケ制について、どのような研究史があり、どのような特徴があるのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、ミヤケ制とは何か、研究史もあわせて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
10回	授業内容	評制の研究史 7世紀半ばに施行された評制について、どのような研究史があり、どのような点が現在の論点なのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、評制とは何か、研究史もあわせて調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
11回	授業内容	評制の成立 7世紀半ばに施行された評制について、どのような矛盾のなか成立してきたのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、評制の成立について調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
12回	授業内容	評制の展開と国司・国造 7世紀半ばに施行された評制について、その後どのような性格の変化が現れるのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、評制がどのように展開したのか調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
13回	授業内容	地域支配制度と稻置 古代の地域支配制度の中で、稻置がどのような存在だったのかを考える。
	事前学修	前回配布資料を読み込んでおくとともに、稻置とは何か、調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
14回	授業内容	7世紀以前の地域史—武藏国造の乱— 武藏国を舞台として、7世紀以前の地域史を考える。
	事前学修	これまでの配布資料を読み込んでおくとともに、武藏国造の乱について調べておく。
	事後学修	配布資料を完成させ、要点をまとめる。
15回	授業内容	日本古代における地域支配制度 ここまで講義をまとめ、古代国家形成過程と地域支配制度の関連を考える。
	事前学修	これまでの配布資料をまとめ、地域支配制度の全体像を理解しておく。
	事後学修	国家形成過程と地域支配制度の関係性について理解する。

◆教科書 [\[当日資料配布\]](#)

◆参考書

◆成績評価基準 レポート 100%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔金融機関論〕

谷川 孝美

◆授業概要 金融取引が行われる金融市場では、銀行などの金融機関が重要な役割を果たしています。この講義では、金融機関の役割、機能などに焦点をあて基礎理論等を解説します。具体的には金融論の基礎や金融機関の基本的な機能等の概説からはじめ、銀行などの預金取扱金融機関を中心にその存在理由を考察し、金融排除問題など現代の金融問題を考える基礎を養うことを目的とします。なお、この講義では金融論の基礎を理解していることが望ましい。

◆学修到達目標 日々の生活における決済や金融取引には銀行など預金取扱金融機関が重要な役割を果たしている。金融機関論では、これらをふまえ以下のことを目標とする。

1. 貨幣の定義などの金融に関する基本的な事柄などを学び、説明できるようになる。
2. 銀行などの預金取扱金融機関が果たしている機能、役割を理解し、説明できるようになる。
3. 金融排除問題などさまざまな金融問題を理解し、考察できるようになる。

◆授業方法 Google Classroom を利用したオンライン講義となります。なお、最終日2日間について、一部、Zoom を利用した双方向授業を実施します。Zoom に参加できない場合はオンラインでの受講のみでも問題ありません。講義は授業計画にそったパワーポイント（音声解説付き）を利用した講義形式となります。また、理解度を確認するための小テストを実施します。

◆履修条件 Google Classroom を問題なく利用できること。Google Classroom の利用方法に関する質問には応じられません。

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・金融機関論で学ぶことやその対象を解説する。
1回	事前学修	テキスト『金融論』の「はじめに」、事前配付資料、シラバスをよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2回	授業内容	金融機関を理解するための金融取引、貨幣の定義
	事前学修	テキスト第1章をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義内容の確認として、貨幣の定義、金融取引を再確認すること。
3回	授業内容	情報の非対称性問題（逆選択問題、モラルハザード）
	事前学修	テキスト第3章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4回	授業内容	情報の非対称性問題と銀行の情報生産機能
	事前学修	テキスト第3章をよく読んでおくこと。前回の講義内容をよく確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5回	授業内容	資金循環、直接金融、間接金融、市場型間接金融
	事前学修	テキスト第6章をよく読むこと。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
6回	授業内容	金融排除問題
	事前学修	配付資料をよく読むこと。新聞などで金融の時事問題を確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7回	授業内容	預金取扱金融機関としての銀行の現状
	事前学修	テキスト第7章第1節および配付資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	講義で紹介する銀行など、預金取扱金融機関について、配付資料や参考文献などで良く確認すること。
8回	授業内容	預金取扱金融機関の機能と役割
	事前学修	テキスト第7章第1節および配付資料をよく読んでおくこと。前回の講義内容を良く確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、信用創造による貨幣量を実際に計算して確認すること。
9回	授業内容	銀行の信用創造機能
	事前学修	テキスト第7章第1節および配付資料をよく読んでおくこと。前回の講義内容を良く確認すること。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、信用創造による貨幣量を実際に計算して確認すること。
10回	授業内容	協同組織金融機関の現状
	事前学修	配付資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	参考文献や講義時に紹介するウェブサイトなどで、信用金庫や信用組合の現状を確認すること。
11回	授業内容	協同組織金融機関の機能と役割
	事前学修	配付資料をよく読んでおくこと。また、第4回の講義を確認しておくこと。
	事後学修	参考文献や講義時に紹介するウェブサイトなどで、信用金庫や信用組合の現状を確認すること。
12回	授業内容	金融機関に対する規制監督の変化とFinTechなどの金融機関を取り巻く環境変化
	事前学修	配付資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。
13回	授業内容	リレーションシップバンкиング、中小企業金融問題
	事前学修	配付資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や講義時に紹介する資料などで、講義内容を確認すること。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	配付された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。
	事後学修	配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆教科書 通材『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

■事前資料送付

■当日資料配布 必要に応じて Google Classroom を通じて資料を配付します。

◆参考書 丸沼『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善、中央経済社、2018年
講義時に適宜紹介します。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に授業への取り組みに対する評価として小テストや授業アンケートなどにより総合的に評価します。出席、授業アンケートおよび最終試験は Google Classroom にてフォームを利用したものになります。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容 (シラバス)

[教育制度論]

佐久間 邦友

- ◆授業概要 授業は、地方自治体の協議会委員の経験を持つ講師から、教育行政、教育制度や教育経営を様々な角度から取り上げ、教育をめぐる社会・文化について考察していくことで、現在の私たちをとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の観点から教育制度を考えていく。加えて、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も習得する。
- ◆学修到達目標 ①日本の教育行政について自分の言葉で説明することができる。
②現代の教育制度について自分の言葉で説明することができる。
③教育経営的な要素について自分の言葉で説明することができる。
- ◆授業方法 授業は、基本講義形式で行ない、教育行政、教育制度や教育経営に関する様々な基本事項について授業を実施する。また、教育に関する法規（教育基本法、学校教育法など）を扱うことで、教員採用選考にも備える。加えて、①授業外の学習として小レポートの作成、②VTRの視聴、③毎回の授業内での活動・意見交換等のグループワークを取り入れることで、学生が能動的な学習に励むよう促す。

授業は Google Classroom を通じて行う。

そのため、「xxxxxxxxx@g.nihon-u.ac.jp」のアドレスを使用できるようにしてください。

- ① 授業前：レジュメ：リアクションペーパー動画などをダウンロードする。テキストを熟読する！
② 授業中：動画（10～15分程度）を3本程度視聴し、掲示板に自分の意見を書き込む。
③ 授業後：リアクションペーパーを作成して、Google フォームで提出

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業に関するガイダンスを実施する。次に学生自身が認識している教育制度の変更（学校週5日制やゆとり教育、アクティブラーニングなど）を振り返って、教育改革が教育現場に及ぼす影響力を考える。 明治期から現代に至るまでの教育制度の変化を調べておくこと。 教育改革が学校現場に及ぼす影響を考え、ノートにまとめておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	日本国憲法における教育関連規定を確認し、教育基本法の各条文の意味を検討していく。また「教育の機会均等」の今日の課題と思想的展開についてディスカッションを行なう。 テキスト p.14-26 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、かつ教育基本法のすべての条文をノートに書き写しておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、「教育の機会均等」とは何かを参考文献を使って自分なりにまとめるこ。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第3条（生涯学習の理念）、第12条（社会教育）を取り上げ、生涯にわたって国民が学び続けることを可能にする原理、生涯学習における学校教育と社会教育に関する授業する。 テキスト p.27-38 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、これまで自分が学んできたことを「家庭教育」と「学校教育」のそれぞれでまとめておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、生涯学習と社会教育の違いを小レポートにまとめておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第4条（教育の機会均等）、第5条（義務教育）を取り上げて、公教育の目的を実現するための義務教育や中等、高等教育について授業を行う。そのなかで、高校授業料無償化を取り上げ、公立学校と私立学校の違いについて学生間でディスカッションを実施する。 テキスト p.39-53 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、学校教育法における各学校種の目的や目標をノートに書き写し、違いをまとめておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、学生間の議論をもとに公立学校と私立学校の違いを小レポートにまとめておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第16条（教育行政）を取り上げ、我が国の教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて授業を行なう。加えて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律を取り上げて、新教育委員会制度（改革）を含め、旧制度と新制度の違いについて学生間でディスカッションを行なう。 テキスト p.54-68 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、かつ旧教育長制度について調べ、問題点をノートにまとめること。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、新旧教育長制度の利点と課題をレポートにまとめること。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第9条（教員）を取り上げ、教育職員免許法、教育公務員特例法など教員に關わる法規について授業を実施する。そのうえで、教員の給与と待遇について都道府県ごとに比較することで学生の能動的な学習を促す。 テキスト p.69-80 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、かつ受験を希望する自治体の教員採用案内を探し、熟読しておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、教員の1年間のスケジュールを調べておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第3条（生涯学習の理念）、第11条（幼児期の教育）を取り上げて、我が国のかども・子育て支援や少子化対策と生涯にわたって国民が学び続けることを可能にする原理について授業を実施する。また子育て支援や少子化対策について授業外の時間において学生各自が調査まとめる（小レポート課題）。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	テキスト p.81-90 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、「幼稚園・保育園・認定こども園」の違いをインターネットや文献を使って調べること。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、自分が住む自治体の子育て支援や少子化対策を調べ、小レポートを作成すること。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第4条（教育の機会均等）、第7条（大学）を取り上げて、後期中等教育の整備と準義務化や高等教育の質保証に関する内容、また近年脚光を浴びている「特別支援教育」や「フリースクール」、「公営塾」について授業を行なう。 テキスト p.91-103 を読んで興味を持った単語の意味を調べるとともに、「フリースクール」と「公営塾」についてノートにまとめておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、「フリースクール」や「公営塾」は学校か否かについてまとめておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	中央政府の組織や役割と地方政府との関係について、教育基本法第17条（教育振興基本計画）を取り上げて、我が国における教育振興基本計画の変遷と実態、具体的な教育政策を取り上げて授業を行う。 テキスト p.104-111 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、文部科学省ホームページを確認し、どのような内容が掲載されているかまとめておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、文部科学省と地方自治体の関係について問題点を指摘しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第6条（学校教育）、第9条（教員）、第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）を取り上げる。特に、学校経営を実施するための方法や教育行政との関係（学校管理規則）、学校経営の仕組みを効果的に發揮するための学校評価（PDCA）と年間教育計画との関係について講義する。あわせて、学校安全保健法の視点から学校安全について検討する。 テキスト p.112-123 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、自分が住む自治体の学校管理規則の特徴をまとめておくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、他自治体の学校管理規則を探し、事前学習で調べた学校管理規則との違いをまとめておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第5条（義務教育）、第6条（学校教育）を取り上げて、「地域」の視点から学級経営、学級経営と特別活動、問題行動と生徒指導について講義する。特に問題行動と生徒指導において、学校と地域との連携の視点よりコミュニティ・スクールについて福岡県春日市の事例などを取り上げる。 テキスト p.124-140 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、コミュニティ・スクールの具体的な事例をまとめること。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、学校統廃合を防ぐ・促進するための方策を検討しておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	教育基本法第6条（学校教育）、第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）を取り上げて、学校と地域との連携・協働による教育課程経営（カリキュラム・マネジメント）と学校評価の基礎理論を含めたPDCAについて講義を実施する。 テキスト p.141-154 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、かつ現行の学習指導要領総則を読んでおくこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、受験を希望する自治体の教員採用試験問題の学習指導要領に関する部分を解説してみること。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	教育とリスクについて、学校の管理下で発生する事件、事故及び災害について学生間でディスカッションを実施する。 テキスト p.155-159 を読んで興味を持った単語の意味を調べ、かつインターネットを使用して「学校事故」に関する記事を探すこと。 講義資料を DL してノートまとめをするとともに、事前学習で調べた「学校事故」の事例を検討・予防策を提案すること。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	第1回から第13回の授業の総まとめの確認としてテストを行い、その解説を行なうことで、教育制度・行政・経営・政策に関する理解を促す。 第1回から第13回までの講義内容を復習しておくこと。 解答できなかった問題について、テキストの該当箇所を確認し、再度問題を解きなおすこと。 これまでの授業を受講したまとめを事前に小レポート課題として課したうえで、そのレポートを持ち寄り学生間で「我が国における教育制度」について検討することとし、授業のまとめとする。 子どもたちが「幸せになるため」には、どのような教育制度を整備すべきかを考えること。 考えた教育制度の矛盾点を考えること。

◆教科書

内沼『新・教育の制度と経営（三訂版）』 本団 愛実・末富 芳編著 学事出版 2020 年
事前資料送付 Google Classroom にアップされます。

◆参考書

内沼『塾：私的補習ルールの国際比較』 マークブレイア著 東信堂 2019 年
内沼『子どもの貧困対策と教育支援 より良い政策・連携・協働のために』 末富芳編著 明石書店 2017 年
内沼『教育制度を支える教育行政（アクティベート教育学）』 青木栄一編 ミネルヴァ書房 2019 年
内沼『教育学としての教育行政－制度研究』 黒崎勲著 同時代社 2009 年
内沼『リーディング日本の教育と社会第11巻学校改革』 藤田英典・大橋敏行編著 日本図書センター 2010 年

◆成績評価基準

レポート (40%)、授業内テスト: Google Classroom において実施 (50%)、授業参画度: 授業内に回収するりアクションペーパー (10%)

◆授業相談（連絡先）:

注意

講座内容（シラバス）

〔英語C〕

小川 佳奈

◆授業概要 *The New York Times, The New York Times International Edition, The Japan Times, The Irish Times* からリーディングのために構成された世界中のニュースの記事を読みます。英文ひとつひとつの構造を分析しながら読むことで、日常生活において必要なリーディングスキルを身につけます。また、教科書内のさまざまな分野の記事を読むことで、世界中の幅広い分野のニュースに興味・関心を持ち、日常生活においても積極的に英語を活用できるようになります。

◆学修到達目標 幅広い分野のニュースを、興味・関心を持って積極的に読むことができる。ニュース記事で用いられるさまざまな分野の語句の知識を身につけ、それを運用することができる。英文法や語彙の知識を用いて英文の構造を理解し、内容を読み解くことができる。新聞記事として書かれる文の構成を理解して、記事の内容を理解することができる。

◆授業方法 授業は Google Classroom (以下 Classroom) を用いたオンデマンド形式で行う。授業時間中に Classroom 上に配信された解説動画 (1本あたり 15 分程度、1回の授業につき 3~4 本程度) を視聴しながら、教科書の英文を読み解し、問題を演習する。毎回授業の最後に Classroom 上に配信される小テストを受験する。また、毎回指定する期日までに Classroom 上に課題を提出する。課題に対するフィードバックは課題返却時に、Classroom のコメント機能を用いて行う。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	イントロダクション (授業内容の説明), Unit 1, Unit 2 の読み解きと問題演習
事前学修	シラバスに目を通じて、授業内容や成績評価などについて理解しておく。教科書 p. 2-3, p. 8-9 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
2回	授業内容	Unit 3, Unit 4 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 14-15, p. 20-21 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
3回	授業内容	Unit 5, Unit 6 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 26-27, p. 32-33 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
4回	授業内容	Unit 7, Unit 8 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 38-39, p. 44-45 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
5回	授業内容	Unit 9, Unit 10 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 50-51, p. 56-57 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
6回	授業内容	Unit 11, Unit 12 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 62-63, p. 68-69 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
7回	授業内容	Unit 13, Unit 14 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 74-75, p. 80-81 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
8回	授業内容	Unit 15, Unit 16 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 86-87, p. 92-93 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
9回	授業内容	Unit 17, Unit 18 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 98-99, p. 104-105 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
10回	授業内容	Unit 19, Unit 20 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 110-111, p. 116-117 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
11回	授業内容	Unit 21, Unit 22 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 122-123, p. 128-129 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
12回	授業内容	Unit 23, Unit 24 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 134-135, p. 140-141 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
13回	授業内容	Unit 25, Unit 26 の読み解きと問題演習
事前学修	教科書 p. 146-147, p. 152-153 を読んで演習する。各 Unit の記事に目を通して、わからない単語・語句の意味を調べる。	
事後学修	授業内容をもとに再度記事を読み、記事に書かれている内容を要約する。また、間違えた演習問題の解き直しを行う。	
14回	授業内容	授業内試験: Google Classroom 内のテスト機能を用いて、第1回~第13回授業内容の定着度を測る試験を行う。
事前学修	第1回~第13回の授業内容を復習する。	
事後学修	試験の中でわからなかった問題を中心に授業内容を振り返り、復習する。	
15回	授業内容	振り返り: 返却された試験を用いて、これまでの学習内容を振り返る。
事前学修	第1回~第13回の授業内容を振り返り、特に問題演習の正答率が低かった Unit を復習する。	
事後学修	返却された試験を用いて、これまでの学習内容及び自らの定着度を振り返る。	

◆教科書 丸沼『ニュースメディアの英語—演習と解説 2020 年度版』 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 2020 年

◆参考書 丸沼 各自の所持している英和辞典を参考書として使用すること。

◆成績評価基準 成績は授業内試験 (50%), 毎回授業後に実施する小テストの提出状況及び点数 (25%), 課題の提出状況及び内容に対する評価 (25%) によって評価します。なお、授業内試験・小テスト・課題の提示は Google Classroom で実施します。

◆授業相談（連絡先）：授業の内容や課題に関する質問は Google Classroom 内の限定公開コメント機能を使用して送信してください。質問には即日中（授業時間外に送信された質問には送信された日の翌日中）に返信します。

注意

講座内容（シラバス）

〔英語D〕

中村 則子

◆授業概要 きわめて簡単な英語の初級レベルのテキストを使う。初級より上の英語力のある学生には簡単すぎて退屈と思われる可能性がある。授業を進めやすいように、極力、レベルの均一化を図りたい。従って、英語を専門に学ぶ学生等、英語力中級以上の学生は受講を避けてほしい。NYを題材にした簡単な英会話を視聴しながら、演習問題を解いていく。NYCを舞台にした映画を見て、レポートを提出する。最後に試験を行う。

◆学修到達目標 英語を使ったコミュニケーションや文法の基礎を身につけていく。NYCを舞台にした映画を見ることで、さらに英語の世界が好きになる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 授業はオンライン授業、Google Classroom配信にて行う。テキストに沿って、英文を視聴し、演習問題を行うことで、英語のコミュニケーションと4技能を習得していく。まずビデオで音声を確認し、英文を音読して内容をとつてもらう。毎回課題提出がある。また最後に、NYCを舞台にした映画を鑑賞、レポートの提出をしてもらう。進み具合により、シラバス通りにない場合もあることをおことわりしておく。

◆履修条件 令和元年度東京スクーリング（2月期）との積み重ね不可。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、参考書の説明等）
	事前学修	シラバスをよく読み、テキストの学習範囲をよく予習しておくこと。
	事後学修	ガイダンスで指示された部分をノートに整理する。演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。テキストの英文音読
2回	授業内容	Scene 1 It's So Nice to Meet You
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
3回	授業内容	Scene 2 Is He a Popular Professor?
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
4回	授業内容	Scene 3 He Showed Me "a" Way
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
5回	授業内容	Scene 4 For Here or To Go?
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
6回	授業内容	Scene 5 She Is So Beautiful
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
7回	授業内容	Scene 1-5のまとめ、質問解説
	事前学修	今まで学習したテキストの内容を整理し、質問があれば書き留めておく。
	事後学修	質問の解答解説を整理し、学習した英文の内容を全て理解する。英文音読
8回	授業内容	Scene 6 Catching a Cab
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
9回	授業内容	Scene 7 How Romantic!
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
10回	授業内容	Scene 8 I'm Not Feeling Well
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
11回	授業内容	Scene 9 Tickets
	事前学修	演習問題 Let's Watch, Check Your Understanding, Grammar Focus, Reading の予習
	事後学修	演習問題の解答をノートに整理し、英文の内容が理解できるようにする。英文音読
12回	授業内容	Scene 6-9のまとめ、質問解説、試験準備
	事前学修	今まで学習したテキストの内容を整理し、演習問題等を確認する。
	事後学修	質問の解答解説を整理し、学習した英文の内容を全て理解する。英文音読
13回	授業内容	試験と解説
	事前学修	今まで学習したテキストの試験範囲を解答できるようにする。
	事後学修	試験の解答が適切であったかどうか確認する。今まで学習した部分を繰り返し復習する。
14回	授業内容	映画鑑賞（ティファニーで朝食を）
	事前学修	映画の大筋把握をしておく。
	事後学修	英文の内容が理解できるようにする。映画の内容整理
15回	授業内容	映画鑑賞
	事前学修	映画の内容を大筋で把握しておく。
	事後学修	映画の中で聞き取れた会話を書き留め、見解を含めたレポート作成提出。

◆教科書 Hello New York! 土屋武久他著 金星堂 2500円（税別）

◆参考書 授業ガイダンスにて指示

◆成績評価基準 課題提出を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆授業相談（連絡先）：配信日にコメント欄にて行う。

注意

講座内容（シラバス）

〔民法Ⅲ〕

長谷川 貞之

◆授業概要 人は、その誕生から死亡に至るまで、様々な権利を取得する。その中心となるのが、売買や賃貸借、雇用などの契約や不法行為などを主たる原因として発生する債権である。本講義は、債権の発生から存続・効力、そして消滅に至るまでのプロセスを民法典の規定に即しながら、その基本構造を体系的に学ぶとともに、弁護士の実務経験などを踏まえて、現実の債権法の世界を知ることを主眼とする。

◆学修到達目標 1. 民法典における債権の意義・目的・性質を物権との対比で明らかにし、債権が社会の中でどのような働きをしているかを説明することができる。2. 債権の内容を給付概念を通じて分類し、各種の債権が意味するところを、発生・存続・効力、消滅の各段階に即して説明することができる。3. 債権の効力が債権者・債務者以外の第三者に対しても例外的に及ぶ場合があることを、具体的な事案に即して説明することができる。

◆授業方法 授業計画に沿って、教科書に即しながら、講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッド（対話形式）を用いる。本講義は、民法典の主要な規定の音読や、それに基づく質疑・応答を通して、理解を深めて行くことを重視している。できる限り具体例を挙げながら、考える授業とした。六法（最新のもの）は必携である。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としている。

◆履修条件 2019年春夜間スクーリング『民法Ⅲ』（長谷川貞之）（2019年度スクーリングの手引き（4月から7月）123頁参照）との積み重ね履修は不可。

◆授業計画〔各90分〕

	授業内容	民法の体系と債権法：オリエンテーション・債権法をまなぶ意義／債権法総則と各論、近時の債権法改正について
1回 事前学修	授業内容	1. 教科書を事前に購入し、開講前までに2・3回程度全体を通読する。その際、教科書の余白に記載のある★（重要度に応じて3段階）に留意し、問題点の把握に心掛ける。 2. 教科書の「序章」の部分については、とくに丁寧に熟読する。 3. 民法典第3編債権（399条-724条）を音読し、そのうえで債権総論に関する規定条の配置（399条-548条）を確認する。
	事後学修	授業の内容をノートに整理して、その内容を理解する。
2回 事前学修	授業内容	債権の意義と性質：債権の発生原因、物権と区別される債権の特質
	事後学修	1. 教科書の「序章」の部分を熟読する。 2. 民法典第3編債権総論の規定条の配置（399条-548条）を確認し、音読する。
3回 事前学修	授業内容	債権の目的(1)：給付の概念を通じた債権の分類
	事後学修	教科書の「第2章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理して、その内容を理解する。給付の目的物の違いに応じて、各種の債権が定物債権・種類債権・金銭債権・選択債権などに区分され、弁済方法などの点で違いがあることを具体的に把握する。
4回 事前学修	授業内容	債権の目的(2)：各種の債権—特定物債権、種類債権、金銭債権、選択債権など
	事後学修	教科書の「第2章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。
5回 事前学修	授業内容	債権の効力(1)：履行請求、債権・債務と責任、第三者による債権侵害
	事後学修	教科書の「第3章」を事前に熟読し、債権の区力を対内関係と対外関係に区分して把握する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。債権が請求力以外にも、訴求力、強制力、および給付保持力を持つことを確認しておく。教科書等の「例題」を検討する。
6回 事前学修	授業内容	債権の効力(2)：債務不履行（履行遅滞・履行不能・不完全履行）、受領遅滞
	事後学修	教科書の「第3章」を事前によく読み、債権の対内関係の中心をなす債務不履行のを具体例を通じて把握する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。債務不履行の三類型を区別し、説明できるように理解する。
7回 事前学修	授業内容	債権の効力(3)：責任財産の保全、債権者代位権、債権者取消権
	事後学修	教科書の「第4章」を事前に熟読する。 配布資料を確認し、授業の内容をノートに整理して、その内容を理解する。教科書76頁の「例題」、91頁以下の「債権者代位権の転用」事例を検討する。
8回 事前学修	授業内容	債権の効力(4)：統・債権者取消権
	事後学修	教科書の「第4章」を事前に熟読する。 教科書96頁の「例題」を検討する。
9回 事前学修	授業内容	債権の効力(5)：多数当事者の債権債務関係—総論：債権の共有と原則ルール／分割債権・債務、不可分債権・債務
	事後学修	教科書の第5章を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。
10回 事前学修	授業内容	債権の効力(6)：多数当事者の債権債務関係—連帯債権・債務、不真正連帯債務、保証債務
	事後学修	教科書の第5章を事前に熟読する。 配布資料を確認し、授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。連帯保証、根保証などは重要なので、しっかりとまとめて整理する。
11回 事前学修	授業内容	債権の効力(7)：多数当事者の債権・債務関係—統・保証債務
	事後学修	教科書の「第5章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。
12回 事前学修	授業内容	債権の効力(8)：債権譲渡
	事後学修	教科書の「第5章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。債権譲渡の意義・目的を確認し、教科書等の「例題」を検討する。
13回 事前学修	授業内容	債権の効力(9)：債務引受け、契約上の地位の移転（契約譲渡）
	事後学修	教科書の「第6章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解しておくこと。債務引受けと契約上の地位の移転（契約譲渡）は、今般の債権法改正により新たに規定が設けられた部分なので、注意する。
14回 事前学修	授業内容	債権の消滅(1)：総論—7つの消滅原因、弁済とその周辺（弁済の方法・場所・費用など）、代物弁済、供託、相殺など
	事後学修	教科書の「第7章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。債権特有の消滅原因（7種類）について、条文を参照し、確認する。
15回 事前学修	授業内容	債権の消滅(2)：相殺の担保的機能／まとめ&最終試験
	事後学修	教科書の「第7章」を事前に熟読する。 授業の内容をノートに整理し、その内容を理解する。相殺の担保的機能について、教科書等の「例題」を検討する。

◆教科書 丸沼『民法Ⅲ—債権総論〔第4版〕』〈有斐閣Sシリーズ〉 野村豊ほか 有斐閣、2018年

◆参考書 丸沼『民法（債権関係）改正法新旧対照条文』 商事法務（編） 商事法務 2017年
その他、授業中に適宜指示する。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、平常点（20%）と試験（80%）により総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔国文学史Ⅱ〕

布村 浩一

- ◆授業概要 近代以降の文学テクストを材料として、作品成立当時の社会情勢との関連、「非主流」とされる作品の再検証を行います。それにより、受験までの「現代文」の文学観に（ある意味）「拘束」された「文学史」の見直しを目的とした講義を行います。
- ◆学修到達目標 文学史の知識や分析的読解の方法を知ることで、文学研究や教材研究・開発に生かすことができる。研究の基礎手続を知ることで、読み手・聞き手にわかりやすい資料・教材の作成ができる。
- ◆授業方法 配布プリントや視聴覚資料で補足を行いながら、教科書を通読する形で授業を行います。また、簡易レポート（兼リアクションペーパー）に記入した質問については、次回の授業で回答します。なお、本授業の事前学習・事後学習の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	ガイダンス 研究の手続 「文学」とは？ ガイダンス（授業の進め方）や研究の手続（先行研究の調査方法・文章作法など）、近代以降の「文学」の定義などについて講義します。
	事前学修	教科書「はじめに」(p.1～v)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.1～vを読んでおくこと。
2回	授業内容	近代文学の誕生① 西洋思想の輸入の問題や、「近代化＝西洋化」と文学観との関わりなどについて講義します。
	事前学修	教科書「第一章 異端の文体が生まれたとき」前半(p.1～24)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.1～24を読んでおくこと。
3回	授業内容	近代文学の誕生② 言文一致運動と読書形態（音読と黙読）の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第二章 異端の文体が生まれたとき」後半(p.24～43)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.24～43を読んでおくこと。
4回	授業内容	近代文学の誕生③ 文学改良運動（「小説」の成立）や、古典への批判や古典の再評価の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第二章 「女が書くこと」の換金性」前半(p.45～69)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.45～69を読んでおくこと。
5回	授業内容	近代文学の誕生④ 専門機関（帝國大学など）の設立や女性の社会進出の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第二章 「女が書くこと」の換金性」後半(p.70～84)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.70～84を読んでおくこと。
6回	授業内容	明治後期～大正の文学① 翻訳文学と日本語の文体との関係などについて講義します。
	事前学修	教科書「第三章 洋の東西から得た種本」前半(p.85～109)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.85～109を読んでおくこと。
7回	授業内容	明治後期～大正の文学② 「没理想論争」の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第三章 洋の東西から得た種本」後半(p.109～125)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.109～125を読んでおくこと。
8回	授業内容	明治後期～大正の文学③ 自然主義と反自然主義、「私語り」の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第四章 ジャーナリズムにおけるスタンス」前半(p.127～152)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.127～152を読んでおくこと。
9回	授業内容	明治後期～大正の文学④ 象徴主義と明治後半の歌壇・俳壇・詩壇の動向の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第四章 ジャーナリズムにおけるスタンス」後半(p.153～176)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.153～176を読んでおくこと。
10回	授業内容	大正～昭和初期の社会情勢と文壇① 私小説と心境小説の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第五章 実体験の大胆な暴露と繊細な追憶」前半(p.177～195)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.177～195を読んでおくこと。
11回	授業内容	大正～昭和初期の社会情勢と文壇② 大衆文学と純文学の違いなどについて講義します。
	事前学修	教科書「第五章 実体験の大胆な暴露と繊細な追憶」後半(p.195～213)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.195～213を読んでおくこと。
12回	授業内容	大正～昭和初期の社会情勢と文壇③ 純粹小説論と私小説論の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第六章 妖婦と悪魔をイメージした正反対の親友」前半(p.215～233)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.215～233を読んでおくこと。
13回	授業内容	戦時下の文学 第二次世界大戦下の文壇の動向や、国家による検閲の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「第六章 妖婦と悪魔をイメージした正反対の親友」後半(p.233～251)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.233～251を読んでおくこと。
14回	授業内容	戦後の文学 戦後の文学者の戦争責任問題、大衆文化の再展開の問題などについて講義します。
	事前学修	教科書「終章 文学のその後、現代へ」(p.253～259)を予め読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	今回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書p.253～259を読んでおくこと。
15回	授業内容	総括 授業内試験 「国文学史」とは何か」（総括）について講義した後に、授業内試験を実施します。なお、試験の詳細については、初回授業の際に連絡します。
	事前学修	教科書全体を改めて読み、参考書も適宜、確認しておくこと。
	事後学修	第1回～15回の授業内容をノートに整理し、改めて教科書全体を読んでおくこと。

◆教科書 丸沼『日本近代文学入門 12人の文豪と名作の真実』堀啓子〔著〕 中公新書 2019年
〔当日資料配布〕補足プリント（研究の手続、テクストの分析方法、文学史年表など）

◆参考書 丸沼『原色 新日本文学史（増補版）』秋山虔・三好行雄〔著〕 文英堂 2016年
丸沼『日本近代小説史』安藤宏〔著〕 中央公論新社 2015年
丸沼『入門 日本近現代文芸史』鈴木貞美〔著〕 平凡社新書 2013年
丸沼『日本文学の論じ方－体系的研究法』鈴木貞美〔著〕 世界思想社 2014年
丸沼『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』日本近代文学学会〔編〕 ひつじ書房 2016年

◆成績評価基準 「簡易レポート（最終日以外）」30%、「授業内考査（最終日）」70%の割合で、総合的に評価します。
なお、簡易レポートについては、次回授業の際に返却します。

注意

講座内容（シラバス）

〔異文化間コミュニケーション概論〕

大庭 香江

◆授業概要 1. テキストで異文化間コミュニケーションについての解説を読み、例題を通して問題を掘り下げます。

2. 英語論文を読み、異文化間コミュニケーションの実際について考察を行います。

3. 日本とそれ以外の国についてディスカッションを行います。

◆学修到達目標 異文化間コミュニケーションとは文化的背景の異なる人同士のコミュニケーションですが、国籍の同じ日本人同士でも文化的背景が一緒であるとは限りません。出身地、男女、世代によっても文化的背景は異なります。私たちは日常的に異文化間コミュニケーションを経験しているのです。

本授業では、異文化間コミュニケーションについて述べられた英語論文や、エクササイズを通して、英語が使われている国や地域の文化を理解し、多様な文化的背景を持った人々との交流を通しての文化の多様性及び異文化交流の意義について考え、異文化間コミュニケーションの現状と課題を学び、実践していきます。

また、SNSを利用した異文化交流を行い、日本大学に在籍している留学生と日本とそれ以外の国の文化についてのディスカッションする機会を設けます。

テキストの解説と、アクティビティを行います。

◆授業方法 テキストの内容の詳しい解説と、異文化間コミュニケーションのワークシートやアクティビティを行います。

◆履修条件 令和2年度夏期スクーリング『異文化間コミュニケーション』（大庭香江）とは積み重ね不可

◆授業計画【各90分】

1回	授業内容 異文化間コミュニケーションとは何かについての考察	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
2回	授業内容 ミュニケーションの定義	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
3回	授業内容 ステレオタイプ	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
4回	授業内容 言語コミュニケーション	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
5回	授業内容 非言語コミュニケーション	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
6回	授業内容 ジェスチャー	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
7回	授業内容 時間の感覚	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
8回	授業内容 空間の感覚	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
9回	授業内容 コミュニケーションスタイルとスキルの分析	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
10回	授業内容 双方向コミュニケーション	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
11回	授業内容 アサーティブ・コミュニケーション	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
12回	授業内容 異文化間コミュニケーション・シミュレーションの実践	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
13回	授業内容 日本文化を紹介する：SNSを利用した異文化交流	事前学修 日本文化を代表するものは何か、具体例を挙げ準備を行うこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
14回	授業内容 日本とそれ以外の国における文化的行動規範の違いについて：日本大学に在籍している留学生とのディスカッション	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 考察をレポートにまとめ、次回授業時のディスカッションの準備を行う
15回	授業内容 英語圏の文化についての考察、まとめ、及び試験	事前学修 テキストを予習し、提起された問題について、考えをまとめておくこと	事後学修 授業の内容を整理し、レポートにまとめる

◆教科書 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子著 三修社

◆参考書

◆成績評価基準 試験及びレポート 50%， 授業参画度 50%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔英米事情Ⅰ〕

鈴木 ふさ子

◆授業概要 世界の金融都市であり、多くの文芸の舞台ともなっている人工都市ニューヨーク。本講義ではニューヨークの歴史や特徴を知り、この街を舞台にした文学作品や映画、ドラマについて学ぶ。街と文学や映画との関わりを考えることで、ニューヨークさらにアメリカという国の特徴を把握する。

◆学修到達目標 映画の舞台として最もよく使われるニューヨーク。この大都会を舞台としているアメリカ文学やドラマの代表的な作品（*Breakfast at Tiffany's*, "The Last Leaf," *The Odd Couple*, *Sex and the City*, *The Catcher in the Rye*, *The New York Trilogy*）の内容を把握し、ニューヨークの歴史や成り立ちについて知る。そのうえで、この都市が文学で描かれる理由や主題との関わりを考え、分析力、批評力を身につけることを目標とする。

◆授業方法 テキストを中心に授業を進めます。ニューヨークという都市の成り立ちと特徴を地図などで説明します。扱う作品の内容（人物の場合もある）と作家の紹介をした後、重要な部分を原文で読みます。エッセイを読み、作品の主題とニューヨークとの関わりを考えます。それぞれの作品について小テストやレスポンスシートに取り組んでいただきます。※授業およびレポートでテキストが必要です。授業開始日までにテキストを必ず入手するようにしてください。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容
1回	事前学修 ニューヨークの位置などを調べておく 事後学修 ニューヨークについての基礎知識を整理し、復習する。
2回	授業内容 テキスト【プロローグ】写真家 Saul Leiter が切り取ったニューヨーク 事前学修 事前にテキストの該当箇所（プロローグ）を読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、Saul Leiter の写真とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
3回	授業内容 テキスト【第1章】Truman Capote の <i>Breakfast at Tiffany's</i> とニューヨーク 事前学修 事前にテキストの該当箇所（第1章）を読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、Tiffany の歴史、作品とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
4回	授業内容 テキスト【第2章】O.Henry の "The Gift of Magi" とニューヨークとの関わりを考える。 事前学修 テキストの該当箇所（第2章）を読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、ニューヨークのクリスマス、作品とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
5回	授業内容 テキスト【第3章】O.Henry の "The Last Leaf" とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第3章）を読んでおく。 事後学修 教科書で学んだことやノートを整理し、東部の人々にとってのニューヨーク、ニューヨークのゲイ文化について考える。
6回	授業内容 テキスト【第4章】 <i>Sex and the City</i> のニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第4章）を読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、ドラマ <i>Sex and the City</i> とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
7回	授業内容 テキスト【第5章】Neil Simon の <i>The Odd Couple</i> とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第5章）を読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、Neil Simon の喜劇とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
8回	授業内容 テキスト【第6章】三島由紀夫にとってのニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第6章）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、三島由紀夫にとってニューヨークがどのような場所であったかを考え、まとめる。
9回	授業内容 テキスト【第7章】J.D.Salinger の <i>The Catcher in the Rye</i> とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第7章）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、作品とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
10回	授業内容 テキスト【第8章】Paul Auster の <i>City of Glass</i> とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第8章）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、Paul Auster の <i>City of Glass</i> とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
11回	授業内容 テキスト【第9章】Paul Auster の <i>Ghosts</i> と <i>The Locked Room</i> とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（第9章）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、作品とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
12回	授業内容 テキスト【エピローグ】ミュージカル <i>Hamilton</i> とニューヨーク 事前学修 テキストの該当箇所（エピローグ）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、 <i>Hamilton</i> とニューヨークとの関わりを考え、まとめる。
13回	授業内容 テキスト【映画と文学でから見るニューヨーク】ユダヤ移民とニューヨーク 事前学修 テキストの該当部分（映画と文学から見るニューヨーク）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、ユダヤ移民とニューヨークとの関わり、主要な文学作品について考え、まとめる。
14回	授業内容 テキスト【映画と文学から見るニューヨーク】イタリア移民とニューヨーク 事前学修 テキストの該当部分（映画と文学から見るニューヨーク）を事前に読んでおく。 事後学修 授業時に学んだことやノートを整理し、イタリア移民とニューヨークとの関わり、主要な文学作品について考え、まとめる。
15回	授業内容 まとめ（年代別文学とニューヨークの地域など）とレポート課題について 事前学修 テキストの年表に目を通しておく。 事後学修 授業で学んだ全体を復習する。

◆教科書 『そして、ニューヨーク——私が愛した文学の街』 鈴木ふさ子 鳴影社、2021年1月刊行予定

◆参考書

◆成績評価基準 レポート 50%、小テスト（レスポンスシートを含む） 50%

※授業およびレポートでテキストが必要となりますので、授業開始日までに必ずテキストを入手すること。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔英米文学演習〕

山下 登子

◆授業概要 19世紀英文学史の中で重要な作家であり今日でも読み続けられているハーディの作品に触ることで、文化的背景の学習や文学の読み方、思想の理解につながることを目標とする。文学の価値を少しでも理解できる場となるように努めたい。

◆学修到達目標 イギリス19世紀の小説家 Thomas Hardy (1840-1928) の小説の一部を読むことで、作品及び作家の理解を深めることができる。

◆授業方法 受講生が本文の音読と和訳を発表する精読形式と、担当箇所の内容をグループで日本語要約し発表する形式の2つの方法で作品を読み進める。随時、問題点や意見の発言を求める。購読範囲は「Part IV.-At Shaston / i. - ii. (第4部 シャストンで1章～2章)」

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

	授業内容	・ガイダンス・授業の進め方について
1回	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
2回	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
3回	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
4回	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
5回	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
6回	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
7回	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
8回	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
9回	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
10回	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
11回	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
12回	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
13回	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
14回	授業内容	・購読範囲の精読（英文音読と和訳）・要約（担当箇所の音読と日本語要約）
	事前学修	教材の学習範囲の中で、発音や意味の分からない単語を確認し調べる。
15回	事後学修	授業の内容をノートにまとめて全体の確認する。配布資料を読み不明な点はないか理解を深める。
	授業内容	試験及び質問・解説
事前学修	学習した範囲全体の復習をし、分からない点がないか確認をする。	
	事後学修	授業の内容及び試験の内容を確認し、間違えた点や分からなかった点を中心に何回か復習をする。

◆教科書 事前資料送付 事前に配布された資料を教材とします。

◆参考書 丸沼 中型以上の英和辞書（電子辞書可）

丸沼『日陰者ジュード』（上・下）川本静子訳、中公文庫（絶版の場合は図書館をご利用ください）

◆成績評価基準 予習・発表・受講状況（50%）、試験（50%）。毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に伝える。

注意

講座内容（シラバス）

〔西洋史入門〕

後藤 秀和

◆授業概要 将来、西洋史分野で卒業論文を作成しようと考えたとき、その第一歩をどのように踏み出せば良いか。西洋史各分野の個別知識ではなく、研究者としてるべき作法、すなわち「調べ」「集め」「読み」「問題を立てる」ための手法について基礎から実習形式を交えて学ぶのが本講座である。

◆学修到達目標 西洋史分野において卒業論文を作成することを目的とする学生が、自ら選んだ地域、テーマおよび時代について、問題を設定し、先行研究を収集し、史料を調査し、論じられるようになることを、すなわち大学生として自ら研究を進めることができるように、基礎的方法やキー概念を身につけることを目標とする。

◆授業方法 平日期間はオンデマンド方式、土日はZoomを用いたオンライン方式。オンデマンド授業ブロックでは西洋史分野の基礎概念や文献調査方法についての音声付き資料を視聴し、与えられた課題に取り組み、小レポートを提出する。オンライン授業ブロックでは、指示に従って事前に受講者各自の興味関心や既読文献をまとめたレジュメを作成・提出いただき、それをもとに各自10分以内の報告、5分程度の質疑応答を行う。報告時間は目安であり、受講者が多い場合は短縮される。

◆履修条件 積み重ね履修を禁じるものではないが、入門講座という性質上、同一教員による当授業を複数回履修することによる教育効果は高くない。よって既修者に対しては、報告・討論やグループワークにおいて主導的な役割を果たしているか否かを成績評価の重要な基準のひとつとする。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容:導入:「西洋史学」とは何をする学問か、その問題意識と方法の変遷 事前学修:大型書店等の歴史関連棚を見て現在の歴史学が何を問題にしているのかをつかむ 事後学修:授業内容から史学史的に「問題意識」や「方法」の変遷をまとめる
2回	授業内容:問題意識の明確化と暫定テーマの選定 事前学修:どの時代や地域、どのような問題を論じたいのか、書き出しておく 事後学修:講義内容をもとに、自身の問題意識をより明確に文章化する
3回	授業内容:研究対象の背景となるミリュー（環境）を意識する 事前学修:地球儀や地図帳、気候統計などを用い、自身の関心の対象となる地域の環境条件をつかむ 事後学修:講義内容をもとに、対象領域の環境条件をよりくわしく記述する
4回	授業内容:視点を広げる(1):食の禁忌の成立を題材に 事前学修:ある特定の社会集団にみられる何かを「食べてはならない」とする慣習についていくつか事例を調べておく 事後学修:食の禁忌の成立条件について、事前の予想に欠けていた視点や方法をまとめる。
5回	授業内容:視点を広げる(2):人口と化学の近代史 事前学修:世界人口の推移について統計等で概要をつかんでおく 事後学修:18世紀以降の人口増大を支えた発見や新技術についてまとめる
6回	授業内容:「やりたいこと」と「できること」:史料上の制約と方法論による克服、いくつかの事例から 事前学修:自身と興味関心の近い研究を読み、どのような史料・文献を用いているか書き出しておく 事後学修:講義内容をもとに、自身の研究について実施可能性の低い方法を修正する
7回	授業内容:作業道具としての辞書、歴史地図、統計、概説書 事前学修:英英辞典や百科事典の中からいくつかを選び、凡例や略号一覧に目を通しておく 事後学修:講義内容をまとめなおす
8回	授業内容:先行研究を集める:叙述の作法と芋づる式調査 事前学修:自身の関心領域の研究書を手に取り、脚注や文献一覧から探したい本をリスト化する 事後学修:参考文献一覧や脚注の重要性について学んだことをレポートにする
9回	授業内容:先行研究を集める:網羅的調査と雑誌目録 事前学修:自身の関心領域の研究書を手に取り、脚注や文献一覧から探したい本をリスト化する 事後学修:各自、実習時に作成した計画に従い図書館で調査を行う
10回	授業内容:先行研究を集める:網羅的調査とWEB検索 事前学修:自身の関心領域の研究書を手に取り、脚注や文献一覧から探したい本をリスト化する 事後学修:各自、実習時に作成した計画に従い図書館で調査を行う
11回	授業内容:調査計画の作成 事前学修:近隣の図書館の利用条件を確認し、国立国会図書館の資料取り寄せ方法について下調べを行う 事後学修:作成した調査計画に基づき調査を実行する
12回	授業内容:関心の所在を説明し問い合わせる（受講者による報告・質疑） 事前学修:事前に案内された参考文献を集めて読み、個別報告準備を行う 事後学修:質疑内容や教員からのコメントをもとに、問題構成を修正し問題意識を深化させる
13回	授業内容:関心の所在を説明し問い合わせる（受講者による報告・質疑） 事前学修:事前に案内された参考文献を集めて読み、個別報告準備を行う 事後学修:質疑内容や教員からのコメントをもとに、問題構成を修正し問題意識を深化させる
14回	授業内容:関心の所在を説明し問い合わせる（受講者による報告・質疑） 事前学修:事前に案内された参考文献を集めて読み、個別報告準備を行う 事後学修:質疑内容や教員からのコメントをもとに、問題構成を修正し問題意識を深化させる
15回	授業内容:関心の所在を説明し問い合わせる（受講者による報告・質疑） 事前学修:事前に案内された参考文献を集めて読み、個別報告準備を行う 事後学修:質疑内容や教員からのコメントをもとに、問題構成を修正し問題意識を深化させる

◆教科書 使用しない

◆参考書 事前提出レジュメ作成を案内する際、および講義時にお知らせする

◆成績評価基準 事前提出のレジュメの完成度（内容だけでなく指定した形式に沿っているかにも重点を置く）、授業内小レポートの内容の充実度、質疑応答時の積極性によって総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：教務課を通じて相談されたい。

注意

講座内容（シラバス）

[考古学概説]

山本 孝文

◆授業概要 考古学は過去の人類が遺した様々な痕跡である遺構・遺跡から歴史の一断片を復元する分野であり、文献史学や自然科学などの様々な分野を複合・応用することで多様な研究方法・解釈が提示できる総合的学問分野でもある。

本講義では、考古学が解き明かしてきた人類とその文化の進化の過程から紐解き、日本の歴史の中で考古学的調査研究が作り上げてきた旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の内容について解説し、その考古学的資料とそこから復元される文化内容を説明する。

◆学修到達目標 歴史研究の様々な方法を理解し、その中で考古学の研究が果たしている役割について説明することができるよう

する。

考古学の研究法と研究対象を把握し、説明することができるよう

する。

過去の社会と現代社会を比較することで過去の人類の文化に触れ、その差を感じることができるよう

する。

◆授業方法 講義はパワーポイント映像を使用し、写真・図面などを見せながら進める。必要に応じてメモを取り、講義内容の骨子

がつかめるようにしておくこと。

全体の授業回のうち5回分の授業で、授業内容を500字程度でまとめるまとめペーパーを作成する。

また、講義への質問事項も受け付ける。授業を受けながら内容を理解するとともに、疑問点などを提示できるよう

する。

最後に授業で学んだ内容に関する試験方式のレポート作成を行う。

高校の日本史・世界史の教科書との違いを解説する。教科書の考古学の成果に関連する部分を把握し、各回の授業に関連する考古

学の概説書などを自ら探して読んでおくこと。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容	考古学と人類史 考古学の研究範囲と人類学・歴史学との関連性を知り、それぞれの研究テーマと研究素材について理解する。
	事前学修	考古学に関する入門書を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
2回	授業内容	人類の誕生と進化① 人類とは何か、何をもって人類の誕生とするかを理解し、人類の特徴や文化とは何かについて理解する。
	事前学修	考古学に関する入門書を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
3回	授業内容	人類の誕生と進化② 諸人類の進化とそれらが残した物質文化について知り、身体的特徴や使用した道具（石器）の変化について理解する。
	事前学修	考古学に関する入門書を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
4回	授業内容	日本の旧石器時代の生活と文化 日本に人類が住みはじめた頃の環境的背景を知り、その時代の生活や文化を物質資料から理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの旧石器時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
5回	授業内容	旧石器時代の石器研究 旧石器（打製石器）の種類や製作方法を概観し、技術の変遷を理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの旧石器時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
6回	授業内容	縄文時代のはじまりと枠組み 旧石器時代から縄文時代への変化の状況を知り、縄文時代がどのような枠組みで研究されているのかを土器の変遷をもとに理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの縄文時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
7回	授業内容	縄文土器研究の観点 縄文土器の使用法について様々な観点があることを知り、それが縄文時代当時の生活にどのような役割を担っていたか理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの縄文時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
8回	授業内容	縄文時代の道具と生活 縄文時代の遺跡から出土する道具の種類を把握し、そこから復元できる縄文時代の生活文化について理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの縄文時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
9回	授業内容	縄文時代の住居と集落 縄文時代の集落遺跡に対する調査をもとに、縄文人の生活文化や居住・生業について理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの縄文時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
10回	授業内容	弥生時代のはじまりと時代の枠組み 弥生時代の会式の状況とその後の展開について知り、遺跡から出土する資料によってどのような文化が復元できるか理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの弥生時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
11回	授業内容	弥生時代の生活と文化 弥生文化の系統について縄文時代との関わり、大陸との関わりから把握し、渡来文化が担った役割について理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの弥生時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
12回	授業内容	弥生から古墳へ 弥生時代から古墳時代への遺構の状況を墳墓や集落、文献史料から紐解き、社会変化の画期について理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの弥生時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
13回	授業内容	古墳と古墳時代の枠組み 古墳とは何か、古墳時代とは何かについて、前方後円墳を中心とした古墳の特性と変化から理解する。
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの古墳時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
14回	授業内容	古墳の埋葬施設・副葬品と被葬者 古墳に葬られた人物に関する情報を古墳・埋葬施設・副葬品から推定し、
	事前学修	日本史の教科書や資料集などの古墳時代に関する部分を読んでおく。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ直し、読み返して理解できるよう
15回	授業内容	授業のまとめと確認の課題
	事前学修	授業内で話した内容を確認し、ノートをまとめ直しておく。
	事後学修	課題の内容を再度調べておく。

◆教科書

◆参考書 〔凡沼〕『はじめて学ぶ考古学』佐々木憲一他 有斐閣アルマ 2011年

◆成績評価基準 試験方式課題 50%, リアクションペーパー 30%, 授業参画度 20%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔哲学概論〕

齋藤 隆

- ◆授業概要 中世末期から近世への移行を概観し、「神中心から人間中心へ」の意味を理解する。そして認識論的観点から、R. デカルトとF. ベーコンに始まる近世哲学の二大潮流と、それらを批判的に総合統一したカントの哲学を理解する。さらにカントからヘーゲルにいたるドイツ観念論哲学、そしてヘーゲル以後の哲学の展開にも目を向ける。
- ◆学修到達目標 中世から近世にいたる過程が、哲学に認識論的反省を持ち込むことによって可能となった「人間の主体性」の確立の自覚的展開であることを理解する。カント哲学の重要性を理解する。ヘーゲルのカント哲学批判の意味を理解し、近代哲学の総決算としてのヘーゲル哲学の歴史的な存在意義を把握する。そしてヘーゲル以後の現代哲学の流れを、ヘーゲル哲学批判を通して理解できるようにする。
- ◆授業方法 テキストと事前配布資料に基づいて、講義を中心に授業を展開する予定である。疑問・質問にはできるだけその場で答えるつもりであるが、その際には当日の授業予定の範囲についてテキストと配布資料に、前もって目を通しておくことが望ましい。初めて哲学を学ぶ者にとっては理解の難しいところも多いとは思われるが、繰り返し根気強く予習・復習することで克服できると信じている。本授業の事前学修・事後学修にはそれぞれ1~2時間を当ててください。
- ◆履修条件 令和2年2月の東京スクーリング「哲学概論」との積み重ねは不可。

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	プラトンとアリストテレス テキストのP. 25~39を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	スコラ哲学の崩壊 テキストのP. 57~58, P. 110~112を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	ルネッサンスと宗教改革 事前送付の印刷物の当該箇所を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	ルネッサンス期の自然研究 テキストのP. 60~63を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	デカルトと大陸合理論の哲学(1) テキストのP. 64~72を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	デカルトと大陸合理論の哲学(2) テキストのP. 114~117, P. 217~219を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	ベーコンと英国経験論の哲学(1) テキストのP. 118~125を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	ベーコンと英国経験論の哲学(2) テキストのP. 219~221を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	カントの批判哲学(1) テキストのP. 76~78, P. 126~128を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	カントの批判哲学(2) テキストのP. 225~226を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	ドイツ観念論の哲学者 テキストのP. 76~80を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	ヘーゲルの哲学 テキストのP. 80~82, P. 227~228を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	ヘーゲル以後の哲学の展開(1) テキストのP. 82~84, P. 241~243を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	ヘーゲル以後の哲学の展開(2) テキストのP. 84~86, P. 231~236を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	認識論の概論的説明 事前送付の印刷物の当該箇所を2~3回読む。 講義ノートを見ながら授業内容を確認する。

- ◆教科書 通材『哲学』(通信教育教材), 事前送付の資料
事前資料送付

- ◆参考書 岩波文庫の関連文献。

- ◆成績評価基準 全出席を前提にし、最終回の試験の結果に基づいて評価する。

- ◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔東洋思想史Ⅱ〕

本間 直人

◆授業概要 漢の時代から魏晉六朝時代の思想・哲学について、三国志の英雄たちや竹林の七賢の思想を中心に概観します。その思想は、中国古代の思想・哲学と密接な連関を持ちつつ展開されたものであることに留意しながら、それぞれの哲学思想の特質を理解できることを心掛けます。

◆学修到達目標 漢の時代から魏晉六朝時代の思想・哲学について、三国志の英雄たちや竹林の七賢の思想を中心に学びます。その思想は、中国古代の思想・哲学と密接な連関を持ちつつ展開されたものであり、現代に生きる我々にも、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などについて学ぶとともに、常に問題意識を持って中国の古典文献を読む態度を身につけることを目指します。

◆授業方法 上記の「学修到達目標」を達成することに留意しながら、発表形式で授業を行います。具体的には、テキストの文章、または配布した資料の文章を1人ずつ読んでいただきます。さらに、レポートのまとめ方についても指導します。なお、授業内で小テスト、作文などを課すこともあります。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容: ガイダンス（研究の意義、必要性について） 事前学修: テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
2回	授業内容: 漢～三国時代の思想概況（曹操の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
3回	授業内容: 漢～三国時代の思想概況（諸葛亮の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
4回	授業内容: 漢～三国時代の思想概況（まとめ） 事前学修: 改めて、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキスト、ノート、プリントなどで、漢～三国時代の思想概況についてまとめておくこと。
5回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（阮籍の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
6回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（嵇康の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
7回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（山涛の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
8回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（劉伶の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
9回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（阮咸の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
10回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（向秀の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
11回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況—竹林の七賢の思想—（王戎の思想） 事前学修: テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキストを再読みし、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
12回	授業内容: 魏晉六朝時代の思想概況（まとめ） 事前学修: 改めて、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。 事後学修: テキスト、ノート、プリントなどで、魏晉六朝時代の思想概況についてまとめておくこと。
13回	授業内容: レポートの書き方について①（全体指導） 事前学修: 1回目の授業で配布されたプリントをよく読んでおくこと。 事後学修: 配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
14回	授業内容: レポートの書き方について②（個別指導） 事前学修: 前回の授業で配布されたプリントをよく読んでおくこと。 事後学修: 個別指導で指摘された点を中心にレポートをまとめること。
15回	授業内容: 試験及び解説 事前学修: これまでにまとめた、漢～三国時代の思想概況、魏晉六朝時代の思想概況について再確認すること。 事後学修: 改めて、東洋思想史を学ぶ意義について考えてみること。

◆教科書 通材『東洋思想史Ⅱ P 30700』 通信教育教材（教材コード 000438）
〔当日資料配布〕当日プリント配布 漢和辞典を用意してください。

◆参考書

◆成績評価基準 授業への取り組み（発表など）・レポート・テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

・令和2年度地方スクーリング(10月期) 開講講座一覧

講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
NEA1	体育実技 B	佐藤 紀子	1	J101SO	体育実技 I	×	オンデマンド予定	40	1年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				J102SO	体育実技 II					
NEA2	国文学演習	近藤 健史	1	M404SO	国文学演習 I	×	オンデマンド予定	60	3年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。 ・I ~ VIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
				M405SO	国文学演習 II					
				M406SO	国文学演習 III					
				M407SO	国文学演習 IV					
				M408SO	国文学演習 V					
				M409SO	国文学演習 VI					
NEA3	英語学概説	真野 一雄	2	N30700	英語学概説		オンデマンド予定		2年	
NEA4	日本史概説/日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説		オンデマンド予定	60	2年	・法学部のみ申込可。 ・文理/経済/商学部のみ申込可。
				K32200	日本史概論					
NEA5	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論		オンデマンド予定		2年	
NEA6	証券市場論	佐藤 猛	2	S30800	証券市場論		オンデマンド予定	60	2年	
NEA7	英語科教育法 I B	小澤 賢司	2	T20900	英語科教育法 I	×	オンデマンド予定	60	2年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
				T23800	英語科教育法 I					

注意事項

- ・開講方法は、変更が入る可能性があります。

講座内容（シラバス）

〔英語科教育法Ⅰ〕

小澤 賢司

◆授業概要 中学校および高等学校における英語科教育を扱う本授業では、以下の点について学修します。

- ① 英語（科）教育の目的
- ② 英語指導と教科用図書
- ③ 指導計画および学習指導要領
- ④ 英語科教育の小中高連携
- ⑤ その他、授業担当者の実務経験に基づいた英語科教育において必須となる諸項目

◆学修到達目標 本授業では、以下の点を目標とします。

- ① 英語科教育に関する知識を身につけ、それらをわかりやすい言葉で説明することができる
- ② 教科用図書と連動させた効果的な指導方法を考案することができる
- ③ 指導計画に基づいた学習指導案を作成することができる
- ④ 協働作業を通して有益な案を創出することができる

英語科教育に携わる者として、過去・現在・未来に渡る英語科教育に関する知識や情報、動向等には常に注意を向けるようにしましょう。

◆授業方法 本授業は Google Classroom を使用したオンデマンド授業です。

「授業計画」に示されている教科書の章は必ず読んだうえで授業動画を視聴してください。授業動画では、各回に示されている内容の確認および教科書では触れられていない内容についての補足・説明等を行ないます。（ほぼ）すべての授業回毎に課題の提出を求めますので、必ず取り組んでください。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

授業内容	学習指導要領
1回 事前学修	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編、および高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説外国語編を入手しておくこと
事後学修	学習指導要領の新旧対照表を熟読しておくこと
2回 授業内容	英語教育の目的
事前学修	第 1 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
3回 授業内容	学習者論
事前学修	第 3 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
4回 授業内容	言語習得と言語教育
事前学修	第 4 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
5回 授業内容	教授法
事前学修	第 5 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
6回 授業内容	英語指導と教科用図書
事前学修	第 7 章から第 11 章までをよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
7回 授業内容	4 技能指導
事前学修	第 7 章から第 11 章までをよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
8回 授業内容	4 技能指導（続き）
事前学修	第 7 章から第 11 章までをよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
9回 授業内容	指導計画
事前学修	これまでの授業動画（教科書内容）を再視聴し復習しておくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
10回 授業内容	学習指導要領：作成編
事前学修	これまでの授業動画（英語力・英語学力）を再視聴し復習しておくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
11回 授業内容	学習指導要領：作成編（続き）
事前学修	学習指導要領作成の授業動画を再確認しておくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
12回 授業内容	学習指導要領：作成編（続き）
事前学修	学習指導要領作成の授業動画を再確認しておくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
13回 授業内容	評価とテスト
事前学修	第 15 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
14回 授業内容	英語教師論
事前学修	第 2 章をよく読んでおくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること
15回 授業内容	最終リポート作成およびまとめ
事前学修	最終リポートのための準備をしておくこと
事後学修	課題に取り組み、期限までに提出すること

◆教科書 丸沼『基礎から学ぶ英語科教育法』 岡田圭子・ブレンダハヤシ・嶋林昭治・江原美明 松拍社 2015 年

◆参考書 丸沼『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』 文部科学省

※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能

丸沼『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編・英語編』 文部科学省

※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省の HP からダウンロードすることが可能

◆成績評価基準 課題（100%）

※すべての課題の提出を前提に評価します。

◆授業相談（連絡先）：Google Classroom 内の機能を使って質問を受け付けます。

注意

◆授業概要 万葉集に収められている九州に関わる歌について、風土との関わりから読み解く。例えば大宰府における大伴旅人や山上憶良たちの筑紫歌壇の歌、天平八年の遣新羅使たちの歌がある。筑紫の地は、彼らにとって「天ざかる鄙」において接する異郷の自然風土であった。そして望郷・旅愁の場であり、風雅に遊び、生活に徹し、創作意欲を刺激される場でもあった。

◆学修到達目標 文学と風土・環境との関係について『万葉集』の歌を例として学修することで、文学作品を読み解く基礎的な知識や方法を身につけ、文学作品を理解した結果や調査結果を発表できるようになることを目標とする。

◆授業方法 オンライン授業のため予定していた校外学修と口頭発表発表を行わない。万葉集における大伴旅人を中心とする筑紫歌壇の歌、天平8年の遣新羅使の歌について講義する。また、それに関する「研究論文を読む」という演習を行う。受講生には、意見・感想などを求めることになる。

◆授業計画

授業内容		
1回	事前学修	はじめに、授業の進め方、演習の基本、『万葉集』概説 『万葉集』の成立や構成・内容について入門書などで学んでおくこと。
	事後学修	事前学修と授業を振り返り、理解を深める。
2回	授業内容	筑紫歌群について概説
	事前学修	古代九州、筑紫国の範囲や歴史について大まかに調べておくこと。
	事後学修	事前学修と授業を振り返り、理解を深める。
3回	授業内容	万葉時代の大宰府、遣新羅使
	事前学修	歴史的なことなどについて調べておくこと。
	事後学修	大宰府、遣新羅使の役割について理解する。
4回	授業内容	豊前国と豊後国の万葉歌を読む
	事前学修	筑紫の三前（豊前・筑前・肥前）、三後（豊後・筑後・肥後）の国名の由来などを調べておくこと。
	事後学修	風土や渡来文化と万葉歌の関わりを理解する。
5回	授業内容	筑前国の万葉歌（1）を読む
	事前学修	遠の朝廷、梅花の宴について調べておくこと。
	事後学修	旅人、憶良を中心に風土と万葉歌の関わりを理解する。
6回	授業内容	筑前国の万葉歌（2）を読む。
	事前学修	筑前守山上憶良について調べておくこと。
	事後学修	風土と万葉歌の関わりについて理解する。
7回	授業内容	筑前国の万葉歌を読む（3）
	事前学修	筑紫の館、觀世音寺について調べておくこと。
	事後学修	風土と万葉歌との関わりについて理解する。
8回	授業内容	その他の筑紫の国々万葉歌を読む（1）、肥前国の歌
	事前学修	松浦川の歌、佐用姫の歌について調べておくこと。
	事後学修	風土と万葉歌との関わりについて理解する。
9回	授業内容	その他の筑紫の国々万葉歌を読む（2）、壱岐・対馬の歌
	事前学修	壱岐・対馬の遣新羅使歌について調べておくこと。
	事後学修	風土と万葉歌との関わりについて理解する。
10回	授業内容	その他の国々の万葉歌を読む（3）、肥後・日向の歌
	事前学修	大伴熊凝を悼む歌などを詠んでおくこと。
	事後学修	風土と万葉歌との関りについて理解する
11回	授業内容	研究論文の読み方
	事前学修	自分のいままでの読み方を整理しておくこと。
	事後学修	自分の読み方と比較して理解を深める。
12回	授業内容	「研究論文を読む」（1）
	事前学修	読み方を再確認すること。
	事後学修	要約、結論、材料と方法、考察などの理解を深める。
13回	授業内容	「研究論文を読む」（2）
	事前学修	読み方を再確認すること。
	事後学修	要約、結論、材料と方法、考察などの理解を深める
14回	授業内容	「研究論文を読む」（4）
	事前学修	読み方を再確認すること。
	事後学修	要約、結論、材料と方法などの理解を深める。
15回	授業内容	まとめ、リポートの準備
	事前学修	全体を振り返り、リポートの準備をする。
	事後学修	リポート課題を確認し、作成の準備にとりかかる。

◆教科書 『訳文万葉集』森淳司、笠間書院

◆参考書(参考文献等) 『古代を考える 大宰府』田村圓澄 吉川弘文館 1987年
『歴史と万葉の旅 太宰府発見』森弘子 海鳥社 2003年
『大宰府と万葉の歌』森弘子 海鳥社 2020年

◆成績評価基準 リポート90%、「研究論文を読む」の参画度10%

講座内容（シラバス）

※令和元年度より授業計画が全15回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スケーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔英語学概説〕

真野 一雄

- ◆授業概要 英語学の根幹をなす音韻論・形態論・統語論について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。
- ◆学修到達目標 英文学専攻の学生として必要な英語学の知識を修得し、英語学とは何か、音韻論・形態論・統語論とは何か、詳細に説明できるようになります。
- ◆授業方法 テキスト本文の解説、補足説明を行います。「設問」の解答は事前に準備しておいてください。また、必要に応じて担当講師が用意する練習問題も行います。
- ◆授業計画〔各90分〕

授業内容	
1回	第1章 音韻論 1 母音と母音体系 2 子音と子音体系 事前学修：テキスト p. 1 - p. 10 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	第1章 音韻論 3 形態音素交替 4 音節とモーラ 事前学修：テキスト p. 10 - p. 17 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	第1章 音韻論 5 アクセント 6 文アクセントとイントネーション 事前学修：テキスト p. 17 - p. 28 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	第2章 形態論 1 形態論とは 2 派生形態論の主な仕組み 事前学修：テキスト p. 32 - p. 41 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	第2章 形態論 3 派生形態論のその他の仕組み 4 派生と複合に課される一般的な条件 事前学修：テキスト p. 41 - p. 56 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	第2章 形態論 5 複合名詞の意味について 事前学修：テキスト p. 56 - p. 59 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	第3章 統語論 生成文法 1 句構造 事前学修：テキスト p. 62 - p. 72 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	第3章 統語論 生成文法 2 名詞句 事前学修：テキスト p. 72 - p. 78 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	第3章 統語論 生成文法 3 移動 事前学修：テキスト p. 78 - p. 85 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	第3章 統語論 生成文法 4 生成文法の企て 事前学修：テキスト p. 85 - p. 87 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	第4章 統語論 機能的構文論 1 はじめに 事前学修：テキスト p. 90 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	第4章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(1) 事前学修：テキスト p. 90 - p. 97 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	第4章 統語論 機能的構文論 2 文の情報構造(2) 事前学修：テキスト p. 97 - p. 103 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	第4章 統語論 機能的構文論 3 視点 事前学修：テキスト p. 103 - p. 115 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修：学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	試験とその解説 事前学修：1章～4章の総復習をしておく。 事後学修：1章～4章のまとめをし、理解を完璧にする。

- ◆教科書 **通才**『英語学概説 N30700』通信教育部教材（教材コード 000567）
〈この本は『日英対照 英語学の基礎』（くろしお出版）と同じです〉

- ◆参考書 **丸善**『明解言語学辞典』三省堂
丸善『最新英語学・言語学辞用語典』開拓社
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。

- ◆成績評価基準 全出席を前提に、試験 100%で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

【日本史概説 / 日本史概論】

鍋本 由徳

◆授業概要 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史的変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。社会経済や文化を中心に据えながら、政治・外交の影響に關わる理解を深めます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、各時代の史料を使った歴史復原や意義付けの方法について指導します。

◆学修到達目標 1. 日本史を知るため、全時代を通じた時代の流れを説明できるようにする。
2. 各時代の社会運動や文化形成の背景や意義、着眼点について説明できるようにする。
3. 各時代の歴史事実を裏づける歴史資料の読解や歴史学的の考察の成果を理解できるようにする。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆授業方法 適宜高等学校の日本史Bの教科書内容、スクリーン投影資料、音声・映像資料、文献資料の原本、デジタル・アーカイブなどを併用しながら、教科書の内容を掘り下げ、プリント内容を説明します。各回終了前に理解度チェック（小テスト）と理解度自己評価をおこない、次回授業の冒頭でテストと自己評価を踏まえて講評します。※歴史的思考・理解を深めるため、受講生数により、2日目午後に実地巡見をおこなう場合があります（費用は受講生負担）。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合もあります。

◆履修条件

◆授業計画【各90分】

1回	授業内容：日本史概説の参考文献と辞典 「日本史概説」の目的、参考文献と辞典について学びます。 事前学修：シラバスを熟読し、講義全体の流れをおさえておく。 事後学修：各回の意図を振り返り、今後の自身の学修目標を立てる。
2回	授業内容：倭五王に至るまで 先史時代の大きな流れと、旧石器時代から弥生時代までの特徴について学びます。 事前学修：教科書の倭王権の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
3回	授業内容：倭五王と、倭における律令体制の前提 冂封体制からの離脱し、独自の国家を構築する前提について学びます。 事前学修：教科書の冊封・飛鳥時代に關わる範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
4回	授業内容：国家史の編纂 天皇家を中心とした歴史編纂について学びます。 事前学修：教科書の奈良時代の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
5回	授業内容：莊園公領制と武士団の発生 莊園公領制の基礎を学び、当時の複雑な土地制度のあり方について学びます。 事前学修：教科書の平安時代を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
6回	授業内容：鎌倉幕府と北条得宗専制 源氏三代から北条専制への過程と、得宗政治の特徴について学びます。 事前学修：教科書の鎌倉時代の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
7回	授業内容：室町幕府と日明交易 勘合貿易の特徴を通じて、足利将軍家のあり方や古代冊封との違いを学びます。 事前学修：教科書の室町時代の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
8回	授業内容：古代・中世文化 各時代における文化の特質を、政治・社会との関連から学びます。 事前学修：教科書の古代・中世文化の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
9回	授業内容：戦国社会と近世社会 兵農分離政策から移行期の特徴を学びます。 事前学修：教科書の近世朝廷に關わる範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
10回	授業内容：江戸時代の特質 関ヶ原合戦前後の政治状況から天保期までの時期特性について学びます。 事前学修：教科書の幕藩体制の成立・動搖の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
11回	授業内容：近代の政治・社会運動 自由民権運動から大正デモクラシーまでの社会背景について学びます。 事前学修：教科書の自由民権運動・大正デモクラシーの範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
12回	授業内容：近代における女性のあり方 近代に於ける女性のあり方を男女同権論・イエクレブなどから学びます。 事前学修：教科書の大日本帝国憲法制定前後、大正・昭和の大衆文化に關わる範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
13回	授業内容：大日本帝国が持つ二面性と対英米姿勢 大日本帝国の矛盾について草縮会議や対英米姿勢から学びます。 事前学修：教科書の太平洋戦争の範囲を読み、事前シートに取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
14回	授業内容：東西冷戦構造と高度経済成長 戦後の日本について東西冷戦の関係のなかで学びます。 事前学修：教科書の高度経済成長の範囲を読み、事前シートの課題に取り組む。 事後学修：ノートと教科書を見返し、自己理解が低い箇所を重点的に復習する。
15回	授業内容：講義総括 日本史概説の振り返りと今後の課題 学びを改めて振り返ります。 事前学修：第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。 事後学修：当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆教科書 **【教材】**「概論 日本歴史 Q30200」通信教育教材（教材コード 000382）
【当日資料配布】参考プリントを1～2枚配付します

◆参考書 配布プリントで適宜紹介します

◆成績評価基準 最終試験（60%）、授業内小テスト（30%）、授業参画度（10%）の総合評価 ※全日出席することを前提とした評価です。

◆授業相談（連絡先）：開講時に指示します。

注意

講座内容 (シラバス)

※令和元年度より授業計画が全 15 回で表記されておりますが、授業時間や授業日程は各スクーリングの開講講座表の記載通りとなります。

〔国際経済論〕

前野 高章

- ◆授業概要 グローバル化の進展に伴い、国際貿易の拡大や海外直接投資が経済に与える影響は非常に大きいものとなっている。本講義では国際経済の発展過程をたどり、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての比較優位論、貿易政策および海外直接投資の基礎理論を学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。
- ◆学修到達目標 本講義では、現実の国際経済の動きを念頭に置きながら、国際分業体制の変化・進展に沿って国際貿易理論がどのように展開されてきているのかを理論的に把握することを通じて、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解・考察し説明することができるようになる。
- ◆授業方法 授業は講義形式を基本とする。教科書および配布資料にもとづき、板書とパワーポイントで講義を行う。必要に応じて講義関連資料および経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。また、講義内で課題を設ける場合、その解説は講義内で行うようになる。学修方法については、初回授業時に説明する。
- ◆履修条件 経済学概論、経済原論、経済学などでミクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。
- ◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	国際経済論とは何かについて 講義の進め方について確認し、国際経済論とはどのような学問であるのかなどについて学修する。
	事前学修	経済学における国際経済論の位置づけについて確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。
2回	授業内容	現在の国際貿易の特徴 貿易データを用いて、近年の国際貿易の特徴を学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから国際貿易の拡大の要因を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに貿易の拡大要因について整理する。
3回	授業内容	グローバル経済の成り立ち 世界経済の生成と発展について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから世界経済の生成時期を把握する。
	事後学修	講義内容をもとに世界経済の生成時期の経済について整理する。
4回	授業内容	貿易理論① 貿易の利益について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから伝統的貿易理論について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、貿易の利益について整理する。
5回	授業内容	貿易理論② 絶対優位論、比較優位論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから比較優位論とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、絶対優位論と比較優位論の特徴について整理する。
6回	授業内容	新古典派の貿易理論 新古典派の貿易理論である H-O 理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから生産要素比率と比較優位について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、新古典派の貿易理論について整理する。
7回	授業内容	近代的貿易理論 リンダー理論および産業内貿易理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから新貿易理論の特徴を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、産業内貿易理論について整理する。
8回	授業内容	海外直接投資と多国籍企業 グローバル化する企業行動について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから FDI 理論について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに企業の海外進出とその様様について整理する。
9回	授業内容	貿易政策 関税政策などの保護貿易政策がもたらす影響を学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから関税政策とは何かについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、貿易政策が経済に与える影響を整理する。
10回	授業内容	国際貿易と企業 現代の国際貿易理論について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから企業の異質性の概念について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、新々貿易理論について整理する。
11回	授業内容	現代国際貿易理論の展開 現代の国際貿易理論の発展を事例を踏まえながら学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などからフラグメンテーションやアグロメレーションについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、伝統的貿易理論から現代の貿易理論についてそれぞれの特徴を整理する。
12回	授業内容	東アジアの生産ネットワーク GVCs (Global Value Chains) について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから現代の国際分業の特徴について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに東アジアの生産ネットワークの特徴について整理する。
13回	授業内容	自由貿易と保護貿易 現代の通商政策の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから通商政策における課題について確認をする。
	事後学修	講義内容をもとに 20 世紀と 21 世紀の通商政策の特徴の違いを整理する。
14回	授業内容	理解度の確認 グローバル経済の生成と国際貿易理論の展開について再確認する。
	事前学修	これまで配布した資料や教科書および参考書を熟読し、要点をノートにまとめる。
	事後学修	講義内容の要点項目を再確認し、講義内容をノートに整理する。
15回	授業内容	試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。
	事前学修	全配布資料および教科書から講義の要点をまとめる。
	事後学修	講義および試験をふまえ、国際分業の変遷について再確認する。

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 各回で必要な講義資料を配布する。

丸沼『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』 若杉隆平編著 文眞堂 2020 年

◆参考書 **〔通材〕**『国際経済論〔改訂版〕R31100』日本大学通信教育部教材

◆成績評価基準 試験 (80%)、および、平常点 (20%) から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 22193999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

講座内容（シラバス）

〔証券市場論〕

佐藤 猛

- ◆授業概要 証券市場の構造（効率的、情報の非対称性、投資心理）を視点に、効率性の制度的サポートの金融法、情報の非対称性としてゲームの理論、投資心理として行動ファイナンス、長期的相場推移とのクラッシュについて講義する。また取引所の売買取引を実務経験から講義する。
- ◆学修到達目標 日本経済新聞及び週刊経済誌（週刊エコノミスト、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済）内容を証券市場の構造から理解できるようにする。また市場の相場をFF（ファーマ＆フレンチ）モデルから理解できるようにする。
- ◆授業方法 パワーポイントで授業を行う。必要にて練習問題を行う。また大きなテーマ（または各日の）終了の時にはコメントを提出してもらいます。事前学修では教科書または参考書を利用してください。
- ◆履修条件 なし
- ◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：市場の構造（効率的市場（情報）） 事前学修：教科書：99-104頁を事前に読んでおくこと 事後学修：市場の構造について整理しよう
2回	授業内容：市場の構造（効率的市場（投資家の合理性）） 事前学修：教科書：108-109頁を事前に読んでおくこと 事後学修：投資家の合理性について整理しよう
3回	授業内容：市場の構造（売買取引：信用取引+先物・オプション） 事前学修：教科書：59-62,129-138を事前に読んでおくこと 事後学修：実際の売買取引の状況を新聞から確認しよう
4回	授業内容：金商法—ディスクロージャー 粉飾決算 事前学修：教科書：19-28を事前に読んでおくこと 事後学修：実際の企業粉飾決算の経緯を調べよう
5回	授業内容：金商法—TOB, M&A, インサイダー取引 事前学修：TOB, M&A, インサイダーの用語を調べておこう 事後学修：TOB, M&A, インサイダー取引を金商法の条文から確認しよう
6回	授業内容：金商法—ライブドア問題+村上ファンド 事前学修：ライブドア問題+村上ファンドについて調べておこう 事後学修：村上ファンドについて投資スタイルから分析してみよう
7回	授業内容：国際証券市場巡り 事前学修：教科書：159-177頁を事前に読んでおくこと 事後学修：主要国証券取引所をネットで確認しよう
8回	授業内容：情報の非対称性（ゲームの理論—ナッシュの解） 事前学修：ゲームの理論の枠組みを調べておこう 事後学修：いろいろなナッシュの解を整理しよう
9回	授業内容：情報の非対称性（ゲームの理論—ペイズの定理） 事前学修：ペイズの定理を調べておこう 事後学修：いろいろなペイズの定理を整理しよう
10回	授業内容：情報の非対称性（オークション+チャート） 事前学修：オークションの体系を調べておこう 事後学修：ダブル・オークションを理解しよう
11回	授業内容：情報の不完全性：行動ファイナンス（ケインズ、フロイト、ユング） 事前学修：ケインズとフロイト、ユングを調べておこう 事後学修：ケインズの投資理論を整理しよう
12回	授業内容：情報の不完全性：行動ファイナンス（カネーマン、セイラー） 事前学修：行動ファイナンスについて調べておこう 事後学修：投資スタイルについて整理しよう
13回	授業内容：大恐慌史（1929年大暴落） 事前学修：大恐慌史を調べておこう 事後学修：1929年大暴落の原因を整理しよう
14回	授業内容：大恐慌史（リーマンショック） 事前学修：リーマンショックについて調べておこう 事後学修：CDOとCDSを整理しよう
15回	授業内容：総復習 事前学修：今までの配布資料から不明の点をピックアップしておこう 事後学修：市場構造と恐慌史から日本の証券市場の特徴を整理しよう

◆教科書 **題材**『証券市場論 0829』（教材コード 000185）

◆参考書 **因沼**『証券理論の新体系』税務経理協会（授業中は使用しないが事前学修には参考になる。キンドル版利用可能）その他の著書でも可。

◆成績評価基準 授業内小テスト（コメント）3回（第1回30点、第2回40点、第3回30点）

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

講座内容（シラバス）

〔体育実技Ⅰ・Ⅱ〕 オープン受講：不可

佐藤 紀子

◆授業概要 現代の高齢社会において、健康を維持・増進するためには、適度な運動習慣を生活習慣に取り込むことが求められます。そこで、まず自己の体力の現状を把握し、身体運動の継続的な必要性について認識を高めます。そして、年齢や体力レベルに応じた運動参加への具体的方法を理解し、スポーツ実践に取り組むとともに、それらを通して、他者とコミュニケーションを活発に図ることで社会的スキルも養います。そのためにも、日頃より1日20分以上の連続歩行や軽い柔軟運動の実施を心がけ、コンディションの維持が大切となります。特に、トレーニングコーチ（日本オリンピック委員会強化スタッフ・医科学）として体力トレーニングやメンタルトレーニングの指導実績を生かし、実践的で効果的な方法論を実技に反映させています。

◆学修到達目標 多くの運動やスポーツの実践を通して、その楽しさや具体的方法を他者とともに学び、自らが身体活動を継続して実施することの重要性を認識できるようになる。また、スポーツを通して、他者とのコミュニケーションを深め、社会的スキルを向上させることができるようにになる。

◆授業方法 この科目は、オンデマンドおよび課題研究方式によるオンライン授業となります。各授業の課題は、運動課題と研究課題で構成しています。運動課題は、体力テストを含んでおり、室内で可能な内容としていますが、運動前後にはウォーミングアップとクーリングダウンを入念に行なうことが必須となります。また研究課題は、日常生活において健康の維持増進に役立つ内容等を念頭に、それぞれ資料に基づいて学習し、クイズへの解答やリアクションペーパーの提出を求めます。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

回	授業内容	事前学修	事後学修
1回	ガイダンス（授業の方法、スケジュール、安全管理、そのた注意事項等）、体力テスト、体力テスト結果の自己評価	前日までに各自で体力の維持・向上を図り、コンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
2回	ドローン、スポーツの歴史	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
3回	閉眼片足立ち、熱中症予防について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
4回	ワイドスクワット・クランチ・ブッシュアップ、メタボリックシンドロームと発生原因	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
5回	ダンベル体操、スポーツを営む権利について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
6回	ワイドスクワット・クランチ・ブッシュアップ・足踏み30秒、スポーツ事故の訴訟について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
7回	プランク＆リバースプランク、自覚的運動強度について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
8回	有酸素運動、有酸素運動の運動強度（カルボーネン法）	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
9回	タオルストレッチ、救命処置（AED等）について	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
10回	スクワットエクササイズ、朝食の重要性	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
11回	座位運動、ストレスについて	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
12回	有酸素運動、運動好きと運動嫌いについて	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
13回	10回立ち上がりテスト、オーバーヘッドバランススクワット、ストレスの生理的メカニズムと健康被害	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
14回	立ち上がり能力テスト、呼吸調整法によるリラクセーション	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。
15回	ラジオ体操第三、第1～15回授業のまとめ	前日よりコンディションの維持に留意しておくこと。	運動実施後には、ストレッチや柔軟運動などの整理運動および体調管理を徹底すること。

◆教科書

◆参考書 大学生のための最新健康・スポーツ科学 日本大学文理学部体育学研究室 編、八千代出版

◆成績評価基準 授業への取り組み（貢献度）および自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回の授業時、受講学生に直接伝えます。

注意

・令和2年度夜間スクーリング(秋期) 開講講座一覧

曜日	講座コード	講座名	担当教員	開講単位数	充当科目コード	科目名	併用	開講方法	受講制限	配当学年	備考
月	B2A1	行政法 I	長谷川 福造	2	K30900	行政法 I		オンデマンド	60	2年	
	B2A2	地方自治論	山田 光矢	2	L30800	地方自治論		オンデマンド		2年	
	B2A3	日本史入門	八馬 朱代	2	Q20100	日本史入門		オンデマンド	60	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
	B2A4	国際金融論	谷川 孝美	2	S31200	国際金融論		オンデマンド及びZOOM	100	2年	
	B2A5	英語科教育法 I A	佐藤 恵一	2	T20900	英語科教育法 I	×	オンデマンド	60	2年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
火	B2B1	英語 A	小田井 勝彦	1	C10100	英語 I		オンデマンド	60	1年	・I ~ IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英語 II				2年	
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	B2B2	商法 I	中村 良	2	K30500	商法 I		オンデマンド及びZOOM	60	2年	
水	B2B3	刑法 II	上野 幸彦	2	K30800	刑法 II		オンデマンド及びZOOM	60	2年	
	B2B4	英語学演習 A	真野 一雄	1	N401S0	英語学演習 I	×	オンデマンド	60	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					N402S0	英語学演習 II					
					N403S0	英語学演習 III					
	B2B5	発達と学習	野村 康治	2	T10500	発達と学習	×	オンデマンド	60	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。
木	B2C1	国文学講義IV(近世)	高橋 啓之	2	M30800	国文学講義IV(近世)				2年	
	B2C2	西洋古典	上滝 圭介	2	N308S0	西洋古典	×	オンデマンド及びZOOM		2年	
	B2C3	英米文学演習 A	水野 隆之	1	N404S0	英米文学演習 I	×	ZOOM	60	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・I ~ IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					N405S0	英米文学演習 II					
					N406S0	英米文学演習 III					
	B2C4	考古学演習	小泉 龍人	1	Q407S0	考古学演習 I	×	オンデマンド及びZOOM	60	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
	B2C5	情報概論	荒閑 仁志	2	R32300	情報概論				2年	
金	B2C6	マーケティング	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング		オンデマンド及びZOOM	100	2年	・昼間スクーリング(前期)雨宮先生の同科目を受講している場合受講不可。
	B2C7	法学(日本国憲法2単位を含む)	遠藤 清臣	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)		オンデマンド		1年	
	B2D1	英語 B	岩城 久哲	1	C10100	英語 I	×	オンデマンド	60	1年	・I ~ IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英語 II				2年	
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	B2D2	民法 II	根本 晋一	2	K30100	民法 II		オンデマンド		2年	
	B2D3	国文法	鈴木 浩	2	M30300	国文法		ZOOM	60	2年	過去2年間の鈴木先生の同科目を受講している場合受講不可。
	B2D4	アメリカ文学史	北原 安治	2	N30200	アメリカ文学史		オンデマンド	60	2年	
金	B2D5	経済地理学/経済地理	清水 和明	2	R32600	経済地理学	×	オンデマンド	60	2年	法/文理/経済学部が申込可。 商学部のみ申込可。
					S32200	経済地理					
	B2E1	文章表現法	山本 まり子	2	M31900	文章表現法		オンデマンド	60	2年	
	B2E2	イギリス文学史 I	常名 朗央	2	N20100	イギリス文学史 I		オンデマンド及びZOOM	60	※	・文学専攻(英文学)は1学年以上申込可。 ・それ以外の学科・専攻は2学年以上申込可。
	B2E3	宗教学概論	富田 真浩	2	P30400	宗教学概論		ZOOM	60	2年	
	B2E4	社会政策論/社会政策	長谷川 有里	2	R32100	社会政策論	×	オンデマンド	60	2年	文理/経済/商学部が申込可。 法学部のみ申込可。
					L31600	社会政策					
	B2E5	会計学	青木 隆	2	S32800	会計学		オンデマンド		2年	
	B2E6	教育制度論	窪 和広	2	T20200	教育制度論	×	オンデマンド	100	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。

注意事項

・開講方法は、変更が入る可能性があります。

講座内容（シラバス）

【行政法Ⅰ】 オープン受講：不可

長谷川 福造

◆授業概要 講座で取り扱う主な領域は、多様な行政活動に共通する性質や理論的基盤を構成する行政法総論である。行政法の学習を展開する際に必要な各種用語の意義や、関係法令の骨組みを解説する。必要に応じて、弁護士としての実務経験を踏まえた事例を活用して説明を行う。

◆学修到達目標 本講義は、受講生が行政法体系の概要、特にその制度と理論を把握して、筆記による論述によって適切に説明できることを目標としている。行政法Ⅰでは、主に「法律による行政の原理」や行政組織・行政作用を中心に、行政法理論を理解して叙述できるようになること。その過程で、行政と行政法に対する関心を深め、行政の仕組みを考察して文章化できるようになることが目標である。

◆授業方法 主として講義が中心となります。指定教科書を素材に、関連領域を含めて説明を行います。基本的に指定教科書『行政法（第3版）』を冒頭から順番に進めていく予定です。必要に応じて順序を工夫して解説します。プロジェクターの使用も予定しています。講義中に掲げるスライド資料については、必要に応じて紙媒体で配付します。

◆履修条件

◆授業計画【各 90 分】

	授業内容：(1)ガイダンス (2)行政と法、行政法の法源
1回	事前学修：教科書P.23までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
2回	授業内容：行政活動の担い手 事前学修：教科書P.46までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。夜間スクーリング1日目に実施したガイダンスと講義を踏まえ、当期の学修計画を各自で具体的に組み立て、その計画を実施していくこと。
3回	授業内容：行政過程、法律による行政の原理 事前学修：教科書P.58までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
4回	授業内容：行政手続 事前学修：教科書P.75までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
5回	授業内容：行政情報管理 事前学修：教科書P.95までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
6回	授業内容：行政調査 事前学修：教科書P.100までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。夜間スクーリング4日目に実施する予定の中間テストの準備を実施すること。
7回	授業内容：中間テスト 事前学修：教科書P.100までを終復習して、中間テストの準備をすること。中間テストは夜間スクーリング4日目の後半に実施する予定であるが、4日目の事前学修事項に照応して、本授業計画においては「第7回」に掲げる。 事後学修：中間テストは夜間スクーリング4日目の後半に実施する予定である。したがって、4日目の講義後の事後学修事項（本授業計画「第8回」）に準拠して事後学修を実施すること。
8回	授業内容：行政行為総論 事前学修：教科書P.109までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
9回	授業内容：(1)行政裁量 (2)中間テストの解説 事前学修：教科書P.123までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。中間テストの結果と解説に基づいて、当期の前半に扱った行政法に関する学修事項を復習すること。各自で自己の到達水準を照らし合わせて、夜間スクーリング初頭に組み立てた学修計画を必要に応じて修正し、当期後半に係る計画を具体的に構築して、その計画を実施していくこと。
10回	授業内容：行政行為の瑕疵、職権取消しと撤回、附款 事前学修：教科書P.140までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。中間テストの解説は、夜間スクーリング5日目の後半に実施する予定であることから、5日目の講義後の事後学修は、本授業計画「第9回」及び「第10回」に基づいて行うこと。
11回	授業内容：行政立法 事前学修：教科書P.150までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
12回	授業内容：行政規則 事前学修：教科書P.153までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
13回	授業内容：行政計画 事前学修：教科書P.163までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。
14回	授業内容：行政指導 事前学修：教科書P.172までを読み、関連する法律上の問題点を考察しておくこと。 事後学修：講義で説明した内容を、教科書と各自の手控え等に基づいて復習すること。夜間スクーリング8日目に実施する最終試験の準備をすること。また、夜間スクーリング7日目までに、当期で説明してきた行政法Ⅰの分野に関する総合的な解説を実施する。時宜に応じてこの総合的解説の復習もすること。特に、所定の法律上の問い合わせに対する、一定の時間内で論理的な文書や適切な文言を叙述して解答を作成するために必要な、読解力・思考力・知識・表現力・思考の俊敏性を向上させておくこと。
15回	授業内容：行政法Ⅰの総復習 事前学修：教科書と各自の手控え等に基づいて、教科書P.172までを終復習すること。 事後学修：当期の講義で説明した内容を復習すること。期末試験の準備を実施すること。

◆教科書 **選択**『行政法Ⅰ：K30900』通信教育教材（教材コード000565）

この教材は、市販の池村正道編『行政法 第3版（Next 教科書シリーズ）』（弘文堂、2017年）と同一です。

◆参考書

◆成績評価基準 毎回出席することを前提にします。講義の際に実施する中間テスト（40%）及び最終試験（60%）で総合的に判断します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔地方自治論〕

山田 光矢

◆授業概要 日本の地方自治制度が現在どのような方向に向かっていこうとしているのかを、戦後日本の地方自治制度改革の流れ、特に昭和の大合併と広域市町村圏、平成の大合併と定住自立圏構想や地域自治組織や連携中枢都市圏等の関係から説明していく。具体的な事例として長野県の地方制度改革やコロナ禍後の日本の地方自治体の特色ある対応等を中心に解説していく。

◆学修到達目標 戦後日本の地方自治制度改革の歴史を通じて、現状の地方自治制度改革の目的や方向性を理解し、受講生が興味を持つ地方（出身地・居住地・興味のある地域など）を例に、その地方の自治制度の特徴や現状あるいは問題点などを分析し、どのような制度にすればより理想的な地方公共団体になれるかについて自分の考え方を確立する。

◆授業方法 講義形式を中心に基礎的な事項の理解を高めるとともに、項目ごとに討論や質疑応答を行い、各自の考えを確立できるように進めていく。

◆履修条件 やる気さえあればその他の条件は特にありません。

◆授業計画〔各 90 分〕

回	授業内容	日本の地方自治制度の現状：日本国憲法第8章「地方自治」の条文を中心にして日本の地方自治制度の概略を解説する
	事前学修	教科書第3章を読んで、日本国憲法第8章の内容を分析していく
	事後学修	英米法系の地方自治制度と大陸法系の地方自治制度の違いから日本の地方自治制度を理解する
2回	授業内容	地方自治法の規定する地方公共団体の種類と特徴や権能等を解説する
	事前学修	教科書第4章を読んで、地方自治法が定める地方公共団体の種類や特色や権能等を分析していく
	事後学修	日本の地方自治制度の特徴と問題点を理解する
3回	授業内容	戦後日本の地方自治制度改革の方向性や特色を昭和の大合併期と平成の大合併期を比較して解説する
	事前学修	教科書第9章を読んで、戦後の2度にわたる大合併と7次にわたる全国総合開発計画の内容と特徴を分析していく
	事後学修	日本の地域格差是正に向けた広域行政システムの拡充の目的と方向性を理解する
4回	授業内容	地方創生と身近な行政の関係を、平成の大合併とその後の身近な地方制度改革の目的や方向性について解説する
	事前学修	教科書第9章を読んで、平成の大合併と2次にわたる国土形成計画の内容と特徴を分析していく
	事後学修	地域自治組織・地域運営組織・小さな拠点・総合型地域スポーツクラブ等の関係を理解する
5回	授業内容	長野県の市町村合併と広域行政を解説する
	事前学修	論文の211-220頁（最初にと1長野県の市町村合併と広域行政の展開）を読んで長野県の市町村合併と広域行政の特色を分析していく
	事後学修	長野県の地方自治制度改革の特色を、廃藩置県から現在までの歴史を合併との関係から理解する
6回	授業内容	長野県の身近な行政組織等の必要性について解説する
	事前学修	論文の220-225頁（2長野県の身近な行政組織等の必要性）を読んで要点を分析していく
	事後学修	長野県が政府の「まち・ひと・しごと創生法」制定後の動きと、それに合わせた長野県の対応について理解する
7回	授業内容	長野県内の小さな拠点（地域自治組織）の実態について解説する
	事前学修	論文225-233頁（3長野県の小さな拠点（地域自治組織）の実態）を読み、表3を中心に要点を整理していく
	事後学修	長野県の小さな拠点と明治・昭和・平成の大合併との関係について理解する
8回	授業内容	長野県の総合型地域スポーツクラブ等の実態について解説する
	事前学修	論文233-237頁（長野県の総合型地域スポーツクラブ等の実態）を読み、表3と合わせて要点を整理していく
	事後学修	長野県における総合型地域スポーツクラブ等を通じた地域おこしの実態等を理解する
9回	授業内容	長野県の地域づくりの現状と将来について解説する
	事前学修	論文237-245頁（長野県の地域づくりの現状と将来）を読み、要点を整理していく
	事後学修	長野県の地域づくりや地方創生と身近な行政の関係を理解する
10回	授業内容	長野県の地域づくりを軸に、他の都道府県の地域づくりの特徴や問題点を解説する
	事前学修	論文を再読し、長野県の地方自治制度改革の流れを再確認する
	事後学修	日本の各地の地域づくりの特色やあるべき方向性に関する自分の考えを整理する
11回	授業内容	コロナ対策を通して見る国と地方の関係：2020年5月11日・日本経済新聞朝刊「地域総合」
	事前学修	「国・地方のかたち」進路は、を読んで、国と地方公共団体の関係を分析する
	事後学修	分析した内容について自分の視点から分析整理する
12回	授業内容	都道府県の補正予算の特色と問題点：2020年7月27日・日本経済新聞朝刊「地域総合」
	事前学修	「医療・地域経済・下支え」を読んで、コロナ禍における都道府県の補正予算から見えてくる、地域行政の特色と財政上の問題点等を分析する
	事後学修	分析した内容について自分の視点から分析整理する
13回	授業内容	予算を通して見た市区行政の特色と問題点：2020年6月1日・日本経済新聞朝刊「地域総合」
	事前学修	「コロナ対策で一変も」を読んで、市や特別区の予算から見えてくる地域の行財政の特色や問題点等を分析する
	事後学修	分析した内容について自分の視点から分析整理する
14回	授業内容	官民一体となった「流域治水」の実態や問題点：2020年8月24日・日本経済新聞朝刊「地域総合」
	事前学修	「流域の治水、官民一体で」を読んで、官民協力の実態や地域ごとの特徴について分析する
	事後学修	分析した内容について自分の視点から分析整理する
15回	授業内容	これまでの講義の内容を概括し、一番興味のある地域や行財政政策を選択し、その特徴や今後のあり方などを整理する
	事前学修	これまでの講義の中から興味のある事項を選択し、自分が一番興味を持った地域の行財政に関する資料等を分析する
	事後学修	選択した地域や行財政政策を整理し、その望ましい方向性等について特徴や問題点等を分析し試験のための要点の整理をする

◆教科書 『丸沼』『地方自治論』 福島康仁編・山田光矢他著 弘文堂 2,000円（税別）

〔当日資料配布〕 山田光矢著「小さな拠点や総合型地域スポーツクラブ等を通して見た長野県の地域づくりの進展とその将来」を日本大学法學部HP学術刊行物から『法学紀要』にアクセスしダウンロードして下さい（以下「論文」と表記）。

◆参考書

◆成績評価基準 試験を60%、平常点を20%、小テストやレポート等を20%程度で評価する。

◆授業相談（連絡先）：講義の日の空いている時間を使います。時間がない場合にはメール等で対応します。

注意

講座内容（シラバス）

〔日本史入門〕

八馬 朱代

◆授業概要 日本史研究の基本は、史料に基づいて歴史を考察することにあります。本講義では、各時代の様々な史料の利用方法や特色について説明した上で、古代から近現代の制度、政治、経済、事件などについて史料を用いて解説していきます。史料を通して、歴史の様々な事柄を考察することにより、日本史を研究するために必要な知識や研究姿勢を学んでいきます。

◆学修到達目標 日本史を学ぶ意義や古代から現代までの史実やその解釈に至る方法を学び、史・資料を使用して日本史を学ぶための研究方法の知識を修得し、日本史研究の基礎知識や姿勢を修得することをめざします。史学専攻の学生が卒業論文作成のために必要な日本史研究の基礎知識を修得することができます。教職をめざす学生にも参考になると思います。

◆授業方法 配布したプリントを使用する講義形式です。日本史研究の基礎となる史料を説明し、それぞれの時代の政治、制度や事件などを取り上げ、史料を使用して解説していきます。授業内で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で実際に手にとてみてるように心がけてください。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・歴史を学ぶこと・史料について 最初に授業の進め方を説明する。次に歴史を学ぶ意味、歴史を学ぶための基本的な知識を説明し、史料について解説する。
	事前学修	日本史の通史的な理解が必要なため、『日本の歴史』（講談社、集英社、小学館）などから関心のあるところを読み、日本史の理解を深めておくこと。
	事後学修	授業内容をノートで整理し、配付資料を読み、授業内容を確認しておくこと。
2回	授業内容	奈良時代の史料・制度について 奈良時代の史料を説明し、律令制度や政治について史料を使用して学ぶ。
	事前学修	『日本の歴史』などの概説書の奈良時代の部分を読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。
3回	授業内容	奈良時代の事件・社会について 奈良時代の事件・社会について、史料を通して学ぶ。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。
4回	授業内容	平安時代前期の史料と制度、政治について 平安時代の史料を解説し、制度の変化、政治について史料を使用して学ぶ
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の平安時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、ノートを整理しておくこと。
5回	授業内容	平安時代後期の史料と政治、社会について 平安時代の史料を説明し、政治状況や社会の変化について史料を通して学ぶ。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んでおくこと。
6回	授業内容	鎌倉時代の史料と制度、政治について この時代の政治、制度などについて、具体的な史料を使って学ぶ。
	事前学修	配布資料と『日本の歴史』などの概説書の鎌倉時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認して、ノートを整理しておくこと。
7回	授業内容	鎌倉時代の事件、社会について この時代の事件や社会の動きについて、史料を使用して学ぶ。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認すること。
8回	授業内容	南北朝期の史料と政治、制度について 南北朝期の史料を解説して、当該期の政治、制度について史料を通して学ぶ。
	事前学修	配付資料と『日本の歴史』などの概説書の室町時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認して、ノートを整理しておくこと。
9回	授業内容	室町時代の史料と政治、制度、社会について 室町時代の史料を説明し、当該期の政治、制度、社会について学ぶ。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認すること。
10回	授業内容	戦国・江戸時代前期の史料と政治、制度について 戦国・江戸時代前期の史料を解説し、この時代の政治や制度について史料を使って学ぶ。
	事前学修	配付資料と『日本の歴史』などの概説書の戦国・江戸時代の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認して、ノートを整理しておくこと。
11回	授業内容	江戸時代後期の史料と政治、社会について 江戸時代後期の史料を解説し、この時代の政治、社会、外交について史料を使用して解説する。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認すること。
12回	授業内容	近現代の史料について 幕末期や明治、大正、昭和の史料を解説し、当該期の政治について史料を通して学ぶ。
	事前学修	配付資料と『日本の歴史』などの概説書の明治～昭和（戦後まで）の部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認し、授業内で扱った史料を読んで確認すること。
13回	授業内容	近現代の制度、社会、事件について 明治、大正、昭和の制度や社会、事件について、史料を使用して学ぶ。
	事前学修	配布資料の該当部分を事前に読んでおくこと。
	事後学修	資料と授業内容を確認して、ノートを整理しておくこと。
14回	授業内容	理解度の確認
	事前学修	配布した資料を熟読し、重要な部分についてノートをまとめておくこと。
	事後学修	要点を再確認し、授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	試験及び解説
	事前学修	前回の授業で指摘した部分をノートにまとめておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身の卒論のテーマについて考えてみること。

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

『詳説日本史史料集』山川出版社（購入しなくてもよいです）

◆成績評価基準 テスト 70% 平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：授業終了後に教壇で対応します。

注意

講座内容（シラバス）

〔国際金融論〕

谷川 孝美

◆授業概要 この講義では、国際的な金融取引が行われる国際金融市场、外国為替取引が行われる外国為替市場、外国為替制度や国際収支などの国際金融に関する基礎的な事柄や、国際金本位制、IMF体制などの国際通貨制度の歴史的な変遷、通貨危機問題などを学び、これらの理解をつうじて、現代の国際金融問題を考える基礎を養うことを目的とします。この講義では金融論の基礎を理解していることが望ましい。

◆学修到達目標 本講義では、国際金融および国際金融制度に対する理解を目指し、以下のことを具体的な目標とする。

1. 国際金融市场、外国為替市場、国際収支などの国際金融に関する基礎を理解し、説明ができるようになる。
2. 国際金本位制、IMF体制などの国際通貨制度の歴史的変遷を理解し、説明ができるようになる。
3. 通貨危機、世界的な金融経済危機などの国際金融問題を理解し、説明ができるようになる。

◆授業方法 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基礎的な概念や国際金融制度について平易な解説をする予定です。なお、授業計画を授業日数にあわせて分割しますが、講義の進捗状況によっては前後することもあります。また、理解度を確認するための小テストを実施する予定です。なお、為替レート決定などの国際金融理論の詳細については取り扱いません。

◆履修条件 令和元年度夜間スクーリング（秋期）『国際金融論』（谷川孝美）との積み重ねを不可とはしませんが、同様の内容になります。

◆授業計画（各 90 分）

1回	授業内容：授業の進め方・オリエンテーション・国際金融論の対象と課題 事前学修：テキストの「はじめ」および配付資料を読むこと。新聞などで国際金融における時事問題を確認すること。 事後学修：授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2回	授業内容：外国為替の仕組み 事前学修：テキスト第1章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
3回	授業内容：外国為替市場と為替レート 事前学修：テキスト第2章をよく読んでおくこと。また、新聞などで為替レートの変化を調べておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4回	授業内容：国際収支統計と対外取引 事前学修：テキスト第4章をよく読んでおくこと。また、事前に配布する資料を良く確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
5回	授業内容：国際通貨制度の変遷1（金本位制） 事前学修：テキスト第7章第1, 2節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6回	授業内容：国際通貨制度の変遷2（国際金本位制） 事前学修：テキスト第7章第3, 4節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7回	授業内容：国際通貨制度の変遷3（IMF体制） 事前学修：テキスト第8章第1, 2節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
8回	授業内容：国際通貨制度の変遷4（変動相場制、為替フロート） 事前学修：テキスト第8章第3, 4節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
9回	授業内容：経済通貨同盟と欧洲單一通貨ユーロ 事前学修：テキスト第9章第1, 2, 3節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
10回	授業内容：欧洲中央銀行と欧洲連合（EU） 事前学修：テキスト第9章第3, 4節をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。また、講義時紹介する資料を確認すること。
11回	授業内容：国際金融市场 事前学修：テキスト第10章をよく読んでおくこと。また、第2, 3, 4回の講義を確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
12回	授業内容：国際協調とBIS規制 事前学修：テキスト第11章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
13回	授業内容：通貨危機と国際通貨制度改革 事前学修：テキスト第12章をよく読んでおくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
14回	授業内容：理解度の確認 事前学修：配布された資料を熟読し、内容を確認しておくこと。 事後学修：配付資料やテキスト、参考書などで、講義内容をよく確認し理解すること。
15回	授業内容：試験および解説 事前学修：前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。 事後学修：今回の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆教科書

事前資料送付

【当日資料配布】必要に応じてプリント配布予定

【教材】『国際金融論 R31200』通信教育教材（教材コード 000432）

◆参考書

【参考】『国際金融のしくみ 第4版（有斐閣アルマ）』秦忠夫・本田敬吉・西村陽造編 有斐閣、2012年

【参考】『身近に感じる国際金融』飯島寛之、五百旗頭真吾、佐藤秀樹、菅原歩 有斐閣、2017年

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に、小テストや平常点などにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：講義前後 10 分程度、講師室にて対応します。また、それ以外の時間ではメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi@nihon-u.ac.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔英語科教育法Ⅰ〕 オープン受講：不可

佐藤 恵一

◆授業概要 理論の概論を通して実践を考え英語教師として必要な知識を深めます。概論では教科書の補い及び触れていない内容も含めまとめ、その後グループごとに意見を交換し小リポート又は発表という形で考察します。また互いの経験や体験を知ることで異なる見識も深めて頂きます。

◆学修到達目標 学習指導要領の変遷及び現行のそれについて理解を深めます。次に年間・単元各回の授業計画（学習到達目標）を立てそれをどう作成し進めるかを学びます。また英語教育及び英語教師として必須となる諸項目について理解を深め、それぞれが自身が目標とする英語教育そして英語教師像を考えていきます。

◆授業方法 理論編は教科書で補い切れない内容について概説をし、英語教師としての常識力も高めます。その後にテーマに沿ってグループ討議や自身での意見を整理して頂きます。更にそれをリポートまたは発表という形で全体に確認していきます。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

回	授業内容	学習指導要領の変遷1
1回	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
2回	授業内容	学習指導要領の変遷2
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
3回	授業内容	現行の学習指導要領1
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
4回	授業内容	現行の学習指導要領2
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
5回	授業内容	異文化理解（1）挨拶を見る発想の違い
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
6回	授業内容	課題提出 異文化理解の和訳と感想
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	作成した課題をノートに整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
7回	授業内容	英国1
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
8回	授業内容	英国2
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
9回	授業内容	米国1
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
10回	授業内容	米国2
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
11回	授業内容	異文化理解（2）
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
12回	授業内容	課題提出 異文化理解の和訳と感想
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	作成した課題をノートに整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
13回	授業内容	英米の違い1
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
14回	授業内容	英米の違い2
	事前学修	授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	授業で学んだ内容をノートし整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと
15回	授業内容	まとめ 課題リポート
	事前学修	これまでの授業内容を事前で調べておくこと
	事後学修	作成した課題をノートに整理し、全体の内容を確認し理解しておくこと

◆教科書 通材 英語科教育法 I T 20900 英語教育とその目的 教科書は通信教育教材の新教材でも問題ないです

〔当日資料配布〕 学習指導要領 変遷 グループ討議

〔当日資料配布〕 学習指導要領 現行の指導要領 グループ討議

〔通材〕 年間指導計画・単元・各回授業計画

〔当日資料配布〕 英語教科書 中学校 DVD 授業にて

◆参考書 〔当日資料配布〕 英語教科書 高等学校 DVD 授業にて

〔当日資料配布〕 異文化理解 学習及び課題

〔当日資料配布〕 英米語の違い

〔当日資料配布〕 米国および英国について

〔事前資料送付〕 まとめ 及びリポート提出

◆成績評価基準 授業への参加及び意欲度・小テストと発表及び課題等 40%・最終リポート 60%

◆授業相談（連絡先）：（初回授業でご案内します）

注意

講座内容（シラバス）

〔英語〕

小田井 勝彦

◆授業概要 英語はヨーロッパの多くの言語や中国語などアジアの多くの言語が属する「インド・ヨーロッパ語族」の言語のひとつであるが、日本語はその語族には属していない。それゆえ英語と日本語では言語構造が大きく異なることとなり、日本人が英語を習得するためには文法知識をしっかりと身につけることが必須のこととなる。担当教員は翻訳実務経験があり、この授業ではその経験を伝えながら、学生が英文法をしっかりと習得し、英文を正確に理解できるようになることを目標とする。

◆学修到達目標

- ・英語でのコミュニケーションに必要な語彙、表現を習得する
- ・体系的に英文法を理解し、正確に英語の文章を理解できるようになる
- ・英文におけるニュアンスを的確にとらえ、日本語に翻訳することができる
- ・日本語と英語の違いについて理解する
- ・英語圏の文化を知る

◆授業方法 学生は事前に各章の文法説明を読み、知らない語句は辞書を引きながら、各章の例文を読み疑問点を整理しておく。授業では各章の重要な文法事項の解説、例文のポイントを解説します。授業における解説を参考に教科書の例文の和訳に取り組み、リアクションペーパーを提出していただきます。提出の締め切り後、模範解答・解説を提示します。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容: Chapter 1 品詞と文
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、英語の品詞にはどのようなものがあるか、文構造はどうなっているかを考える
事後学修	品詞と文型、文構造を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
2回	授業内容: Chapter 2 時制と時制の一致
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、時制にはどのような種類があるかを把握する
事後学修	各文の時制の違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
3回	授業内容: Chapter 3 助動詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、助動詞にどのような種類があるのかを確認する
事後学修	助動詞それぞれに複数ある意味を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する
4回	授業内容: Chapter 4 態
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、能動態と受動態の違いについて考える
事後学修	様々な形の受動態があることを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
5回	授業内容: Chapter 5 不定詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、不定詞の用法について考える
事後学修	不定詞の様々な用法を考えながら、リアクションペーパーを作成・提出する
6回	授業内容: Chapter 6 動名詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、動詞が名詞のように使われる動名詞の特徴を捉える
事後学修	動名詞の様々な使われ方を意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
7回	授業内容: Chapter 7 分詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、分詞には様々な用法があることを概観する
事後学修	分詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する
8回	授業内容: Chapter 8 比較
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、原級・比較級・最上級について考える
事後学修	比較の表現をしっかりと理解し、リアクションペーパーを作成・提出する
9回	授業内容: Chapter 9 関係詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、関係代名詞・関係副詞にはどのような種類があるのかを確認する
事後学修	修飾・非修飾の関係をしっかりと捉え、リアクションペーパーを作成・提出する
10回	授業内容: Chapter 10 仮定法
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、仮定法とは何かについて考える
事後学修	仮定法が使われた様々な表現を理解して、リアクションペーパーを作成・提出する
11回	授業内容: Chapter 11 否定
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、否定の表現にはどのようなものがあるのかを知る
事後学修	否定表現のニュアンスの違いを意識しながら、リアクションペーパーを作成・提出する
12回	授業内容: Chapter 12 強調・倒置・同格・挿入・省略・名詞構文・無生物主語等
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、様々な特殊な表現があることを認識する
事後学修	様々な特殊表現の特徴を認識し、リアクションペーパーを作成・提出する
13回	授業内容: Chapter 13 名詞と冠詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、名詞に様々な種類があることを知る
事後学修	文脈の中での名詞の使われ方を意識し、リアクションペーパーを作成・提出する
14回	授業内容: Chapter 14 代名詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、様々な代名詞があることを知る
事後学修	代名詞が何を指しているのかを考え、リアクションペーパーを作成・提出する
15回	授業内容: Chapter 15 形容詞と副詞
事前学修	教科書の説明と例文に目を通し、形容詞と副詞の違いを考える
事後学修	形容詞と副詞の様々な用法を確認し、リアクションペーパーを作成・提出する

◆教科書 『読む力を伸ばす英文法—実践的例文を中心に—』（朝日出版社、2013）

◆参考書

◆成績評価基準 各回のリアクションペーパー 60%，最終レポート 40%

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

【商法Ⅰ】

中村 良

- ◆授業概要 商法は民法の特別法として、民法の基本原理を修正している。民法の基礎的知識・基本原理と比較しながら商法の基礎的知識・基本原理を学修する。講義は、テキストおよび配布資料を用いた講義と受講生同士の討論から構成されます。身についた知識を口に出してもらい一層知識を身につけてもらう。この講義を通じて商法の世界を体感してもらえるように工夫する。
- ◆学修到達目標 この授業を通じて、受講生は商法の基礎的知識および基本原理を学修し、それを事例に適切に適用し法的解答を得られるようになる。また、身についた知識により、法的紛争回避・損害回復ができるようになる。具体的なビジネスモデルの法的問題について理解できるようになる。
- ◆授業方法 毎回講義の3分の2は、テキスト及び当日配布資料に沿って商法の基礎的な概念や基本原理について講義し、講義の3分の1で、学修した内容の応用を各自で議論しながら確認する。
- ◆履修条件 特にありませんが、民法を履修済であることが望まれる。
- ◆授業計画【各 90 分】

1回	授業内容：授業ガイダンス 私法入門 商法の概念 商法の特質 商法の地位とその解釈 法源の種類について説明する。 事前学修：教科書 258p. 1-18p. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
2回	授業内容：商法典の適用範囲 商法典の構造商人の意義 商人資格の始終 商人の営業能力について説明する。 事前学修：教科書 19-43pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
3回	授業内容：営業の意義 営業の譲渡 営業の賃貸・経営委任について説明する。 事前学修：教科書 44-56pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
4回	授業内容：商号 営業所 商業帳簿 商業登記について説明する。 事前学修：教科書 57-10pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
5回	授業内容：商業使用人 代理商について説明する。 事前学修：教科書 110-128pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
6回	授業内容：商行為の意義 内容 概念 種類 商行為の一般的通則について説明する。 事前学修：教科書 129-144pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
7回	授業内容：商行為の有償性 流質契約 債務の履行 商人間留置権 債権の消滅時効について説明する。 事前学修：教科書 145-152pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
8回	授業内容：商事売買 交互計算について説明する。最後に全体をまとめる。 事前学修：教科書 166-180pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
9回	授業内容：有価証券に関する一般的規定について説明する。 事前学修：教科書 153-165pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
10回	授業内容：匿名組合について説明する。 事前学修：教科書 181-187pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
11回	授業内容：仲立営業について説明する。 事前学修：教科書 188-194pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
12回	授業内容：問屋営業 運送取扱営業について説明する。 事前学修：教科書 195-211pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
13回	授業内容：運送営業 旅客運送について説明する。 事前学修：教科書 212-239pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
14回	授業内容：商事寄託 場屋営業 倉庫営業について説明する。 事前学修：教科書 240-258pp. を読んでおくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
15回	授業内容：まとめ 事前学修：14回分のノートを読み返しておくこと。 事後学修：指定教科書上記指定頁を通読し、内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

◆教科書 因沼『商法Ⅰ』落合誠一=大塚龍児=山下友信著 第6版 有斐閣 2019年

◆参考書 因沼『演習ノート商法総則・商行為法・保険法・海商法』稻田俊信=中村良編著 第4版 法学書院 2016年

◆成績評価基準 小テスト3回 (20%×3 = 60%), レポート1回 (40%), 毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

講座内容 (シラバス)

〔刑法Ⅱ〕

上野 幸彦

- ◆授業概要 近年の社会状況の変化に対応して、特に2000年代以降、刑事立法の活性化現象が見られる。とりわけ情報通信技術の高度化やAI技術の進化、さらにこれと関連したグローバル化の進展により、われわれを取り巻く社会環境も大きな変化を遂げている。こうした情勢を背景として生じた現代社会の諸課題に対する刑事的な規制立法の動向について学び、その背景や必要性、さらに問題点等を探ることにより、今日的な問題に対する刑事法の在り方に関する的確な理解を獲得できるようにする。
- ◆学修到達目標 近年の社会状況の変化に対応した刑事立法の動向について知り、立法の背景やその必要性を学ぶことにより、現代的課題に対する刑法の取組みについて的確に説明することができるようになるとともに、こうした情報・知識と理解を活用して、新たな問題が生じた場合に、刑事規制の限界を分析しながら、問題を解決するために必要かつ有益な方策を主体的に発見することができるようになる。
- ◆授業方法 テキストに基づきながら、パワーポイントを使用して授業を行う。授業テーマに関連するレポート提出が求められるとともに、授業時に授業内容の理解を確認するためアクションペーパーが課されることがある。いずれについても、授業内で説明しない解説を行う。上記レポート作成も含め、本授業につき、事前・事後の学修時間として各2時間を自安としている。
- ◆履修条件 令和元年度夜間スクーリング（秋期）「刑法Ⅱ」との積み重ね不可
- ◆授業計画（各90分）

1回	授業内容 2000年以降のさまざまな刑事立法の状況について概観し、社会情勢の変化と刑事規制の特徴について分析する。 事前学修 上記特講「刑法の課題」（日本大学危機管理・防災・環境管理学部危機管理学研究会「危機管理学研究第4号」2020年所収：日本大学危機管理学部のHPからデータ入手可能）のデータをプリントアウトし、読んだうえで、第1回の授業時に提出する。 事後学修 2000年以降の主要な刑事立法との概要について復習する。
2回	授業内容 テーマ：日本の犯罪情勢 令和元年度版の「警察白書」（警察庁）に基づき、日本における犯罪の現況についてデータで確認したうえ、その特徴や背景等について分析し、検討する。 事前学修 令和元年度版の「警察白書」（警察庁）を参照して、犯罪の一般的動向について把握しておく。 事後学修 刑法犯と特別刑法犯の認知件数の推移や特徴について、警察白書の分析を参考しながらチェックする。
3回	授業内容 テーマ：交通犯罪(1) 交通犯罪の推移について概観し、こうした変化の原因について分析する。 事前学修 令和元年度版の「警察白書」（警察庁）を参照して、「道路交通の安全」の項目を読み、(1)警察を含む国等の交通事故を防止するための取組みについてまとめ、さらに(2)自動車運転の実現と道路交通の安全との関係について検討し、レポート（Rno.1）を作成し、第3回の授業時に提出する。 事後学修 減少傾向の要因として考えられるものを、授業の内容も踏まえて整理する。
4回	授業内容 テーマ：交通犯罪(2) 自動車運転死傷処罰法を取り上げ、とくに危険運転致死傷罪の規定を中心に解説する。 *犯罪情勢や交通犯罪に関する基本的な知識・理解を確認するため、アクションペーパー①の提出を授業中に求める。 事前学修 テキスト 101～102頁を読みとともに、自動車運転死傷処罰法の規定を整理しておく。 事後学修 危険運転致死傷罪の規定における大幅な刑法改訂の引き上げを可能にした理論的な根拠について復習するとともに、現行法上の飲酒運転の規制について整理する。
5回	授業内容 テーマ：性犯罪 平成29年における改正について確認しながら、性犯罪に関する諸規定を解説する。さらに、条例等による規制についても説明する。 事前学修 なお、前回のアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 事後学修 刑法175条乃至181条の規定について、平成29年改正前の規定と改正後の規定とを比較しておく。 改正規定の個別点および性犯罪者の処遇について、授業内容に追きながら検討する。
6回	授業内容 テーマ：男童ポルノおよびリベンジポルノ等の刑事規制 児童ポルノに関しては、グローバルな規制に対応して日本でも特別法が制定されており、またリベンジポルノに關しても立法的対応が行われた。これらの規制について概説する。 *性に関する基本的な知識・理解を確認するため、アクションペーパー②の提出を授業中に求める。 事前学修 電子政府の法令データサービスを利用し、「児童買春」「児童ポルノ」による行為等の隠蔽及び追跡並びに児童の保護等に関する法律」「私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律」の全文を入手し、規定を一読しておく。検索エンジンで、「リベンジポルノ等の被害を防止するために」を入力して検索すると、警察庁のサイトにアクセスできるので、同サイトの左側に貼られているリンク先の一書上「恋愛感情もついに起因する暴力的事件への対応」を開き、その内容をレポート（Rno.2）にまとめ、第6回の授業時に提出する。 事後学修 児童ポルノに対する法的的効果を理解するとともに、日本でのアクセス規制措置について復習する。
7回	授業内容 テーマ：データの保護 今日、デジタルデータを媒介とする通信とそれに対するコンピュータによる処理、さらにはAIへと進化を遂げており、社会におけるデジタルデータの保護は緊密な課題である。刑法典上でのデータの保護および企業秘密を含む知的財産権に対する特別法上の保護について解説する。 事前学修 刑法典での具体的な規定に関する諸規定を抽出し、どのような犯罪に関して規定されているかをチェックしておく。 事後学修 法規的な犯罪類型に応対させた形でのデータの保護の限界について、授業内容を振り返りながら再確認し、将来的な立法整備の在り方について検討する。
8回	授業内容 テーマ：コンピュータの利用と財産犯罪 從来の詐欺罪の成立要件と電子計算機使用詐欺罪のそれとを比較しながら、後者の特徴を明らかにするとともに、実際の適用例についても説明する。 *データの保護およびコンピュータ関連犯罪に関する基本的な知識・理解を確認するため、アクションペーパー③の提出を授業中に求める。 事前学修 テキスト 80頁を読み、電子計算機使用詐欺罪の構成要件を分析しておく。 事後学修 テキスト 80頁を読み、電子計算機使用詐欺が適用されるのかを、実際のケースに即して再度確認しておく。
9回	授業内容 テーマ：経済犯罪 会社法をはじめ、独占禁止法や金融商品取引法等における重要な罰則規定とそれらの適用例について解説する。 事前学修 なお、前回のアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 事後学修 テキスト 103～105頁を事前に読みしておく。 授業で取り上げた裁判例について、復習しておく。
10回	授業内容 テーマ：企業のコンプライアンスと刑事責任 企業活動に伴う被害（とくに利用者・消費者の被害）に関連して、企業関係者に対する刑事責任が問題となる場面について説明する。 *経済犯罪および企業の刑事責任に関する基本的な知識・理解を確認するため、アクションペーパー④の提出を授業中に求める。 事前学修 罰則規定が存在する場合には、自然人のほか法人（事業主）も罰則の対象となるが、これまでの場合には自然人の刑事責任が問題となることが多い。そこで、企業活動の範囲を規定するどのような法規から企業関係者の刑事責任が問われるのかについてあらかじめおぼえておき、その対応として、三重自エトラックタイヤ脱落事件に関する最高裁判所平成24年2月8日決定を読み、(1)事件の要旨、(2)決議の要旨について、レポート（Rno.3）にまとめ、第10回の授業時に提出する。 事後学修 授業で取り上げた裁判例について、復習しておく。
11回	授業内容 テーマ：サイバー犯罪(1) サイバー犯罪の内容を整理しながら、国内法上、これに関連する罰則法規にはどのようなものがあるのかを説明する。 事前学修 なお、前回のアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 事後学修 テキスト 106～109頁を読み、サイバー犯罪の内容を事前に整理しておく。「警察白書」の「サイバー空間の安全の確保」の項目を参照して、サイバー犯罪への対応について、レポート（Rno.4）にまとめ、第11回の授業時に提出する。 サイバー犯罪約と国内法の規定との関連性について復習しておく。
12回	授業内容 テーマ：サイバー犯罪(2) 具体的な事例を取り上げ、不正アクセス禁止法、刑法等の罰則規定の適用について解説する。 *サイバー犯罪に関する基本的な知識・理解を確認するため、アクションペーパー⑤の提出を授業中に求める。 事前学修 令和元年度版の「警察白書」（法務省）、「警察白書」（警察庁）のデータから、サイバー犯罪の構造および傾向についてチェックしておく。 事後学修 サイバー犯罪を抑止したり、予防するための方法として、どのようなことが効果的なと考える。
13回	授業内容 テーマ：組織犯罪(1) 組織犯罪に対するグローバルな取組みと日本の対応について、組織犯罪処罰法を中心に説明する。 事前学修 なお、前回のアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 事後学修 テキスト 110～111頁を事前に読みおく。 組織犯罪に対する法的的動向と国内法の整備との関係について、再度確認しておく。
14回	授業内容 テーマ：組織犯罪(2) 組織犯罪対策の柱として、その資金源を断つことが重要なポイントであり、マネーロンダリングの規制は不可欠である。その主要法である犯罪収益移転防止法を中心に解説する。 事前学修 警察庁のウェブサイトで、「犯罪収益移転防止法等の概要」を閲覧しておく。 事後学修 マネーロンダリング規制の主要なポイントについて整理しておく。
15回	授業内容 テーマ：現代社会の課題と刑事規制 これまで授業で取り上げた現代的な刑法上の問題に関する学修を総括するとともに、授業内容の理解をチェックするために授業内テストを実施し、引き続いだ解説を行う。 事前学修 なお、前回のアクションペーパーの問題の解説を授業の冒頭で行う。 事後学修 これまでの学修内容を振り返り、重要なポイントについて復習しておく。上野幸彦「刑法の課題」（日本大学危機管理学部危機管理学研究会「危機管理学研究第4号」2020年所収：日本大学危機管理学部のHPからデータ入手可能）のデータに基づいて、リスク社会における刑事規制の特徴について、レポート（Rno.5）にまとめ、第15回の授業時に提出する。 事後学修 テストによって判明した知識や理解に不十分な点についてチェックして、きちんと正しておく。

◆教科書 因添「刑法入門」 上野幸彦・太田茂著 成文堂 2018年

◆参考書

◆成績評価基準 ①レポート（5回）：35% ②アクションペーパー（5回）：20% ③授業内テスト：45%

◆評価項目 ①では、（データ・判例等の）分析力・説解力・ポイントの理解力・論理的思考能力・表現力

②では、知識の充足度・（授業実習参加度）理解度・知識授業参加度

◆授業相談（連絡先）：（メールアドレス）ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔英語学演習Ⅰ～Ⅲ〕

真野 一雄

◆授業概要 英語を主として、言語とその関連分野について基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。練習問題の解答も用意しておいてください。

◆学修到達目標 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。

◆授業方法 テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 第8章 ことばと文化(1) ことばが映す文化 事前学修 テキスト p.88 - p.90 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容 第8章 ことばと文化(2) ことばと思考 事前学修 テキスト p.90 - p.97 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容 第9章 ことばの誕生(1) ことばの進化論 事前学修 テキスト p.98 - p.103 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容 第9章 ことばの誕生(2) ことばの特性と進化論 事前学修 テキスト p.103 - p.107 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容 第10章 ことばの獲得(1) ことばの獲得の諸相 事前学修 テキスト p.108 - p.113 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容 第10章 ことばの獲得(2) 規則性の発見 事前学修 テキスト p.113 - p.119 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容 第11章 ことばと脳(1) 脳の構造 事前学修 テキスト p.120 - p.127 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容 第11章 ことばと脳(2) ことばの臨界期 事前学修 テキスト p.127 - p.129 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容 第12章 ことばと情報構造(1) 主題と題述 事前学修 テキスト p.130 - p.132 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容 第12章 ことばと情報構造(2) 情報構造の流れ 事前学修 テキスト p.133 - p.139 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容 第13章 ことばの解釈(1) 語用論とは何か 事前学修 テキスト p.140 - p.145 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容 第13章 ことばの解釈(2) 言葉の解釈の様々な例 事前学修 テキスト p.145 - p.149 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容 第14章 ことばと認知(1) 視覚による認知とことば 事前学修 テキスト p.150 - p.152 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容 第14章 ことばと認知(2) 認識の仕方とことば 事前学修 テキスト p.153 - p.160 を読み、問題点を整理しておく。 事後学修 学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容 試験+その解説 事前学修 8章～14章の総復習をしておく。 事後学修 8章～14章のまとめをし、理解を完璧にする。

◆教科書 『[入門] ことばの世界』 大修館書店

◆参考書 通信教育部教材『英語学概説 0085』（『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版）
その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。

◆成績評価基準 全出席を前提に、試験 100% で評価の予定。（試験は途中退出なしです）

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔発達と学習〕

野村 康治

◆授業概要 乳幼児期から青年期にかけての運動・認知能力の発達、社会性の獲得や人格形成にかかわる代表的理論や諸問題を取り上げる。また、基本的な学習理論を紹介し、前述の心身発達に関する知見と絡めて様々な学習方法、教授法を概説する。

◆学修到達目標 教育に関わる発達と学習の諸問題に関する知識を獲得し、それらを有機的に関連づけて説明できるようになる。また、そうした知識を幼児、児童、生徒の学習を支援するために活用できるようになる。

◆授業方法 配布するプリントに沿って主に講義形式で行う。ただし、積極的な傾聴態度を促し、講義内容の理解を促すため、授業時に意見を求める場合もある。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容	発達の概念の変遷。発達の基本原理を解説する。
1回	事前学修	テキストの序章～第1章第2節を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
2回	授業内容	ピアジェ、ヴィゴツキー、ブルーナなどによる認知発達理論を解説する。
	事前学修	プリントやテキスト（1章など）にあるピアジェやヴィゴツキーに関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
3回	授業内容	人格発達に関する発達理論をエリクソンの理論を中心に解説する。
	事前学修	プリントやテキスト（6章など）にあるエリクソンに関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
4回	授業内容	乳児期における心身の発達（知覚能力の発達、言語の獲得、愛着行動など）を解説する。
	事前学修	プリントやテキストの乳児期（2章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
5回	授業内容	幼児期における心身の発達（身体能力、認知能力、情緒の発達など）を解説する。
	事前学修	プリントやテキストの幼児期（3章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
6回	授業内容	児童期における心身の発達（個性化と社会化の問題）について解説する。
	事前学修	プリントやテキストの児童期（4章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
7回	授業内容	青年期における心身の発達（特に青年期の心理的葛藤）について解説する。また生涯発達の観点に立ち、青年期以降の発達についても概説する。
	事前学修	プリントやテキストの青年期（5章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
8回	授業内容	学習の定義を示したうえで、連合理論に基づく学習理論（古典的条件づけや道具手条件づけなど）を解説する。
	事前学修	プリントやテキストの学習概念、条件づけ（7章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
9回	授業内容	洞察説やサイン・ゲシュタルト説など認知理論に基づく学習理論を解説する。また社会的学習についても説明する。
	事前学修	プリントやテキストの認知学習（8章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
10回	授業内容	学習方法の分類と学習時に生じる諸現象、また学習成果の規定因について解説する。
	事前学修	プリントの学習方法の分類と学習の規定因に関する記述（8、9章など）を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
11回	授業内容	学習と動機づけとの関連、特に成長欲求に基づく動機づけとの関連について解説する。
	事前学修	プリントやテキストの動機づけ（10章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
12回	授業内容	集団つくりと集団学習について解説する。
	事前学修	プリントやテキストの協同学者（12章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
13回	授業内容	様々な教授法（学習者主体の教授法と教授者主導の教授法について）解説する。
	事前学修	プリントやテキストの学習指導法（12章など）に関する記述を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
14回	授業内容	学習の評価方法と評価時に生じる諸問題について解説する。
	事前学修	プリントの教育評価に関する記述や障害に関する記載（13、14章）を読んでおくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、テキストの関連箇所と授業内容とを対応づけて理解すること。
15回	授業内容	理解度の確認、試験
	事前学修	プリントやノートを読み返し、授業内容の確認しておくこと。
	事後学修	授業内容の確認と知識の整理を行うこと。

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 当日プリント配付

内沼『教職ベーシック 発達・学習の心理学』柏崎秀子（編著）北樹出版

◆参考書 因沼『発達と学習（現代の認知心理学5）』市川伸一（編著）北大路書房

◆成績評価基準 成績は主に試験の得点をもとに授業への積極的関与（発言）を加味して総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内する。

注意

◆授業概要 本講義では、江戸時代の怪異と文芸について講義する。200年以上続いた平和な時代に、怪異が様々なジャンルで文芸化された。この多岐にわたる怪異文芸を、メディアや出版戦略などを絡めて、現代へと続くジャンルを繙く。

◆学修到達目標 ○近世文学について説明できる。○江戸の出版事情に関して説明できる。○メディアミックスについて説明できる。

◆授業方法 本来ならば対面講義を行う予定であったが、コロナ禍の現況を鑑み、オンライン講義と課題提出という形式で行う。

◆授業計画

	授業内容	ガイダンスと近世文学の背景
1回	事前学修	近世文学史を事前学修する。
	事後学修	講義を聴いた上で課題に取り組む。
2回	授業内容	近世以前の怪異について～古代から平安時代まで～
	事前学修	古事記や日本書紀の怪異について予習する。
	事後学修	講義を聴いた上で課題に取り組む。
3回	授業内容	近世以前の怪異について～中世文学の怪異～
	事前学修	説話集における怪異について予習する。
	事後学修	太平記・平家物語の怪異についてまとめる。
4回	授業内容	百物語と『伽婢子』～近世初期文学における怪異～
	事前学修	浅井了意について調査する。
	事後学修	中国白話小説の影響について調査する。
5回	授業内容	浮世草子における怪異～井原西鶴と怪異～
	事前学修	井原西鶴について調査する。
	事後学修	西鶴作品を読んで梗概をまとめる。
6回	授業内容	『西鶴諸国咄』を読む。
	事前学修	予め「見せぬところは女大工」を読む。
	事後学修	講義を聴いた上で課題に取り組む。
7回	授業内容	百物語怪談集の展開～出版戦略と怪異文芸～
	事前学修	近世出版事情について調査する。
	事後学修	今回の講義を踏まえて内容をまとめる。
8回	授業内容	読本における怪異～上田秋成と建部綾足
	事前学修	上田秋成について調査する。
	事後学修	建部綾足についてまとめる。
9回	授業内容	雨月物語を読む～吉備津の釜～
	事前学修	雨月物語について予習する。
	事後学修	講義で触れた作品について考察する。
10回	授業内容	キャラクター化された怪異～草双紙の怪異～
	事前学修	草双紙について予習する。
	事後学修	講義で扱った作品についてまとめる。
11回	授業内容	川柳・狂歌における怪異
	事前学修	川柳の成立について予習する。
	事後学修	講義で触れた作品について説明する。
12回	授業内容	歌舞伎における怪異Ⅰ～東海道四谷怪談の成立～
	事前学修	鶴屋南北について予習する。
	事後学修	南北作品についてまとめる。
13回	授業内容	歌舞伎における怪異Ⅱ～ヒロインの造型と都市伝説～
	事前学修	仮名手本忠臣蔵について予習する。
	事後学修	講義を踏まえて東海道四谷怪談についてまとめる。
14回	授業内容	東海道四谷怪談を読む～髪梳きと隠亡堀～
	事前学修	髪梳きの場と隠亡堀について予習する。
	事後学修	東海道四谷怪談と仮名手本忠臣蔵について対比し考察する。
15回	授業内容	話芸における怪異～落語や講談の怪異～
	事前学修	落語と講談について予習する。
	事後学修	

◆教科書 なし。

◆参考書(参考文献等) なし。

◆成績評価基準 最終レポート (60%) 各回の課題 (30%) 質問など平常点 (10%) で評価する。

講座内容（シラバス）

〔西洋古典〕

上滝 圭介

◆授業概要 聖書各書を概観し、部分的に講読します。おもに The Authorized Version (1611) と The Revised English Bible (1989) を使用、適宜ほかの版や事典なども紹介。様々な形式で複雑に記述された、長大で深遠な聖書の世界に親しみながら、その思想に触れていく、その経験が文化作品の鑑賞や文学・語学研究といった折々の場面で活かされることもあるでしょう。

◆学修到達目標 1. 聖書本文、とくに聖書特有の人物名や地名を正確に音読できる。

2. 聖書本文を精読・読解し、人物や出来事や論点を説明できる。

3. 聖書の成りたちや構成や版を把握し、また、用語や人物などについて、必要に応じて図書館やインターネットで検索できる。

4. 欧米の文化作品にみられる、聖書やキリスト教に由来する表現を指摘できる。

◆授業方法 みなさんのが事前学修の成果を確認するかたちで進めます。発表の順番がたくさん回ってきますから、しっかりと予習すること。音読や発表課題はもちろん、ペアワークやグループワーク、スキットやディスカッションなどのアクティビティにも積極的に取り組んでください。事後学修では、授業で芽生えた各自の興味や疑問を掘り下げていくことで、聖書の思想やキリスト教の成りたちに対する理解がさらに深まることでしょう。

◆履修条件

◆授業計画（各 90 分）

	授業内容	オリエンテーション [授業計画や授業方法、配布資料や参考書について]、旧約聖書 Genesis 第1章から第2章 creation の講読、ディスカッションなど
1回	事前学修	1回から14回までの授業内容に記載されている該当箇所を参考書やインターネットなどで一読すること
	事後学修	2回から15回までにむけての学修計画をたてること、授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
2回	授業内容	新約聖書 Luke 第2章 41 - 52 節 The boy Jesus in the temple の講読、ディスカッションなど
	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
3回	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
	授業内容	旧約聖書 Genesis 第3章 Adam and Eve の講読、ディスカッションなど
4回	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
5回	授業内容	旧約聖書 Genesis 第4章 Cain and Abel の講読、ディスカッションなど
	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
6回	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
	授業内容	新約聖書 John 第4章 4 - 26 節 Jesus and the Samaritan woman の講読、ディスカッションなど
7回	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
8回	授業内容	新約聖書 Matthew 第4章 12 節 Preaching at Capernaum から第5章 48 節 Love of enemies の講読、ディスカッションなど
	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
9回	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
	授業内容	旧約聖書 Genesis 第6 - 8章 Noah and the Flood の講読、ディスカッションなど
10回	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
11回	授業内容	旧約聖書 Genesis 第10章から第11章 26 節 The Tower of Babel の講読、ディスカッションなど
	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
12回	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
	授業内容	新約聖書 Matthew 第8章 18 節 Teaching about discipleship から第13章 The parable of the sowerまでの講読、ディスカッションなど
13回	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
14回	授業内容	旧約聖書 Genesis 第11章 27 節から第13章 Abraham の講読、ディスカッションなど
	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
15回	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること
	授業内容	新約聖書 Matthew 第14章 The death of John the Baptist の講読、ディスカッションなど
16回	事前学修	配布資料をもじいて予習を行うこと、とくに聖書特有の地名、人名などの発音、概要などを調べること
	事後学修	授業の学修をふまえて、聖書の用語や人物、挿話についての理解を深めること

◆教科書 [当日資料配布] 当日プリント配布

◆参考書 [因沼]『聖書：新共同訳』日本聖書協会 [種類は問いません]

◆成績評価基準 出席課題 (15%)、アクティビティ (30%)、試験 (55%) を総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：初回にお知らせします。

注意

講座内容（シラバス）

【英米文学演習Ⅰ～Ⅲ】オープン受講：不可

水野 隆之

◆授業概要 チャールズ・ディケンズの *Great Expectations*（『大いなる遺産』）を原文で講読します。ディケンズは19世紀を代表する小説家であるだけでなく、シェイクスピアと並んでイギリスの国民的作家と称されている作家ですので、英米文学を専攻する学生が読んでおくべき作家の一人と言えます。授業回数に限りがあるので、この授業では第一部を中心に読んでいきますが、授業終了後には各自で通読しておいてください。

◆学修到達目標 作品を原文で講読することにより、以下の目標達成を目指します。

1. これまで培った英語力を活用し、正確に英文の意味を捉えることができる。
2. 英語で小説を読むのに必要な基本的事項を習得し、卒業論文等で各自が研究する作家の作品を原文で読むことができるようになる。
3. 作品についての自分の意見をまとめ、発表できる。

◆授業方法 7回目の授業までは作品の精読をしていきます。受講学生の理解度に応じて進度を調整しながら、1回の授業で1章分を自安に読み進めていきます。8回目以降の授業では、学生による発表とディスカッションをします。あらかじめ担当箇所を割り当てて、その箇所の要約と分析を中心に発表をし、それをもとにディスカッションをします。受講学生は積極的に自分の意見を発言するよう心がけてください。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画【各90分】

	授業内容	授業の進め方の説明	ディケンズの生涯について。
1回	授業内容	ガイダンス。授業の進め方の説明。ディケンズの生涯について。	
	事前学修	テキスト pp. xxi-xxvi に目を通していく。	
	事後学修	『大いなる遺産』以外の作品について確認する。	
2回	授業内容	Chapter 1 を精読する。	
	事前学修	Chapter 1 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
3回	授業内容	Chapter 2 を精読する。	
	事前学修	Chapter 2 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
4回	授業内容	Chapter 3 を精読する。	
	事前学修	Chapter 3 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
5回	授業内容	Chapter 4 を精読する。	
	事前学修	Chapter 4 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
6回	授業内容	Chapter 5 を精読する。	
	事前学修	Chapter 5 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
7回	授業内容	Chapter 6, Chapter 7 を精読する。	
	事前学修	Chapter 6, Chapter 7 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
8回	授業内容	Chapter 8 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 8 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
9回	授業内容	Chapter 9, Chapter 10 の発表とディスカッション。	
	事前学修	授業で扱う箇所を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
10回	授業内容	Chapter 11 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 11 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
11回	授業内容	Chapter 12, Chapter 13 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 12, Chapter 13 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
12回	授業内容	Chapter 14, Chapter 15 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 14, Chapter 15 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
13回	授業内容	Chapter 16, Chapter 17 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 16, Chapter 17 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
14回	授業内容	Chapter 18, Chapter 19 の発表とディスカッション。	
	事前学修	Chapter 18, Chapter 19 を熟読する。	
	事後学修	授業で読んだ箇所の重要な表現を確認する。	
15回	授業内容	試験とまとめ	
	事前学修	これまでの学習事項を復習する。	
	事後学修	授業で扱わなかった残りの章を読む。	

◆教科書 因沼『Great Expectations』 Charles Dickens, Penguin, 2003

◆参考書 指定しない

◆成績評価基準 試験(50%)、発表(30%)、授業時の発言、予習、復習など授業への取り組み(20%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談(連絡先)：

注意

講座内容（シラバス）

〔考古学演習Ⅰ・Ⅱ〕

小泉 龍人

◆授業概要 古代都市には多様な価値観をもつひとびとが集住し、祭祀儀礼が執り行われ、王権が確立されました。本授業では、「集住」「祭祀」「王権」の視点を通して、さまざまな古代都市を考古学的に考察していきます。さらに、海外（シリア、エジプト、トルコ、イラク）での考古学調査の経験をもとに、現地での発掘調査の具体的な様子などを授業に反映していきます。

◆学修到達目標 本授業では、現代文明の起点となるメソポタミアをはじめとして、エジプト、インダス、ギリシア、ローマなどにおける古代都市に注目していきます。それぞれの古代社会における都市について、おおまかな知識を身につけることを目標とします。そして、それぞれの都市の「集住」「祭祀」「王権」を比較考察しながら、古代都市を総合的に理解していくことを目標としています。

◆授業方法 初回にガイダンスをおこない、講師が専門としているメソポタミア都市の「集住」「祭祀」「王権」について概説します。2回目以降、毎回数名の発表・ディスカッション、最終回にまとめをおこないます。各自、興味のある古代都市に「集住」「祭祀」「王権」（いずれか一つ、あるいは複数でも可）について、20～30分程度の発表後、出席者全員でディスカッションします。対象地域・時代は限定しません。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	授業の進め方・ガイダンス、講師による概説（メソポタミアの都市） 地図等を使って、メソポタミアの地理的位置を確認しておくこと。 配付資料を読み返して、講師による概説の内容を整理し、確認しておくこと。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	講師による概説（メソポタミアの都市） 前回の授業内容を確認し、配付資料に目を通して置くこと。 配付資料を読み返して、講師による概説の内容を整理し、確認しておくこと。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（メソポタミアなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（メソポタミアなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（エジプトなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（エジプトなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（インダスなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（インダスなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（ギリシア、ローマなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（ギリシア、ローマなど） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（中国、日本など） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（中国、日本など） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（全般） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	受講者による発表・ディスカッション（全般） 発表内容のおおまかな時代・地域について調べておくこと。 配付資料を読み返して、発表の内容を整理し、確認しておくこと。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	総合ディスカッション、まとめ 各自発表した内容の補足、追加の課題等について調べておくこと。 発表の内容について、各自で振り返り、より考察を深める。

◆教科書 **〔当日資料配布〕**とくに指定しません。初回は講師がプリントを配布する予定です。

◆参考書 丸沼『中国の考古学』小澤正人ほか 同成社 1999

丸沼『都市の起源—古代の先進地域=西アジアを掘る』小泉龍人 講談社 2016

丸沼『インダスの考古学』近藤英夫 同成社 2011

丸沼『古代エジプト文明の形成』高宮いづみ 京都大学学術出版会 2006

丸沼『古代ギリシア史における帝国と都市』中井義明 ミネルヴァ書房 2005

◆成績評価基準 発表（50%）、ディスカッション（40%）、平常点（10%）

◆授業相談（連絡先）：メール tatsundo.k@nifty.com

注意

講座内容（シラバス）

〔情報概論〕 オープン受講：不可

荒関 仁志

- ◆授業概要 表計算ソフト（MS エクセル）を用いて、アンケート調査などに必須な仮説検定と多変量解析（重回帰分析）の基礎を理解する。また、仮説検定の理論的的前提条件（大数の定理、中心極限定理、分散、正規性と線形性、信頼区間など）を理解する。統計学の課題を通じて表計算ソフトの活用法を学習していきます。
- ◆学修到達目標 仮説検定や多変量解析（重回帰分析）の基礎を理解し、その前提条件を正確に説明できる。また、様々なデータの適切な統計処理を提案することができる。
- ◆授業方法 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、表計算ソフト（MS エクセル）の必要な知識については必要に応じて講義形式で学習します。
- ◆履修条件 表計算ソフトの基本的操作（相対参照・絶対参照、ファイル操作、グラフ作成）を行えること、さらに、メールで課題提出を行うので Nu-Mail が使えることが望ましい。令和元年度夏間・土曜スクーリング「情報概論」の前期、もしくは後期のみの受講も可能ですが、学修効果をあげるため、前期・後期の連続受講が望ましい。令和元年度夜間スクーリング（秋期）「情報概論」との積み重ね不可。
- なお、本講義では WindowsPC の利用限定とします。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	統計計算の基本（平均と分散）と利用範囲を理解します。
	事前学修	統計計算は何を目的としているかを各自調べておいてください。
	事後学修	配布資料に基づき基本関数統計処理の必要性について理解すること。
2回	授業内容	表計算ソフトの基本操作と表計算ソフトの基本関数の習得を目指します。
	事前学修	表計算ソフトの基本（相対参照・絶対参照）について確認しておくこと。また、表計算ソフトの基本関数（平均、合計、順位等）について確認しておくこと。
	事後学修	配布資料に基づき基本関数の使い方について理解すること。
3回	授業内容	表計算ソフトを使った統計の基本を理解することを目指します。
	事前学修	大数の定理と中心極限定理について調べて、その内容を確認しておくこと。
	事後学修	配布資料に基づき大数の定理と中心極限定理を理解すること。
4回	授業内容	統計分布について理解することを目指します。
	事前学修	様々な統計分布について調査しておくこと。
	事後学修	配布資料に基づき、各統計分布の意味を理解すること。
5回	授業内容	統計分布の信頼区間の考え方を理解し、仮説検定の基本を習得すること。
	事前学修	統計分布における信頼区間と棄却域の考え方を調査しておくこと。
	事後学修	配布資料に基づき、信頼区間と棄却域を理解し、仮説検定の基本的考え方を習得すること。
6回	授業内容	対応のある t 検定について理解し、その統計処理手順を習得する。
	事前学修	対応のある t 検定について調査し、帰無仮説の考え方を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、対応のある t 検定を理解し、エクセルでその処理方法を習得すること。
7回	授業内容	対応のない t 検定について理解し、その統計処理手順を習得する。
	事前学修	対応のない t 検定について調査し、その考え方を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、対応のない t 検定を理解し、エクセルでその処理方法を習得すること。
8回	授業内容	分散分析について理解し、その統計処理手順を習得する。
	事前学修	分散分析について調査し、その考え方を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、分散分析を理解し、エクセルでの処理方法を習得すること。
9回	授業内容	相関係数を理解し、その処理方法を取得する。また、無相関検定についても理解する。
	事前学修	相関係数を調査し、その考え方を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、相関係数を理解し、エクセルでの処理方法を習得すること。
10回	授業内容	共分散を理解し、その処理方法を取得する。また、偏相関係数についても理解する。
	事前学修	共分散と偏相関係数を調査し、その考え方を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、共分散と偏相関係数を理解し、その処理方法を習得すること。
11回	授業内容	回帰分析を理解し、その処理方法を習得する。
	事前学修	単回帰分析を調べ、その意味を理解しておく。また、回帰分析の背景にある最小二乗法についても調査しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、単回帰分析処理を取得する。
12回	授業内容	重回帰分析を理解し、その処理方法を習得する。
	事前学修	重回帰分析を調べ、その意味を理解しておく。特に、偏相関係数との関係で、偏回帰係数を理解しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、重回帰分析処理を取得する。
13回	授業内容	主成分分析と因子分析について理解する。
	事前学修	主成分分析と因子分析とはどのような統計手法であるかを調査しておく。
	事後学修	配布資料に基づき、主成分分析と因子分析の違いを理解する。
14回	授業内容	他の多変量解析について理解する。
	事前学修	多変量解析を調査し、どのような統計方法があるか理解する。
	事後学修	配布資料に基づき、目的に応じた適切な多変量解析の利用範囲を理解する。
15回	授業内容	確認試験、および解説
	事前学修	前回の授業内で指摘した基本的な事柄について確認しておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解し、表計算ソフトの活用法について再確認すること。

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 『統計学がわかる（ファーストブック）』 向後 千春、富永 敦子 技術評論社 2007 年
『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（ファーストブック）』 向後 千春、富永 敦子 技術評論社 2008 年

◆成績評価基準 授業参加度（30%）、平常課題（50%）、授業内試験（20%）により総合的に評価します。
※演習形式の授業なので、毎回出席することを前提に評価します。

◆授業相談（連絡先）：通信教育部3号館3階302 研究室

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。

例：「日本大学通信教育部 22183999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

注意

講座内容 (シラバス)

〔マーケティング論〕

雨宮 史卓

◆授業概要 製品にまつわる競争優位の源泉は、時代とともに大きく変化している。それによって、マーケティング戦略の進め方も大きく変化してきた。近年、強まっていた消費者の低価格志向による価格競争は、広告費の減少やメディア戦略の見直しを迫っているのが現状である。このような状況下で、本講義はマーケティングを深く理解するための前提となる、基礎的な知識を体系的に解説する事を目的とする。尚、具体的な事例は日本郵政公社郵政総合研究所の客員研究員、朝日食品産業センター、地域食品ブランド育成・管理総合検討委員等の実務経験から解説する。

◆学修到達目標 1 マーケティング戦略の基本事項と理論が理解できる。

2 消費者ニーズを探り、それを満たすための企業活動が理解できる。

3 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるように心掛ける。

◆授業方法 初日はテキストに沿ながらマーケティングの基本機能を解説し、二日目以降は、必要に応じて資料を配布して企業の戦略事例をおり交せてマーケティング理論を解説する。また、二日目の後半は、テストの解答方法を授業内容と共に解説し、質問を受け付ける。そして、最終日は授業の後に簡単なテストを実施する。

◆履修条件 前期・後期の座間スクリーニングとの併用は不可

◆授業計画 [各 90 分]

1回	授業内容: ガイダンス 授業の進め方 マーケティングを学ぶことの意義 事前学修: テキスト9頁～19頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、全体の内容を確認し理解しておくこと。
2回	授業内容: マーケティングの基本理念とその概念 事前学修: テキスト23頁～32頁をよく読んでおくこと。 事後学修: テキスト28頁の図をノートに書き写し、内容を理解しておくこと。
3回	授業内容: 市場細分化戦略 事前学修: テキスト31頁～34頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容: ソーシャル・マーケティング 事前学修: テキスト37頁～49頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容: サービスのマーケティング 事前学修: テキスト54頁～56頁と配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、全体の内容を確認し理解しておくこと。
6回	授業内容: 価格戦略と消費者の価格心理 事前学修: テキスト第9章と配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、全体の内容を確認し理解しておくこと。
7回	授業内容: 取引と流通 事前学修: テキスト209頁～223頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当箇所を読んで、ノートにまとめておくこと。
8回	授業内容: プロモーションの種類と役割 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業で指摘された配布資料の図をノートに書き写して理解しておくこと。
9回	授業内容: ブランド概念とコミュニケーション 事前学修: 配布資料とテキスト135頁～137頁をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配布資料を読んで、全体の内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容: マーケティングとフード・サービス 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 配布資料を読み返し、食の類型をノートにまとめておくこと。
11回	授業内容: 消費者行動と購買行動 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容: 時間と空間のマーケティング 事前学修: 配布資料をよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめる。
13回	授業内容: 環境とマーケティング 事前学修: 配布資料と指示されたテキストの該当ページをよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分を読んで、全体の内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容: 非営利組織のマーケティング 事前学修: 配布資料と指示されたテキストの該当ページをよく読んでおくこと。 事後学修: 授業の内容を整理し、配布資料の必要箇所をノートにまとめる。
15回	授業内容: 授業の総まとめ 事前学修: 配布資料の各項目をノートとテキストで確認すること。 事後学修: テキストの全体を読み返し、それぞれの当該箇所をノートで確認し、授業内容の全体像を理解すること。

◆教科書 **マーケティング S30500**

〔当日資料配布〕必要に応じて当日、資料を配布する。

◆参考書

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として評価します。テスト (70%)、平常点 (30%)

◆授業相談 (連絡先): 授業の初回時に案内します。

注意

講座内容（シラバス）

〔法学〕

遠藤 清臣

◆授業概要 法に限るわけではないが、人の社会には何らかの「きまり」がある。人々の身近にあり、誰もが避けて通れないそれ（法を含めたきまり）について、受講者各位が自らの考えを形成できるようにする。全体を、法の基本事項、法の成立及び制定、法の実現の三つに大別して説明する。

◆学修到達目標 法学の基本事項を身に付け、受講者各位が自ら法と社会について考えるようになることが重要である。とりわけ、法と社会にある理想と現実、慣習など法以外の決まりの重要性、法の解釈の重要性について理解してもらうことが目標である。

◆授業方法 科目の性質上、原則として、講師の一方的な講義にならざるを得ない。受講者の人数や、授業の進捗状況にもよるが、可能な限り受講する方との意見交換や討論を交えるように努力する。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

	授業内容	法の基本事項(1) 法の概念、法と他の社会規範
1回	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
2回	授業内容	法の基本事項(2) 法の特質、時代による社会正義の変化、日本の法の沿革
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
3回	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の基本事項(3) 権利の本質、権利と義務
4回	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
5回	授業内容	法の基本事項(5) 権利の主体と客体
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
6回	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の成立(1) 社会の法と國家の法、成文法と不文法
7回	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
8回	授業内容	法の成立(2) 日本の国家法の種類、立法機関と国会の二院制の課題
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
9回	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の成立(3) 不文法の役割、不文法の種類
10回	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
11回	授業内容	法の実現(1) 法の実現機関、実体法と手続法
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
12回	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の実現(2) 大統領制と内閣制、議院内閣制の課題
13回	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
14回	授業内容	法の実現(3) 法の実現過程、事実の認定
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
15回	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の実現(4) 法の解釈の必要性、法の解釈方法、概念法論と自由法論
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	法の実現(5) 裁判制度とその課題
	事前学修	不要、当日の講義に集中すること。
	事後学修	プリント及び配布物による、講義内容の復習、確認
	授業内容	筆記試験
	事前学修	
	事後学修	

◆教科書 **〔当日資料配布〕**教科書等は特に指定しない。講義当日にプリントを配布する。

◆参考書 **〔通材〕**『法学 B11500』 通信教育部教材（教材コード 000515）

丸沼『現代法学入門』 三浦隆、石川信編著 北樹出版

丸沼『ポケット六法』 その他の簡易な六法

（参考書はいずれも、必要があれば入手すればよく、講義当初に持参する必要はない。）

◆成績評価基準 授業の最後に行う、筆記試験により評価する。授業中に行う課題や、応答がある場合、これを評価に加えることがある。

◆授業相談（連絡先）：jrtbc554@ybb.ne.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔英語 I ~ IV〕

岩城 久哲

◆授業概要 様々な分野の英文を購読していく。その補強のために構文・文法などもチェックする。さらに、ライティング・スピーキング・リスニングなどのチェックもする。

◆学修到達目標 辞書などの助けを借りながらも、色々な英文が購読できるようになる。さらに英語文法などの概要なども理解できるようになる。

◆授業方法 予め、指名しておくが、名簿順に様々な英文を購読する。

◆履修条件 教務課が定める条件に従う。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容：孤高なる作家・エミリー・ディキンソンの生涯を読む。 事前学修：ディキンソンの生涯について調べておく。 事後学修：英文における文型について確認しておく。
2回	授業内容：偉大なる作家・ウイリアム・フォークナーの作品世界を読む。 事前学修：フォークナーの作品を調べておく。 事後学修：他動詞と自動詞について確認しておく。
3回	授業内容：多彩な才能のボーカリスト・サラ・ボーンの歌唱世界を読む。 事前学修：サラ・ボーンの歌唱世界を調べておく。 事後学修：目的語と補語について確認しておく。
4回	授業内容：天才音楽家・デューケ・エリントンの音の世界を読む。 事前学修：エリントンの音楽世界を調べておく。 事後学修：現在分詞と動名詞について確認しておく。
5回	授業内容：20世紀初頭の芸術グループ・アシュカン派の表現世界を読む。 事前学修：アシュカン派の表現世界を調べておく。 事後学修：重文・複文・単文について確認しておく。
6回	授業内容：ユニークな素材を描き続けたジョージア・オキーフの生涯を読む。 事前学修：オキーフの生涯を調べておく。 事後学修：関係代名詞について確認しておく。
7回	授業内容：消費者物価指数とインフレから経済の動向を読む。 事前学修：消費者物価指数とインフレの関係を調べておく。 事後学修：関係副詞について確認しておく。
8回	授業内容：景気変動とも呼ばれる景気循環について読む。 事前学修：景気循環について調べておく。 事後学修：さまざまな不定詞について確認しておく。
9回	授業内容：人間の成長と社会化の関係を読む。 事前学修：人間に囲む社会文化はどんな意味があるか調べておく。 事後学修：分詞構文について確認しておく。
10回	授業内容：深層心理学から無意識領域について読む。 事前学修：人間と無意識領域の関係を調べておく。 事後学修：さまざまな品詞について確認しておく。
11回	授業内容：アメリカ大陸横断鉄道の建設について読む。 事前学修：アメリカにおける鉄道建設の歴史を調べておく。 事後学修：さまざまな仮定法について確認しておく。
12回	授業内容：大型鳥・コンドルの悲劇と再生を読む。 事前学修：コンドルの事例からその他の生物の再生のドラマを調べておく。 事後学修：受動態と能動態について確認しておく。
13回	授業内容：アメリカ大統領・ヴァン・ビューレンの政治について読む。 事前学修：アメリカ大統領と政治の関係を調べておく。 事後学修：使役動詞について確認しておく。
14回	授業内容：天文学のビッグバン現象について読む。 事前学修：宇宙の過去から未来への仕組みをドラマを調べておく。 事後学修：知覚動詞について確認しておく。
15回	授業内容：消費者物価指数とマーケットバスケットについて読む。 事前学修：消費者物価指数と経済の関係を調べておく。 事後学修：TOEIC TOEFLなどの受験も視野に入れて今後の努力を期待します。

◆教科書 **〔当日資料配布〕**担当者が予め、プリント教材を準備する。初回は当日配布になる可能性が高い。

◆参考書 **丸沼** TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法： 南雲堂 700 円

丸沼 TOEIC TEST LISTENING 550： 南雲堂 700 円

日頃から、図書館等で英字新聞・雑誌に接しておく。

丸沼 英語ニューハンドブック： 研究社

丸沼 英米風物資料辞典： 開拓社

◆成績評価基準 自分の担当したところの成果 (50%)、小テスト (25%)、プレゼンテーション (25%)

◆授業相談（連絡先）：原則、メール（desdetriana-hi@docomo.ne.jp）で受け付けるが、授業の前（教室には 20 分前にいる）などでも OK です。

注意

講座内容（シラバス）

〔民法Ⅱ（前半）〕

根本 晋一

- ◆授業概要 物権法総論、占有権、所有権、用益物権（地上権、永小作権、地役権、入会権）、法定担保物権（留置権、先取特権）、約定担保物権（質権、抵当権）、非典型担保、のうち、用益物権あたりまでを学修する。
- ◆学修到達目標 民法学における物権法の位置づけ、物権と債権の異同、物権に関する主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。
- ◆授業方法 講義形式を採用する。法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。
- ◆履修条件 根本の民法Ⅱ（後半）と、根本以外の民法Ⅱとの積み重ね可
- ◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	GD, 【物権法総論】物権の意義、直接支配性、排他性など
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授業内容	物権の債権に対する優先的効力（売買は賃貸借を破る）、物権的請求権、対抗力など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
3回	授業内容	物権と債権の異同、物権法定主義と契約自由の原則など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4回	授業内容	物権変動、意思表示に基づく物権変動、意思表示に基づかない物権変動など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授業内容	物権変動意思主義の原則、形式主義との違いなど
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	物権変動公示の原則、公信の原則、動産物権変動と不動産物権変動など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	不動産物権変動と登記、登記を必要とする物権変動など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	民法第177条における「第三者」の意義、実体的無権利者、背信的悪意者、不法行為者を含むのか？
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9回	授業内容	動産物権変動と占有（引渡し）、即时取得とその例外、【占有権】など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授業内容	【所有権】所有権絶対の原則、完全物権と制限物権、相隣関係、所有権の効力など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
11回	授業内容	所有権の取得原因、原始取得と承継取得、国庫帰属、無主物先占、遺失物拾得、遺失物法、埋蔵物発見など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12回	授業内容	添付、附合、混和、加工、その効果など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13回	授業内容	共有、狭義の共有、合有、総有、共有物の保存、管理、変更、準共有、建物区分所有法など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14回	授業内容	【用益物権】地上権、借地借家法との関係など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15回	授業内容	地役権、永小作権、入会権、民法Ⅱ（前半）の補遺とおさらいなど
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

◆教科書 指定しない

◆参考書 民法Ⅱ（通信教育教材）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

【国文法】 オープン受講：不可

鈴木 浩

◆授業概要 歴史的变化をふまえて日本語文法を理解する。文法は言語表現をうみだすために運用される動的なきまりである。運用の際、使い手によってズレの生じる余地があり、きまりである文法にも变化をもたらす。これもまた、文法のもつ一面である。この授業では、日本語に生じた、また、生じつつある文法の变化をとりあげることで、文法現象・文法概念を具体的に理解するとともに、ことばの变化にはその起きたがあるという認識をつくる。

◆学修到達目標 (1) 文法に対して応用のきく理解のしかたができるようになることを、全体を通しての目標とする。(2) その理解を限られた時間内で文章によってアウトプットできるようになることを、学習記録用紙の作成および試験での目標とする。(3) 理解内容を話し合うことで協同学習のしかたを知り、学習者主体で理解を深めることができるようになることを、話し合い学習での目標とする。

◆授業方法 講義に「話し合い学習」を組み合わせる。話し合い学習とは、少人数グループ（毎回異なるメンバーにする）をつくって、その回の授業内容に関してその理解を受講生同士が整理・確認しあって合意を形成し、さらにその理解を自分たちなりに拡充する、協同学習である。話し合い学習の結果は「学習記録用紙」に文章化して提出する。それに教員が評価とともにコメントを付記して次の回の授業で返却し、フィードバックできるようにする。

◆履修条件

◆授業計画【各 90 分】

	授業内容	授業案内	日本語の文の構造
1回	授業内容	授業案内	日本語の文の構造
	事前学修	主語・述語をもつ文例をいろいろとつくれるようにしておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
2回	授業内容	話し合い学習の説明と話し合いの試行	
	事前学修	協同学習についての理解をつくっておく。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、配布プリントとあわせ、日本語の文構造に関する理解の修正・拡充をする。	
3回	授業内容	名詞の格 その機能と形態との対応	
	事前学修	名詞（代名詞を含む）についての知識を確かめておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
4回	授業内容	格が日本語の名詞にとってどう形であらわされるようになるか、理解をかためる（話し合い学習）	
	事前学修	格の理解に関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、格機能の形態化を例に、文法機能と形態との関連づけを考える。	
5回	授業内容	動詞の態とその変化	
	事前学修	「～していただく」をもちいた文が口頭でどう使われているか注意し、書き留めておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
6回	授業内容	動詞の態とそれにかかわる名詞との結合を考える（話し合い学習）	
	事前学修	態に関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、具体的な文のなかで動詞の態の変化がどう起きるか考える。	
7回	授業内容	意志・推量とその分化	
	事前学修	意志（勧誘をふくむ）の述語の文と推量の述語の文とをつくれるようにしておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
8回	授業内容	述語がもつ文法的意味について考える（話し合い学習）	
	事前学修	述語の文法的意味に関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、叙法に関する理解の拡充をする。	
9回	授業内容	形容詞性述語から判断の表現形態へ	
	事前学修	「～らしい」をもちいた文をなるべく多様に挙げられるようにしておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
10回	授業内容	様態の表現と推量の表現とのつながりについて考える（話し合い学習）	
	事前学修	様態表現の推量化に関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、様態表現形式の推量辞化についての理解を拡充する。	
11回	授業内容	格標示から接続の表現への変化	
	事前学修	接続表現（複文）の理解をたしかめて、その文例をなるべく多様に挙げられるようにしておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
12回	授業内容	格形態の接続表現化をその中間過程の理解を中心に考える（話し合い学習）	
	事前学修	上記の問い合わせに関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、名詞の格標示形態と述語の接続表現形態とのつながりに関する理解の拡充をする。	
13回	授業内容	名詞化と名詞の文末表現化	
	事前学修	名詞の資格をもつ「～の」（準体助辞）をもちいた表現をなるべく多様につくれるようにしておく。	
	事後学修	今回の配布プリントを通読する。	
14回	授業内容	名詞の文末表現化について考える（話し合い学習）	
	事前学修	上記の問い合わせに関連する今回の予習課題をしてくる。	
	事後学修	話し合いの結果をふまえ、名詞の意味の抽象化と述語形式化とのつながりに関する理解を拡充する。	
15回	授業内容	総括・確認と試験	
	事前学修	授業で扱ったことからを復習し、不明部分については質問を用意しておく。	
	事後学修	試験結果をふまえ、的確な説明ができない部分をとくに復習する。	

◆教科書 当日資料配布 当日プリント配布

◆参考書

◆成績評価基準 (1)試験 20%, (2)予習課題 35%, (3)話し合いの成果（学習記録用紙の記載内容） 30%, (4)参加行動 15%。
「予習課題」はその回の授業の準備となる内容の課題である。「学習記録用紙」は上記参照。参加行動とは授業内の自発的な発言・質問等である。

◆授業相談（連絡先）: zaa40226@oak.zero.ad.jp

注意

講座内容 (シラバス)

〔アメリカ文学史〕

北原 安治

- ◆授業概要 アメリカの建国から20世紀までのアメリカ文学の流れを学び、各作家の特徴を理解できるようになる。
- ◆学修到達目標 テキストを最初から読んで行きます。文法構造を把握して、英文がしっかりと読めるようになる。映像資料を活用などして米文学史の全体的な流れを把握できるようになる。村上春樹の新訳のフィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』のDVDなど事前に見ておけば良い。28章のヘミングウェイまでは行きたい。
- ◆授業方法 予習テストと予習ノート検査（教科書の書き込みだけでは不可）をする場合がある。テキストの英文を手書きでノートに写す。手書き以外は不可。理想として28章まで予習。40人すべて予習してもよい。和訳を付ける。テキストの最後に参考文献があるので予習の参考にする。抜き打ちの実力テストをやる場合があるので辞書必携。試験は持ち込み無し。毎回テキストを間違う学生がいるので注意。薄手のテキスト。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を自安としています。
- ◆履修条件
- ◆授業計画〔各90分〕

授業内容	
1回	授業内容：映像資料、アメリカ先住民の文学およびジョン・スミス 事前学修：『アメリカ・インディアンの詩』（1977年）（中公新書）金関寿夫著参照 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
2回	授業内容：映像資料、『プリマス植民地』のプラッドフォードとアメリカ最初の詩人のプラッドストリート 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
3回	授業内容：映像資料、『大いなる自覚め』のエドワーズと『ヤンキースム』のフランクリン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
4回	授業内容：映像資料、ゴシック小説の先駆者のブロッケン・ブラウンと『リップ・ヴァン・ウインクル』のアーヴィング 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。アーヴィングの映画『スリービー・ホロウ』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
5回	授業内容：映像資料、歴史ロマンスのクーパーとロマン派の詩人ブライアント 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。クーパーの映画『モヒカン族の最後』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
6回	授業内容：映像資料、怪奇・推理小説のボウと『超絶主義』のエマーソン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。ボウの怪奇短編映画『世にも奇妙な物語』などを見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
7回	授業内容：映像資料、『ウォールデン』のソローとビューリタニズム批判のホーソン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。ホーソンの映画『紳士』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
8回	授業内容：映像資料、『白鯨』のメルヴィルと米代表詩人のホイットマン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。映画『白鯨』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
9回	授業内容：映像資料、孤独な心境を詠ったディッキンソンとリアリズムのトウェイン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
10回	授業内容：映像資料、心理主義のジェイムズと自然主義のクレイン 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。ジェイムズの映画『ある貴婦人の肖像』を見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
11回	授業内容：映像資料、環境決定論のドライサーとシカゴ・グループのサンドバーグ 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。ドライサーの映画テキスト『闇の当たる場所』を見ておく。47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
12回	授業内容：映像資料、深層心理のアンダーソンと自然を詠ったフрост 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
13回	授業内容：映像資料、ハーレム・ルネッサンスのヒューズと『バターン』のウイリアムズ 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
14回	授業内容：映像資料、『偉大なギャツビー』のフィッツジェラルドとノーベル賞作家ヘミングウェイ 事前学修：英文の自分なりの和訳をしておく。映画『偉大なギャツビー』を見ておく。ヘミングウェイの映画『老人と海』など見ておく。テキスト47ページの文献にあたっておく。 事後学修：講義での英文の和訳と予習の和訳を比べて間違いを確認。
15回	授業内容：アメリカ文学史の全体的まとめと試験 事前学修：講義の復習。正しい和訳と小論文の準備。 事後学修：アメリカ文学史の全体的復習。

◆教科書 因沼 セメスターシリーズ『An Outline of American Literature(アメリカ文学概観)』井上謙治編著 南雲堂 全48ページの薄いテキスト

◆参考書 因沼『アメリカ小説入門』 井上謙治著、研究社、1995年。この本は講義では使いません。図書館で参照。

◆成績評価基準 小テスト、試験などによる総合評価。手書きノート検査あり。必ず手書き。テキスト間違いや不携帯は不可。試験はテキストの和訳（テキスト全体からだと分量が多いので、講義中に指定する限定個所の和訳）と小論文（和訳がある程度できないと、小論文がいくらできても不可とする）。試験用紙裏面すべてに小論文を当てる。1000字以上書くこと。試験時間は100分ほどの予定。小論文タイトルは「ヘミングウェイとフィッツジェラルドのふたりの特徴と作品を論じる」。この2作家以外のことを書いてはいけない。書き方として全体論でも作品論でもよい。全体論は上の参考書の『アメリカ小説入門』にあるような2作家の全体的特徴と複数の代表作の説明を1000字以上使い、浅く広く書くものである。作品論は二人の作品からひとつずつ選び（短編でも長編でもよい）。例えばヘミングウェイの『老人と海』とフィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』の2冊に集中して深く論ずるものである（500字以上ずつ合計1,000字以上）。どちらの論じ方でもよい。事前にまとめておくこと。辞書やノートなどの持ち込みなし。2作家の作品名や登場人物名は日本語でよい。作品名はヒントとして試験の問題文に印刷しておく。最終試験、小テストなどの総合評価。皆出席を望むが、夜間の場合突然の仕事が入る社会人の学生があるので相談に応じる。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのは当然のことだからである。抜き打ちの実力テストを行う場合がある。ノート検査をして不備の者は不合格。テキストを買っていないものも不可とする。

◆授業相談（連絡先）：fra3in5@yahoo.co.jp

注意

講座内容 (シラバス)

〔経済地理学 / 経済地理〕

清水 和明

◆授業概要 経済地理学は、地表面上のあらゆる経済現象の地理的な拡がりを対象とする学問である。本授業では、経済地理学の研究領域の中でも産業立地に関する領域を扱う。とくに、古典的な立地論を取り上げ、その特徴について理解を深める。また、特定の産業や地域を事例に、経済現象の地理的な差異が生じる要因について解説をしていく。

◆学修到達目標 経済地理学の研究領域について理解を深め、その学問的な意義を専門用語を駆使して説明できるようになる。古典的な立地論の特徴について、自らの言葉で説明できるようになる。

産業立地に関する理論を応用して、現実の産業立地の要因を考察できるようになる。

◆授業方法 教科書の内容に基づいて、講義形式で進める。パソコンのプレゼンテーションソフトを利用する。随時、受講者に対して質問を行う。

◆履修条件

◆授業計画 [各 90 分]

回数	授業内容	経済地理学の研究領域	
		事前学修	事後学修
1回	授業の進め方を説明する。近代地理学の歴史を説明し、経済地理学が登場した背景を解説する。合わせて、各時代の経済地理学の潮流についても解説する。	テキストを一読し、経済地理学が対象とする領域について大まかな知識を得ておくこと。	テキストを一読し、経済地理学が対象とする領域について大まかな知識を得ておくこと。
2回	農業立地論の基礎と応用—チューネンの農業立地論の特徴とその意義— チューネンの農業立地論の概要およびその意義について解説する。現代の農業への適用可能性について説明する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、チューネンの農業立地論が登場する背景を把握しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用し、農業立地に関する理論の見所と短所を整理しておくこと。
3回	工業立地論の基礎と応用—ウェーバーの工業立地論の特徴— ウェーバーの工業立地論について、「輸送費指向論」、「労働費指向論」、「工業集積論」を中心に解説する。現実の工業への適用事例について解説する。	事前学修 チューネンの農業立地論の概要を整理するとともに、農業と工業の違いを整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、ウェーバーの工業立地論の特徴を整理しておくこと。
4回	中心地論の基礎と応用—クリスラーとレッシュの立地論— クリスラーとレッシュの立地論の特徴を説明するとともに、両者の理論を比較する。現代の商業・サービス業の立地との関係性についても解説する。	事前学修 日本国内を例に、都市の階層区分図を作成しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、それぞれの中心地理論の特徴を整理しておくこと。
5回	オフィス立地と都市システム—本社立地と都市システム— オフィス立地に関する理論について説明する。企業の本社立地が特定の地域に集中する理由について解説する。	事前学修 園による都市システムの違いについて情報収集しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、オフィス立地の特徴と都市システムのパターンを整理しておくこと。
6回	集積の理論—集積論の系譜と新産業集積論— 古典的な集積論であるマーシャルとウェーバーの集積論について説明する。その上で 1980 年代以降に登場した新産業空間論（スコット）や産業クラスター論（ボーター）の内容について解説する。	事前学修 ウェーバーの工業立地論における「工業集積論」の内容を復習しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、それぞれの理論の特徴を整理しておくこと。
7回	空間経済学—地理学と経済学の関係— 空間経済学の概要について説明するとともに、経済地理学との関係性について解説する。	事前学修 クルーグマンの新経済地理学について、テキストの該当箇所を読んでおくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、空間経済学の主要なテーマと経済地理学の関係性を整理しておくこと。
8回	現代工業の立地調整と進化経済地理学—立地調整と進化— 企業が事業展開を行っていく上で行う施設・機能の新設または再編がいかなる理由の下で展開しているのか、具体的な事例を踏まえて解説する。	事前学修 いわゆる「ロックイン効果」について、具体的な事例を調べておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、立地調整を構成する要素について整理しておくこと。
9回	グローバリゼーションと多国籍企業の立地—プロダクトサイクル理論— 多国籍企業の基礎理論であるプロダクトサイクル理論について解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、プロダクトサイクル理論と企業活動の関連性について整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、多国籍企業の立地展開を整理しておくこと。
10回	知識フローと地域イノベーションの新展開—産学公連携と地域イノベーション— 産業集積内の知識創造やイノベーションの生成に関わる枠組みについて説明する。合わせて、産学公連携と地域イノベーションの具体例を解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、専門用語の意味を調べておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、地域イノベーションが具体的にどのような現象を指すのか理解しておくこと。
11回	商業立地の刷新と中心市街地の衰退問題 小売企業の出店地位の時代変化とそれに影響を与えた規制について説明する。中心市街地の衰退と「フードデザート（食の沙漠）」の関連性についても解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、中心市街地の衰退が顕著になった要因を整理しておくこと。	事後学修 中心市街地の活性化に取り組む事例を調べ、現状と課題を整理しておくこと。
12回	創造性と文化産業の立地 文化産業が注目される背景について解説するとともに、具体的な産業を例にあげ、その立地特性を説明する。	事前学修 テキストの該当箇所を読み、文化産業とはどのような産業なのか整理しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、文化産業の立地特性について整理しておくこと。
13回	少子高齢化社会と福祉サービスの立地 福祉施設の立地格差をはじめ、保育サービスの立地について解説する。	事前学修 テキストの該当箇所を読んでおくこと。授業の終了が近いので、これまでの授業内容を再確認しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、これまでの授業で扱った内容を整理しておくこと。
14回	授業の総括	事前学修 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。	事後学修 テキストと配布資料を利用して、授業で扱った内容を整理しておくこと。
15回	試験の実施	事前学修 これまでの授業で扱った内容を熟読し、重要な点をノートに要約しておくこと。	事後学修 授業の内容を確認・理解し、経済地理学とはどのような学問か、再確認すること。

◆教科書 丸沼「現代の立地論」松原 宏編著 古今書院 2013 年

〔当日資料配布〕必要に応じて配布する

◆参考書 丸沼「日本経済地理読本 第9版」竹内淳彦・小田宏信編著 東洋経済新報社 2014 年

丸沼「新版 地域と産業—経済地理学の基礎—」富田和暁著 原書房 2006 年

丸沼「新版 経済地理学入門—地域の経済発展—」山本健児著 原書房 2005 年

丸沼「キーワードで読む経済地理学」経済地理学会編 原書房 2018 年

丸沼「経済地理学キーコンセプト」青山裕子・ジェームズ・T・マーフィー・スザン・ハンソン著 小田宏信・加藤秋人・遠藤貴美子・小室 譲訳 古今書院 2014 年

◆成績評価基準 毎時間出席することを前提として、試験および小レポートの結果を踏まえ総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：初回授業時に案内します。

注意

講座内容（シラバス）

【文章表現法】

山本 まり子

◆授業概要 ITが進化している今日、読み手に対して自分の考えを正しく伝える文章が以前に増して重視されている。このような中、我々は「わかりやすい文」を書くことに留意すべきである。本授業では、以下の内容について学ぶ。

- 1) わかりやすい文と対極をなすいわゆる「悪文」を取り上げ、どのような点でわかりにくいのか検討する。
- 2) 悪文を批判する目を養い、わかりやすい文への理解を深めることで、意思・考え・情報を的確に発信するための基礎力を身につける。
- 3) 日本語の特質を理解した上で、論文・手紙・文書等の作成手法による表現手法を習得する。

◆学修到達目標 具体的な事例（悪文）を批判的な視点で検討し、その上でさまざまな文章の作成方法、表現方法を習得する。

- 1) 結論がわかる構造を持ったわかりやすい文章とはなにか、という点について説明できる。
- 2) 自分の意思・考え・情報を的確な文章表現により発信できる。
- 3) わかりやすい各種文章（論文・手紙・文書・メール等）を作成することができる。

◆授業方法 メディア授業を実施する。指定する Google ドライブを使用し（その URL の伝達方法については後日告知する）、その ドライブ内において、教材（動画・pdf 資料）の配信、及び小テストの配信を行う。教材・小テスト（配信する動画内容に関する）の配信時期、小テストの提出（回収）期限を定める（期限の延長はしない）。詳しくは「事前送付資料」に記載。

◆履修条件 指定の期日までに授業担当者（山本まり子）宛にメールを送信すること。詳しくは「事前送付資料」に記載。

◆授業計画【各 90 分】

1回	授業内容	ガイダンス（授業概要・到達目標・授業の方法、及び本授業に関する評価基準等について補足説明を行う）、 【第1回 第1・2講】文章表現の基礎(1)
	事前学修	シラバスの事前確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内のデータ・事前送付資料の内容確認を行う。小テストの解答をもとに自己採点を行い、内容整理も行う。
2回	授業内容	【第1回 第3・4講】文章表現の基礎(1)
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
3回	授業内容	【第2回 第1・2講】文章表現の基礎(2)
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
4回	授業内容	【第2回 第3・4講】文章表現の基礎(2)
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
5回	授業内容	【第3回 第1・2講】論文
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
6回	授業内容	【第3回 第3・4講】論文
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
7回	授業内容	【第4回 第1・2講】敬語
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
8回	授業内容	【第4回 第3・4講】敬語
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
9回	授業内容	【第5回 第1・2講】手紙(1)
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
10回	授業内容	【第5回 第3・4講】手紙(1)
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
11回	授業内容	【第6回 第1・2講】手紙(2)・文書・メール
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
12回	授業内容	【第6回 第3・4講】手紙(2)・文書・メール
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
13回	授業内容	【第7回 第1・2講】韻文
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
14回	授業内容	【第7回 第3・4講】韻文
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。
15回	授業内容	【第8回 第1・2・3・4講】俳句
	事前学修	Google ドライブ内のデータの内容確認を行う。
	事後学修	Google ドライブ内の小テストの解答をもとに自己採点を行い、学修内容の復習を行う。

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 当日資料配布

◆成績評価基準 小テスト：90%
提出物：10%

◆授業相談（連絡先）：「事前送付資料」に記載。

注意

講座内容（シラバス）

〔イギリス文学史Ⅰ〕 オープン受講：不可

常名 朗央

◆授業概要 毎回配布するプリントを使い、各時代の政治・文化的な状況とその時代の文学作品を時系列ごとに学んでいきます。各講義の終わりに次回取り扱うテキストの説明をします。指定したテキスト（作品）を図書館などで見つけて熟読しておくことが望ましいのですが（購入の必要はありません）、内容を把握しておくだけでも充分です。興味を持った作品は是非翻訳本で読むようにしてください。

◆学修到達目標 シェイクスピア、ミルトン、オースティン、ペトラルカ（イタリア作品）、ラブレー（フランス作品）などの作品（翻訳）を抜粋して読むことで、18世紀までのイギリス文学史を歐州文学史の視点から時系列で理解できるようになります。さらに、各時代の主要作品を原文と日本語訳数点を対訳、考察することによって、各文学作品を時代背景や小説技法の観点から解釈、評価が出来るようになります。

◆授業方法 授業前半は各時代の特徴を政治的・文化的アプローチから解説します。イギリス文学を理解するためには、ヨーロッパ史という観点から簡単な政治史と文化史の理解が不可欠なので併せて説明します。授業後半は、各時代の作品を抜粋して読んでいきます。それぞれの時代の特徴には違いがありますのでそれを理解してください。英語作品以外も読んでいきますが、全て翻訳本です。

◆履修条件

◆授業計画〔各90分〕

回	授業内容	事前学修	事後学修
1回	古英語の時代、ローマのブリタニア侵入によるラテン語の導入、キリスト教の布教、アングロ・サクソン族の建国などイギリス文学の黎明期に起きた出来事を解説します。	ギリシャ・ローマ時代の開心ある作品を考えておいてください。	プリントで紹介した古代イングランドの歴史（ノルマンコンクエストまで）を各自まとめおいてください。
2回	授業内容：「ガリア戦記」、ブリタニア侵入の箇所を抜粋して読みます。カエサルの平明で簡潔な文章を感じ取ってください。	ローマ時代の作品と作者を調べておきましょう。	「ガリア戦記」の第四巻と第五巻を読んでおきましょう。
3回	授業内容：「カンタベリー物語」、イギリス文学の誕生ともいえるこの時代に登場した「宫廷風恋愛」を学びます。	「カンタベリー物語」の挿話の一つを読んでおいてください。	宫廷風恋愛についてまとめておきましょう。
4回	授業内容：「アーサー王の死」、この作品は騎士道物語の集大成といえます。ランスロット卿と王妃グイネヴィアとの達瀬の箇所から、典型的な宫廷風恋愛を学んでいきます。	「ガウェイン卿と緑の騎士」（トールキン）について調べてください。	アーサー王の人物関係図を理解してください。
5回	授業内容：「カンツォニエーレ」、宫廷風恋愛を下地に、独自の恋のソネットを生み出し中世ヨーロッパの規範となったペトタルカ風ソネットから数点を読みます。	ボッカチオの「デカメロン」について調べてください。	イタリアルネサンスの文人について確認しておきましょう。
6回	授業内容：ルネサンスとは？ ダンテの登場に端を発すイタリアルネサンス同様、イングランドでもルネサンス運動がありました。その定義を学びます。	各自が考える「ルネサンス」とは何でしょうか。調べてみましょう。	エリザベス朝時代の文芸運動についてまとめておきましょう。
7回	授業内容：小説の誕生① 16世紀に入りこれまでの劇詩・韻文に加えて新たな文学ジャンルとして「小説」が誕生しました。今回は小説の定義について学びます。	「ガルガンチュアとパンタグリュエル」について調べておきましょう。	小説の定義についてまとめ、内容を確認してください。
8回	授業内容：「ロミオとジュリエット」扱うテーマは限りなくありますが、ここでは時代背景、中世の恋愛をテーマに作品解説をします。	「ロミオとジュリエット」を読んでおくようにしてください。	この作品の悲劇性・喜劇性についてまとめておいてください。
9回	授業内容：「リシダス」、このジョン・ミルトンの牧歌的哀歌を精読して、牧歌の定義について学びます。	ミルトンの生涯について調べておきましょう。	ヨーロッパ文学がいかにギリシャ・ローマの作品から影響を受けているかを理解してください。
10回	授業内容：小説の誕生② 他の歐州諸国に遅れること百年、イングランドでも韻文に代わって散文文学（小説）が発展します。小説という「ジャンル」について学びます。	18世紀のイングランド小説について調べておきましょう。	小説とジャーナリズムの関係についてまとめてください。
11回	授業内容：「ロビンソン・クルーソー」、イングランド小説の祖と言われる本作品から、小説とジャーナリズムについて学びます。	18世紀のイングランドの政治・経済状況を調べておきましょう。	散文と韻文の違いを理解してください。
12回	授業内容：「高慢と偏見」、イングランド小説の完成形と言われるジェーン・オースティンを読みます。	オースティン作品について調べておきましょう。	作中の人物関係図を整理しましょう。
13回	授業内容：「不思議の国のアリス」、18世紀から19世紀には児童文学というジャンルが登場します。本作品を抜粋して精読しましょう。	本作品を読んでおいてください。	この作品を児童文学とみると、あるいは風刺かパロディかなどを各自がジャンル化してまとめてください。
14回	授業内容：「ティビッド・カバーフィールド」、小説がエンタテインメントとして確立した時代のディケンズの本作品を吟味します。	内容だけでも調べておきましょう。	本作が「教養小説」になっているかをまとめてください。
15回	授業内容：全体のまとめと試験	指定された箇所をまとめて試験対策とするように。	これまで扱った作品を出来るだけ多く読んでください。

◆教科書 「当日資料配布」「当日配布資料」 当日プリントを配布します。

◆参考書 丸沼「イギリス名詩選」 平井正穂編 岩波文庫
丸沼「イギリス文学史」 川崎寿彦著 成美堂

◆成績評価基準 試験とレポートにより総合的に判断します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

〔宗教学概論〕

富田 真浩

- ◆授業概要 日本人の伝統・文化の一部となっている大乗仏教の歴史や思想を、客観的な宗教学の視点から、そして、信仰を持っている者の視点から学習する。2つの視点から学習するだけではなく、より客観的に宗教現象を観察する力を身に付けられるように、他の受講生の捉え方を知る機会を重視する。
- ◆学修到達目標 世界三大宗教の1つである仏教の、特に日本人の伝統・文化に多大な影響を与えていた大乗仏教の思想や歴史に対する知識を身に付け、その上で、様々な宗教現象を客観的に観察する宗教学的態度を身に付けることを第一の目標とする。重要な用語や基本的な思想を把握し、その他の宗教との相違点を比較研究できる基礎力を養うことを第二の目標とする。
- ◆授業方法 教科書の内容を解説する講義形式で授業を進めることを中心とする。また、毎回の授業で学生に記入させるリアクション・ペーパーの内容に対して、次回の授業の冒頭で回答する形式とする。受講者数や授業進度の関係で全てに回答できない場合もあるが、自分以外の多様な考え方を知り視野を広げてほしいので、できるだけ多く回答する。また、受け身の姿勢ではなく、身近な宗教に関心を持ち、積極的に授業参加することを望む。

◆履修条件

◆授業計画【各 90 分】

1回	授業内容：宗教学概論 宗教学の基本的な考え方について説明します。 事前学修：参考書を購入している場合は、参考書を熟読してくること。また、シラバスに目を通していくこと。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
2回	授業内容：仏教の東アジアでの展開 大乗仏教が中国・日本へどのように展開したかを説明します。 事前学修：テキスト 20～21 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
3回	授業内容：大乗仏教の教え(1) 大乗仏教の仏について説明します。 事前学修：テキスト 22～23 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
4回	授業内容：大乗仏教の教え(2) 大乗仏教の菩薩について説明します。 事前学修：テキスト 14～15 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
5回	授業内容：仏教の日本の宗派(1) 奈良から平安時代を中心に日本仏教の特徴について説明します。 事前学修：テキスト 26～29 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
6回	授業内容：仏教の日本の宗派(2) 鎌倉時代以降を中心に日本仏教の特徴について説明します。 事前学修：テキスト 26～27 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
7回	授業内容：大乗仏教の救いのシステム(1) 大乗仏教で救われる仕組みについて概略を説明します。 事前学修：テキスト 12～13 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
8回	授業内容：大乗仏教の救いのシステム(2) 法華信仰と浄土信仰について説明します。 事前学修：テキスト 14～15 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
9回	授業内容：仏教の日本の宗派(3) 法然を中心に浄土信仰の宗派について説明します。 事前学修：テキスト 30～31 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
10回	授業内容：仏教の日本の宗派(4) 親鸞を中心に浄土信仰の宗派について説明します。 事前学修：テキスト 30～31 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
11回	授業内容：淨土真宗中興の祖・蓮如について 昨年担当教員が学会発表した内容について解説します。 事前学修：テキスト 22～23, 30～31 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
12回	授業内容：仏教の日本の宗派(5) 法華信仰の宗派について説明します。 事前学修：テキスト 32～33 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
13回	授業内容：インドの八大仏跡について(1) 佛陀降誕の地から涅槃の地までの通過儀礼の地を中心として 事前学修：テキスト 6～9 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
14回	授業内容：インドの八大仏跡について(2) 説法の地を中心として 事前学修：テキスト 6～9 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、図書館などで調べて理解しておくこと。
15回	授業内容：仏教の日本の宗派(6) 禅の宗派について説明します。 事前学修：テキスト 34～35 ページを熟読してくること。 事後学修：授業の内容を整理し、分からぬ単語等があれば、その場で教員に質問をし、試験に備えること。

◆教科書 因沼『エッセンシャル版 図解 世界5大宗教全史』中村圭志 ディスカバー・トゥエンティワン 2016

◆参考書 並河『宗教学概論 P30400』通信教育教材（教材コード 000139）

◆成績評価基準 毎回配布するリアクション・ペーパーを中心として授業への取り組みを平常点として評価します（40%）。なお毎回出席することを前提として評価します。

最後の授業で試験を実施します（60%）。試験は教科書・ノート等すべて持ち込み不可とします。

◆授業相談（連絡先）：授業の前後と、授業と授業の合間の休憩時間に質問を受け付けます。

masairo18@yahoo.co.jp

注意

講座内容（シラバス）

【社会政策論／社会政策】 オープン受講：不可

長谷川 有里

◆授業概要 社会政策が対象とする分野は広範囲におよびます。労働問題をはじめ、以前から課題とされてきた少子高齢化問題、国民全体の生活の保障などです。その中でも本講義では、私たちの生活に密接に関わっている社会保障制度に焦点をあて、各制度の役割などについて学習します。

◆学修到達目標 各制度の創設背景などの歴史的な過程をたどりながら、それぞれの制度に関する基本的理念と役割について要点を説明できるようになる。

◆授業方法 基本的に講義形式でおこないます。また、毎回授業終了前にリアクションペーパー作成の時間を設けます。リアクションペーパーには、主に受講内容について受講生自らが重要と感じたポイントについてまとめてもらいます。質問に関しては次回以降の授業で回答します。なお、小テストは適宜おこないます。

◆履修条件 令和元年度夜間スクーリング（秋期）「社会政策論／社会政策」との積み重ね不可

◆授業計画【各 90 分】

1回	授業内容：ガイダンス、社会政策とは何か 事前学修：シラバスを参考に授業全体の流れや内容を理解しておくこと。 事後学修：授業の内容を整理し、理解を深める。
2回	授業内容：社会政策を取り巻く環境（社会政策をどうとらえるか） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：授業の内容を整理し、理解を深める。
3回	授業内容：社会保障制度の歴史①（世界の社会保障の流れ） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：各国の特徴を整理し、理解を深める。
4回	授業内容：社会保障制度の歴史②（日本の社会保障の流れ） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：日本の特徴を整理し、諸外国と比較しながら理解を深める。
5回	授業内容：社会保障制度の概要（体系、機能、財源など） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：さまざまな制度の関係性などを整理し、理解を深める。
6回	授業内容：少子高齢化・雇用と社会保障（人口問題や社会環境の変化など） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：授業の内容を整理し、理解を深める。
7回	授業内容：医療保険制度の概要①（制度の変遷など） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：医療保険の必要性などを考えながら授業の内容を整理し、理解を深める。
8回	授業内容：医療保険制度の概要②（制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：各種制度の特徴を整理し、理解を深める。
9回	授業内容：年金保険制度の概要①（制度の変遷） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：年金保険制度成立の背景などについて理解を深める。
10回	授業内容：年金保険制度の概要②（制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：各種制度の特徴や特例制度を整理し、理解を深める。
11回	授業内容：介護保険制度（制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：制度の内容を整理し、理解を深める。
12回	授業内容：雇用保険制度（制度の変遷、制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：制度の内容を整理し、理解を深める。
13回	授業内容：労働者災害補償保険（制度の変遷、制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：制度の内容を整理し、理解を深める。
14回	授業内容：生活保護制度（制度の概要） 事前学修：前回授業で出されたキーワードを調べておく。 事後学修：制度の内容を整理し、その特徴について理解を深める。
15回	授業内容：まとめ・試験 事前学修：これまで学んだことの要点を整理すること。 事後学修：社会保障制度の意義などを整理し、理解を深める。

◆教科書 【当日資料配布】 講義の当日にプリントを配布します。

◆参考書 授業時に適宜紹介します。

◆成績評価基準 毎回の授業への出席を前提として、授業への参加度・リアクションペーパー・小テスト・最終試験で総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

注意

講座内容（シラバス）

【会計学】 オープン受講：不可

青木 隆

◆授業概要 この授業は、会計学の入門編として財務会計の基礎を学修します。財務会計とは、企業外部の利害関係者（株主・債権者等）を報告対象とする会計領域であり、その報告内容は、主に貸借対照表や損益計算書といった財務諸表です。この財務諸表の作成過程が複式簿記です。そのため、会計学の理論的な側面だけでなく、複式簿記における実際の仕訳例なども示しながら、計算的な側面でも理解できるように授業を進めていきます。簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。

◆学修到達目標 1. 財務会計に関する基本的な考え方方が理解できるとともに、それを説明できるようになる。
2. 財務会計の理論的な側面と計算的な側面を相互に連繋させて説明できるようになる。
3. 財務諸表の種類およびその内容について説明できるようになる。

◆授業方法 まずテキストおよび当日配布資料をもとに、財務会計の基本的な考え方を具体的な仕訳例などを用いながら解説します。次に、各单元終了後、出次の確認のため、当日の講義内容に基づく確認テストを行います。また、この確認テストとは別にレポート課題を全体で3回実施します。講義最終日に試験を実施します。

◆履修条件 簿記論Ⅰを履修済みまたは履修中であることが望ましい。

◆授業計画【各 90 分】

1回	授業内容 財務会計とは何か、また財務会計を学修するうえで必要不可欠な基礎的な前提を説明します。 事前学修 (テキスト) 3～13 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
2回	授業内容 貸借対照表や損益計算書といった主要財務諸表の概要を説明し、その作成プロセスとなる複式簿記の概要を説明します。 事前学修 (テキスト) 13～40 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
3回	授業内容 貸借対照表の様式と分類基準 貸借対照表の能力と評価 貸借対照表の表示の仕方や分類を説明したうえで、貸借対照表に表示される項目や金額の要件などを説明します。 事前学修 (テキスト) 41～56 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
4回	授業内容 流动資産の会計 貸借対照表の資産のうちで比較的の短期間に現金化される流动資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 56～70 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
5回	授業内容 有形固定資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有する有形固定資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 70～84 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
6回	授業内容 無形固定資産・投資その他の資産と繰延資産の会計 貸借対照表の資産のうちで使用や投資に用いる固定資産の中で、具体的な存在形態を有しない無形固定資産や投資その他の資産、さらに資産の中では異質な特徴を有する繰延資産の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 84～96 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
7回	授業内容 流动負債と固定負債の会計 貸借対照表の負債のうち、引当金を除く流动負債および固定負債の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 96～103 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
8回	授業内容 引当金の会計 引当金の要件や根拠、各種引当金の概要について説明します。 事前学修 (テキスト) 103～115 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
9回	授業内容 純資産の会計(1)－資本金と資本剰余金の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、株主が払い込んだ部分を構成する資本金および資本剰余金の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 115～133 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
10回	授業内容 純資産の会計(2)－利益剰余金等の会計 貸借対照表の純資産の中で、株主に帰属する株主資本のうち、過去の利益の蓄積額である利益剰余金、また株主資本以外の純資産を構成する評価・換算差額等、新株予約権の会計について説明します。 事前学修 (テキスト) 133～152 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
11回	授業内容 損益計算書の分類と営業損益の計算 損益計算書の分類を概観したうえで、主たる営業活動から生じる損益である営業損益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 153～174 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
12回	授業内容 営業外損益・特別損益・当期純損益の計算 主たる営業活動以外の活動から生じる損益である営業外損益、特別損益および当期純利益の計算について説明します。 事前学修 (テキスト) 174～183 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
13回	授業内容 損益計算に対する基本思考 損益計算に対する基本的考え方について説明します。 事前学修 (テキスト) 183～190 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
14回	授業内容 企業会計原則における一般原則 財務諸表の作成指針となる一般原則としての立場を有する、企業会計原則における一般原則について説明します。 事前学修 (テキスト) 203～207 ページを通読 事後学修 テキストおよびレジュメの内容を整理し、確認テストの内容を復習
15回	授業内容 授業のまとめおよび試験 これまでの講義の総括を行った後に試験を行います。 事前学修 これまでの講義内容を整理しておいてください。 事後学修 試験の内容を整理してください。

◆教科書 国沼「基礎財務会計（最新版）」五十嵐邦正 森山書店
【当日資料配布】

◆参考書 国沼「演習財務会計（最新版）」五十嵐邦正 森山書店
国沼「会計法規集（最新版）」中央経済社

◆成績評価基準 毎回出席することを前提に試験（70%）、レポート（30%）により総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：担当教員の研究室のメールアドレス aoki.takashi36@nihon-u.ac.jp

注意

講座内容（シラバス）

〔教育制度論〕 オープン受講：不可

窪 和広

◆授業概要 現代の社会状況を理解しながら、その変化が学校教育に与える影響や課題、それに対応する法的・制度的仕組みについて理解する。また、学校と地域連携の意義や取り組みについて理解する。さらに危機管理を含む学校安全の目的と取り組みについて理解する。講義で取り上げる内容については、担当者自身が教育現場で経験したこと用いて、授業に反映している。

◆学修到達目標 ・現代社会の変化にともなう教育制度上の課題について理解し、説明することができる。

- ・現代の学校教育に関する意義・原理・構造を理解し、その法的・制度的又は経営的事項について理解し、説明することができる。
- ・学校と地域との連携・協働のあり方について理解し、説明することができる。
- ・学校安全への対応に関する基礎的な知識を身に付ける。

◆授業方法 講義を中心としますが、受講生に対する質疑応答やディスカッション、発表も行います。課題についての解説等は、課題の提出締切後に行います。授業に関する質問については、受講生の皆さんに次回以降の授業でフィードバックします。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

◆授業計画〔各 90 分〕

1回	授業内容	オリエンテーション：教育制度とは何か 授業の内容・評価方法・学校教育をめぐる動向について
	事前学修	シラバスを事前に読み、教育制度に関する問題を考えておくこと。
	事後学修	第2回以降の授業に備え、教育に関する法則についてまとめておくこと。
2回	授業内容	近代学校制度の成立と発展
	事前学修	テキスト序章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	近代学校制度の発展について復習し、整理しておくこと。
3回	授業内容	「教育を受ける権利」と「教育の義務」、日本国憲法・教育基本法
	事前学修	テキスト序章を読み、日本国憲法の教育に関する条文と教育基本法を読んでおくこと。
	事後学修	日本国憲法の教育に関する条文と教育基本法を読み、「教育を受ける権利」と「教育の義務」について復習し、理解しまとめておくこと。
4回	授業内容	学校選択制度
	事前学修	テキスト第1章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	学校選択制度について復習し、小レポートに取り組み提出すること。
5回	授業内容	学級の運営と経営
	事前学修	テキスト第2章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	「学級」制度について復習し、課題を整理しまとめておくこと。
6回	授業内容	学習指導要領と学力観の変遷
	事前学修	テキスト第3章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	学習指導要領と学力観の変遷について復習し、課題をまとめておくこと。
7回	授業内容	教育委員会制度の意義と役割・新教育委員会制度
	事前学修	テキスト第4章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	教育委員会制度の意義・役割を理解し、教育委員会制度の問題点をまとめ、小レポートに取り組み提出すること。
8回	授業内容	教師の仕事と教師の専門職性
	事前学修	テキスト第5章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	教師の仕事と専門職性について整理し、まとめておくこと。
9回	授業内容	学校・教師と地域の連携
	事前学修	テキスト第5章第4節を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	学校・教師と地域連携について復習し、課題をまとめておくこと。
10回	授業内容	学力テスト・学力調査・教育評価
	事前学修	テキスト第3章第1節～第2節、第6章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	学力テスト・学力調査について復習し、課題を整理し、小レポートに取り組み提出すること。
11回	授業内容	日米の格差社会の現状・格差と教育
	事前学修	テキスト第7章を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	日米の格差社会の現状や格差と教育の関係について復習し、まとめておくこと。
12回	授業内容	多様なニーズへの対応：「障がい」・「貧困」と教育課題
	事前学修	テキスト第8章を読み、内容を理解しておくこと。
	事後学修	「障がい」・「貧困」の教育における課題について、まとめておくこと。
13回	授業内容	学校安全の取り組み
	事前学修	事前に配布した資料を読み、内容を理解しまとめておくこと。
	事後学修	自然災害時の学校の対応の事例を調べ、小レポートに取り組み提出すること。
14回	授業内容	日本の教育制度と教育課題
	事前学修	テキスト終章をあらかじめ読み、日本の教育課題について意見をまとめておくこと。
	事後学修	授業の内容を復習し、日本の教育課題についてまとめておくこと。
15回	授業内容	授業のまとめと最終レポート
	事前学修	これまでの学習内容を整理し、まとめておくこと。
	事後学修	学習した内容を整理し、最終レポートに取り組み提出すること。

◆教科書 丸沼『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える 18 の課題～』 北野秋男 啓明出版 2017 年

◆参考書 丸沼『新版 初めて学ぶ教育行政・制度経営』 牛渡淳編著 金港堂 2020 年

丸沼『新版 教育と法のフロンティア』 伊藤良高他編著 晃洋書房 2020 年

丸沼『危機に立つ教育委員会』 高橋寛人 クロスカルチャー出版 2013 年

◆成績評価基準 授業への取組み（10%）、課題の提出（40%）、最終レポート（50%）とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆授業相談（連絡先）：

注意